Carol&Life

1996～

※1.「Carol & Life」を作成の為、CAROL(キャロル)に関する資料 / 説明を、マツダホームページ又、カタログなどの資料より「マツダ」「オートザム」「キャロルマツダ株式会社」著より抜粋して引用させて頂きました。

※2.記載されている写真の色は印刷など都合により実際の商品と異なることがあります。

※3.記載されている内容には、記載後によるその後の変更及び記載ミス等がありえますので記載内容は参考情報とし、最終確認はメーカー等にご確認ください。

※4.資料の作成にて原本等の資料よりデーター化しております、しかし、当方の都合上にてファイル容量の都合、また作成時の加工にてクオリティー等の低下が見られますが、ご了承頂けたら幸いです。

※5.詳しい内容は「Carol & Life」ホームページ内へ記載の(「Carol & Life」についてへ。)をご覧ください。

mazda

CAROL

取扱書

このたびは、キャロル を
お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  ⚠警告、**⚠注意**、**アドバイス** は、とくにしっかりお読みください。

⚠警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害を生じる可能性が想定される内容です。**
⚠注意	**取扱いを誤ると、傷害を負う可能性がある、または物的損害の発生が予想される内容です。**
アドバイス	お車のために守っていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「✕」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については別冊のメンテナンスノートに記載していますので、本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、マツダ販売店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

ご愛車に関するメモ

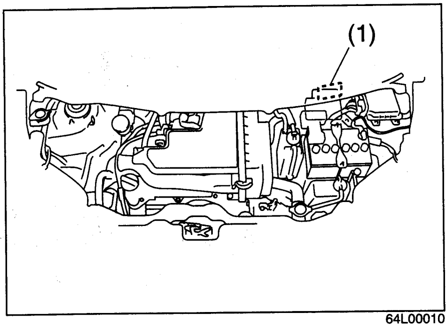
記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをご覧ください。

ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	K6A型
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	□マニュアルミッション □オートマチックミッション(※)
ナンバープレート(車両番号)	
ご購入年月日	年　月　日

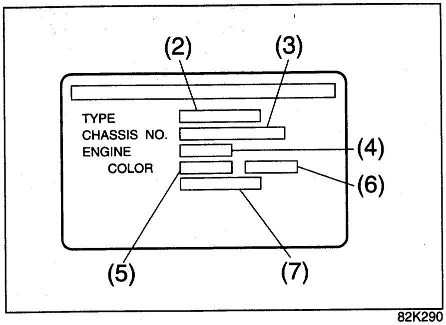
※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「4AT車」と「CVT車」の両方を示しています。

IDプレート（1）

エンジンルームに貼付してあります。



64L00010



82K290

(2) 車両型式　(3) 車台番号
(4) エンジン型式　(5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組み合わせコード
(7) 営業機種記号(補助記号)

総合目次

1 イラストもくじ

イラストもくじ ………………………… 1-2

2 必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ……………… 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ………………………… 3-2

警報装置 ………………………… 3-16

ウインドーの開閉 ………………………… 3-18

各部の調節 ………………………… 3-22

シートの調節 ………………………… 3-25

シートベルト ………………………… 3-34

SRSエアバッグ ………………………… 3-40

メーター ………………………… 3-49

スイッチの使いかた ………………………… 3-60

4 運転するときは

エンジン始動 ………………………… 4-2

パーキングブレーキ ………………………… 4-12

チェンジレバー ………………………… 4-13

オートマチック車 ………………………… 4-14

ABS ………………………… 4-24

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-2
オーディオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7
その他の装備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-24

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2
寒冷時の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-6

7 万一のとき

パンク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2
バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-9
ヒューズ切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-11
電球切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-14
オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-17
その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-19

8 サービスデータ

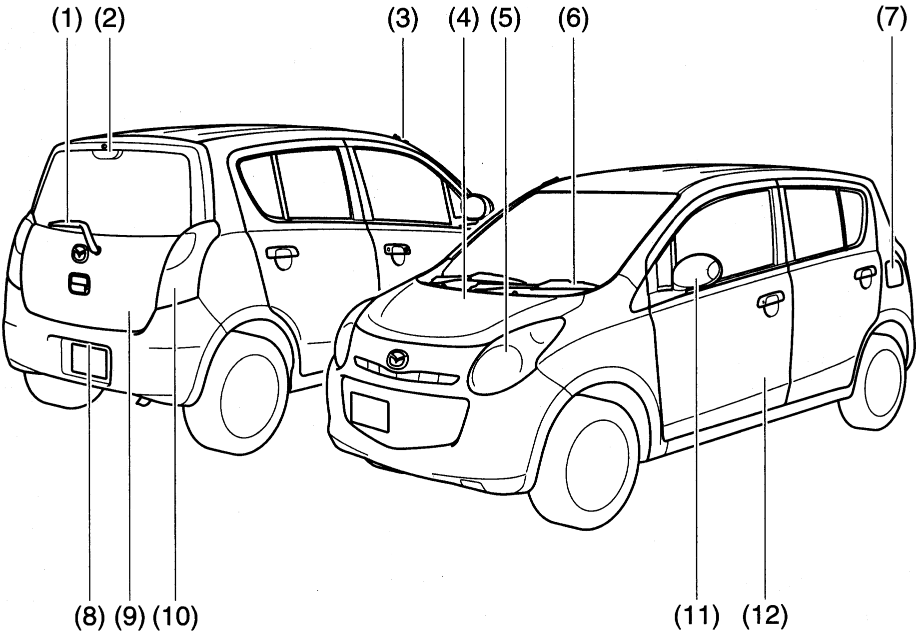
サービスデータ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1

9 さくいん

さくいん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9-1

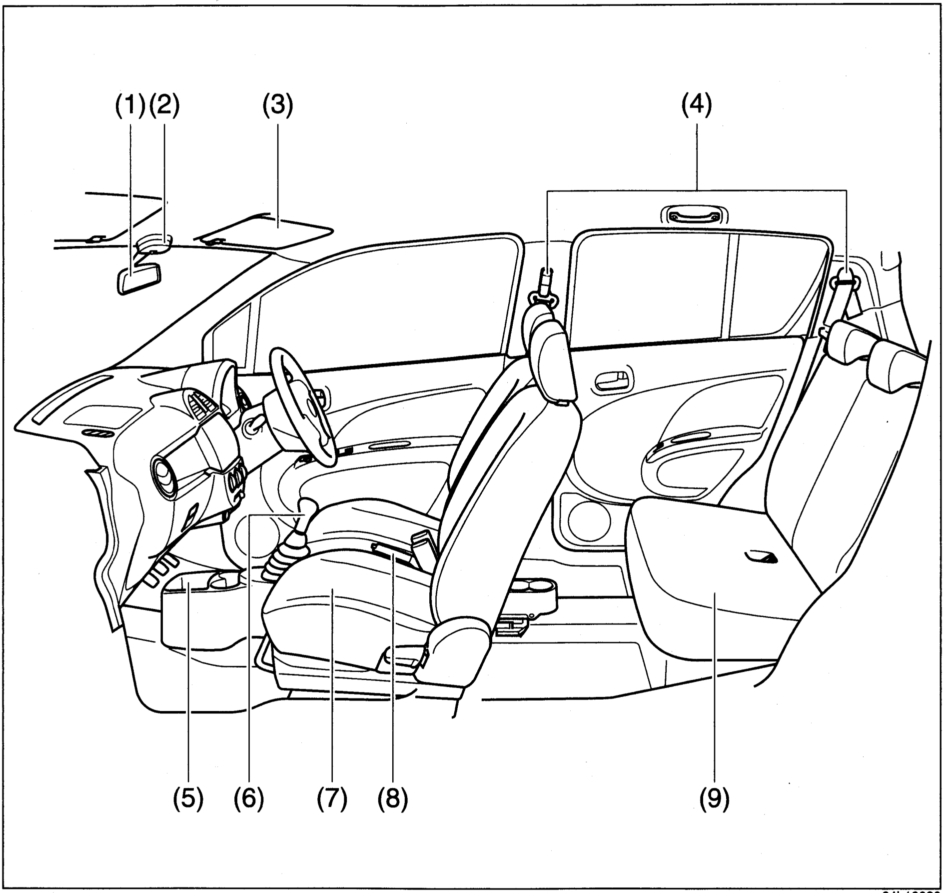
イラストもくじ

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



64L10010

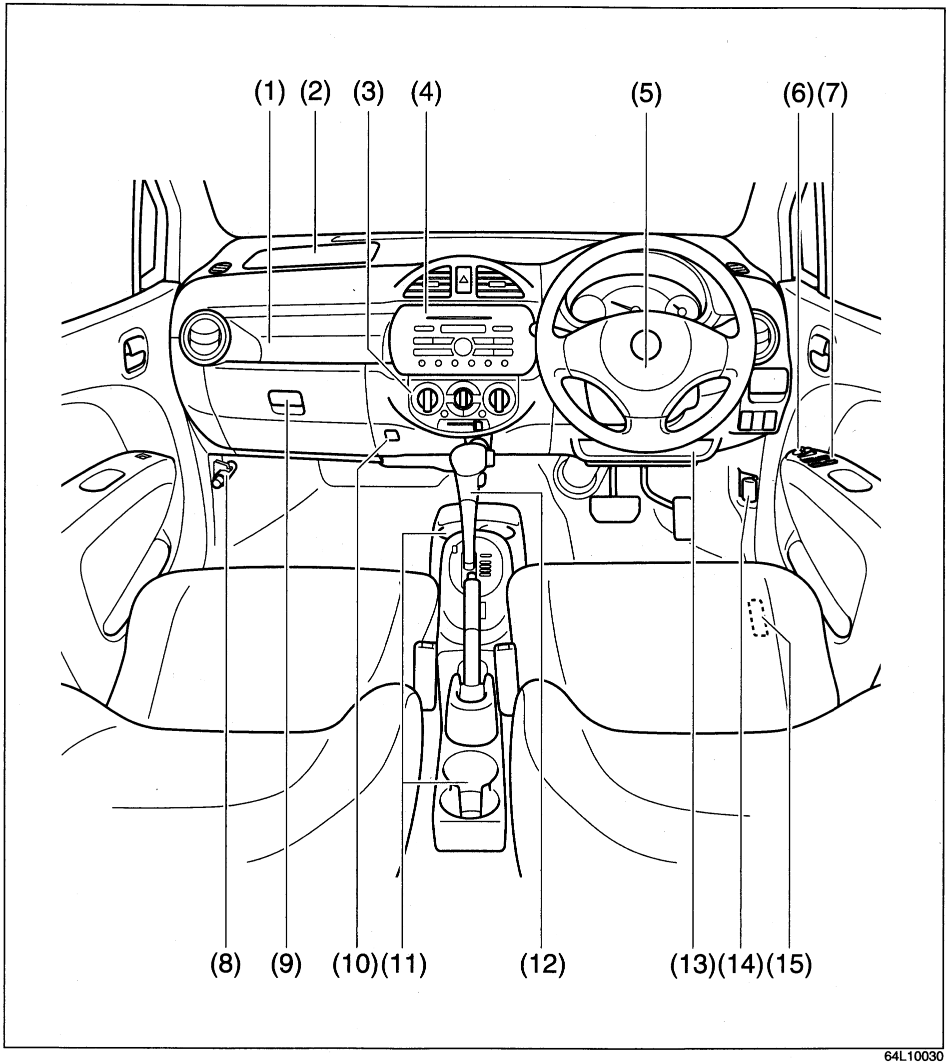
(1) リヤワイパー…………3-65
(2) ハイマウントストップランプ…………7-17
(3) アンテナ ……………5-7
(4) ボンネット …………5-25
(5) ヘッドライト…… 3-60、7-15
(6) フロントワイパー………3-64
(7) 燃料給油口（フューエルリッド）……5-24
(8) 番号灯 ………………7-17
(9) バックドア …………… 3-4
(10) リヤコンビネーションランプ …………7-17
(11) ドアミラー …………3-23
(12) ドア ………………… 3-4



64L10020

(1) ルームミラー ･･････････ 3-22
(2) 室内灯 ･･･････････････ 5-28
(3) サンバイザー ･･････････ 5-27
(4) シートベルト ･･････････ 3-34
(5) コンソールポケット ････ 5-32
(6) チェンジレバー
(マニュアル車) ････････ 4-13
クラッチスタートシステム
(マニュアル車) ････････ 4-9
(7) 前席シート ･･････････ 3-25
(8) パーキングブレーキ ･･･ 4-12
(9) 後席シート ･･････････ 3-28

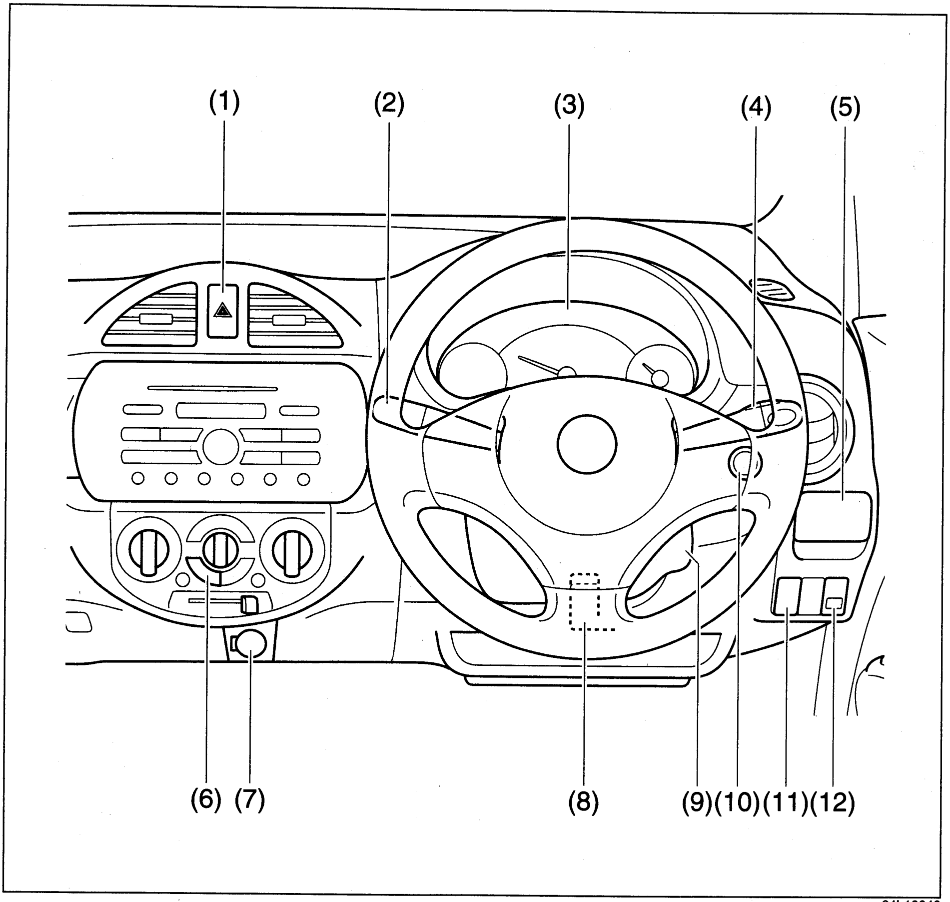
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



64L10030

(1) インパネトレイ
(助手席) ……………… 5-31
(2) 助手席SRSエアバッグ ‥ 3-43
(3) エアコン、ヒーター …… 5-2
(4) オーディオ …………… 5-7
(5) 運転席SRSエアバッグ‥ 3-43
ホーンスイッチ ……… 3-65
(6) ドアミラー角度調節／
格納スイッチ ……… 3-23
(7) パワーウインドー
スイッチ …………… 3-18
(8) 発炎筒 ……………… 7-19
(9) グローブボックス …… 5-30
(10) ショッピングフック … 5-34
(11) ドリンクホルダー …… 5-33
(12) セレクトレバー
(オートマチック車) …. 4-14
(13) インパネアンダートレイ
(運転席) ……………… 5-31
(14) ボンネットオープナー ‥ 5-25
(15) フューエルリッド
オープナー ………… 5-24

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

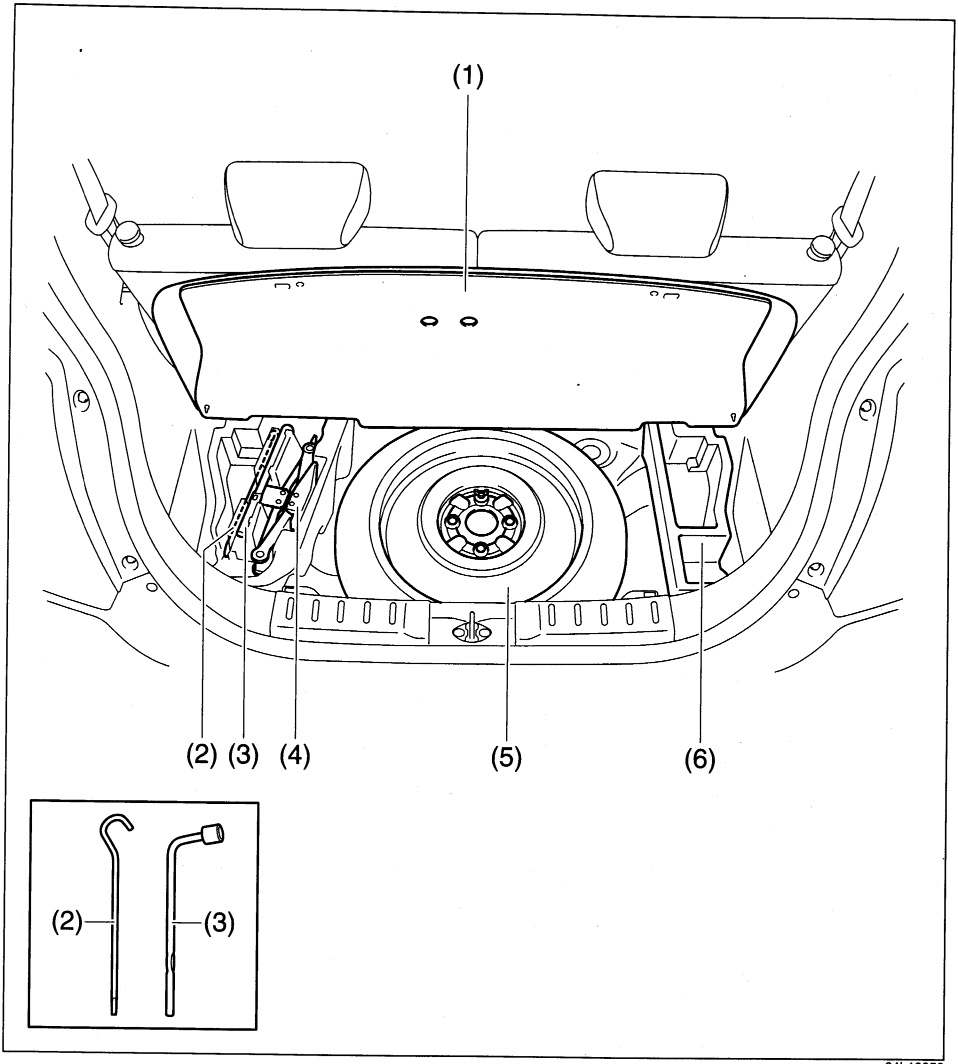


64L10040

(1) 非常点滅灯スイッチ ････ 3-63
(2) ワイパー／ウォッシャースイッチ ････････････ 3-64
(3) メーター ･･･････････････ 3-49
メーターのディスプレイ ･････････････････････ 3-50
警告灯･表示灯 ･････････ 3-52
(4) ライトスイッチ ･････････ 3-60
方向指示器スイッチ ････ 3-63
(5) ドリンクホルダー ･･････ 5-32
(6) リヤデフォッガースイッチ（ドアミラーヒーター非装備車）･･････････････････････ 3-66
ドアミラーヒーター＆リヤデフォッガースイッチ（ドアミラーヒーター装備車）･･････････････ 3-24、3-66
(7) アクセサリーソケット ･･ 5-30
(8) チルトステアリング ･･･ 3-24
(9) エンジンスイッチ（プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車）･････････････4-2
(10) エンジンスイッチ（プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車）･･･････････････4-2
(11) シートヒータースイッチ（運転席のみ）･･････････ 3-28
(12) 光軸調整ダイヤル ････ 3-62

1

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



(1) フロアボード・・・・・・・・・・・・7-2
(2) ジャッキバー・・・・・・・・・・・・7-2
(3) ホイールナットレンチ・・・・7-2
(4) ジャッキ ・・・・・・・・・・・7-2、7-6
(5) 応急用スペアタイヤ ・・・・・ 7-3
(6) ラゲッジアンダー
　　サイドボックス ・・・・・・5-34

警告ブザーが鳴ったときは

■ 全車共通

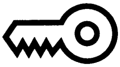
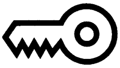
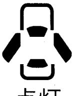
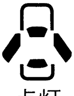
いつ	ブザー音 (室内ブザー)	メーター	原因と対処方法
エンジンスイッチが ON のとき	ポーン (1回)	 点灯	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → **3-54ページ(燃料残量警告灯)**
走行中	ピー、ピー、 (約95秒間)	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。ベルトを着用してください。 → **3-35ページ(シートベルト警告ブザー)**
	ピピピッ、 ピピピッ、	 点灯	パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → **4-13ページ(パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)**
	ポーン (1回)	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → **3-57ページ(半ドア警告灯)**
運転席ドアを開けたとき	ピーーー	–	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → **3-61ページ(ライト消し忘れ警告ブザー)**
	ピー、ピー、	–	プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車は、エンジンスイッチからキーを抜いていません。キーを抜いてください。 → **4-11ページ(キー抜き忘れ警告ブザー)**
		ACC 点灯	プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車は、エンジンスイッチが ACC になっています。LOCK (OFF) にしてください。 → **4-12ページ(エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー)**

いつ	ブザー音（室内ブザー）	メーター	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	ピー、ピー、（約10秒間）	● 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 → **3-16ページ（セキュリティアラーム）**
エンジンスイッチを ON にしたとき	ピー、ピー、（4回）	● 約8秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあってないか車の中を確認してください。 → **3-16ページ（セキュリティアラーム）**

■ オートマチック車のみ

いつ	ブザー音（室内ブザー）	メーター	原因と対処方法
停車中／後退中	ピー、ピー、	R 点灯	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-19ページ（ R （リバース）ポジション警告ブザー）**

■ プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
エンジンをかけようとしたとき	ピー、ピー、(約2秒間、室内／車外ブザー)	 点滅	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンの場所を確認するか、リモコンをエンジンスイッチにあててください。 → **4-6ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)** → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**
運転席ドアを開けたとき	ピッ、ピッ、(室内ブザー)	－	故障などで、エンジンスイッチを LOCK (OFF) にしてもハンドルがロックされていません。マツダ販売店で点検を受けてください。 → **4-12ページ (ハンドルロック未作動警告ブザー)**
すべてのドアを閉めたとき	ピー、ピー、(約2秒間、室内／車外ブザー)	 点滅	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンの場所を確認するか、リモコンをエンジンスイッチにあててください。 → **4-6ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)** → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**
リクエストスイッチを押したとき	ピー (約2秒間、車外ブザー)	ACC ON いずれか点灯	エンジンスイッチが ACC または ON になっています。LOCK （OFF）にしてください。 → **3-14ページ (リクエストスイッチ未作動警告ブザー)**
		－	携帯リモコンが車内にあります。リモコンの場所を確認してください。
		 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	ピー (約2秒間、車外ブザー)	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。 → **3-8ページ（キーレスエントリー）**

MEMO

2. 必読！ 安全なドライブのために

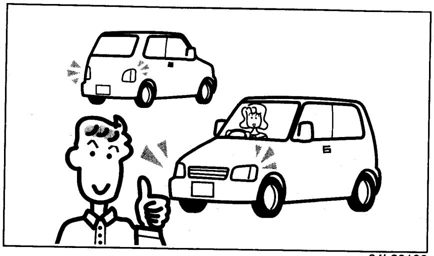
とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

安全運転が第一
お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認） …… 2-2
荷物を積むときは …… 2-3
お子さまを乗せるときは …… 2-5
運転席に座って …… 2-8
エンジンをかけるときは …… 2-10
走行するときは …… 2-10
駐車するときは …… 2-15
給油するときは …… 2-18
オートマチック車を運転するときは …… 2-19
SRSエアバッグ車を運転するときは …… 2-21
4WD車を運転するときは …… 2-22
こんなことにも注意して …… 2-23
こんなときは異常ではありません …… 2-26
エコドライブをしましょう …… 2-26

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

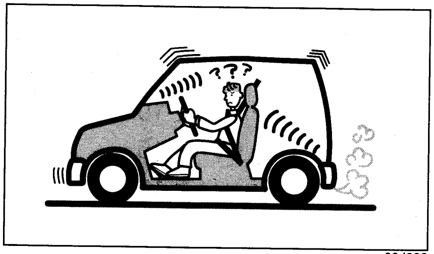


64L20180

お車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→　**メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



80J009

⚠注意

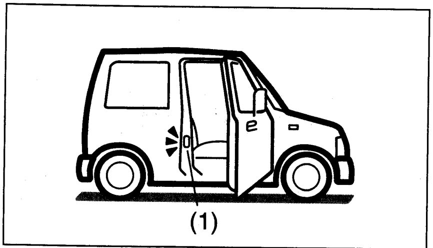
次のような場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 必ず定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。

→　**メンテナンスノート（日常点検）**

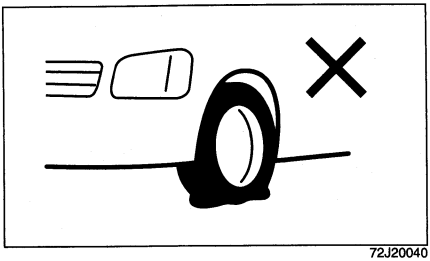


64L20010

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

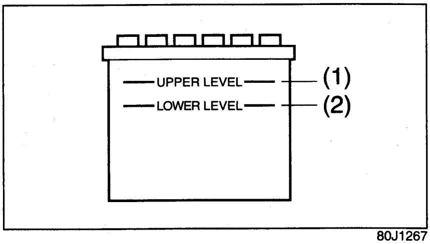
⚠注意

- **指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。**
  - **走行安定性が悪化する**
  - **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
  - **ABS（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって正常に作動しなくなる**
  - **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**
- **空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**



72J20040

バッテリーの液面を点検する



80J1267

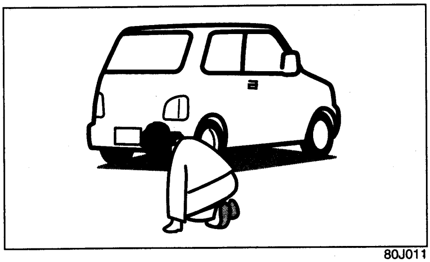
バッテリー液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補充してください。

→　**メンテナンスノート（日常点検）**

⚠ 警告

バッテリー液が不足すると、発熱や爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

排気管も点検



80J011

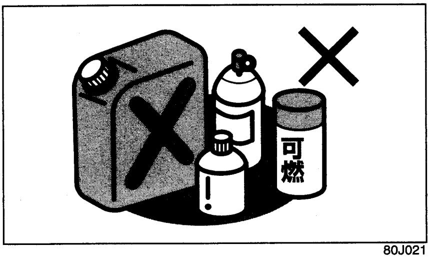
排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠ 警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

荷物を積むときは

燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まない



80J021

⚠ 警告

引火や爆発のおそれがあります。

荷物を積み過ぎない

荷物の積み過ぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠警告

重い荷物は、かたよりのないように均等に積んでください。荷物のかたよりがあると、カーブなどで横転するおそれがあります。

⚠注意

車内に手荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

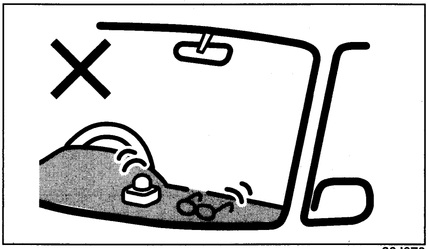
80J022

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して

⚠注意

運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

インパネの上に物を置かない



80J070

⚠警告

運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときにとばされたりして、けがのおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる

51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。

→ **3-8ページ(チャイルドプルーフ)**

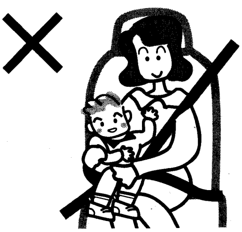
⚠警告

- **助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。**
- **やむをえず助手席に乗せるときは、助手席シートをいちばん後ろの位置にしてください。助手席シートを前に出していると、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃でお子さまがけがをするおそれがあります。**

お子さまもシートベルトを着用

⚠警告

- **ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**



80J081

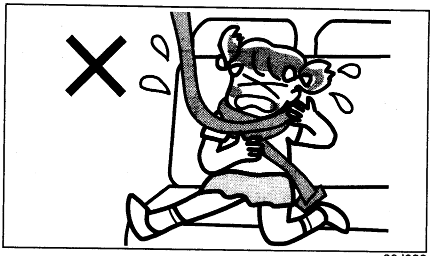
- **後席でも必ずシートベルトを着用させてください。**
- **シートベルトは一人用です。一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。**
- **シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用ください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

80J082

- **首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまにはベビーシートを使用してください。**

2

シートベルトで遊ばせない



80J028

⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

小さなお子さまはお子さま用シートへ

- **お子さま用シートの選択の目安（マツダ純正品の場合）**

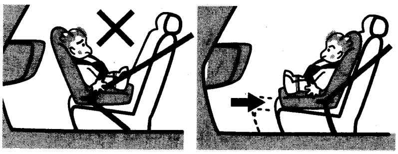
	体重	身長	参考年齢
ベビーシート	13 kg位まで	約80 cm位まで	～18か月位まで
チャイルドシート	9～18 kg位まで	約70～100 cm位まで	8か月～4才位まで
ジュニアシート	15～36 kg位まで	約95～150 cm位まで	3～12才位まで

- 取付け方法や取扱いなどについては、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取付けができないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書でよくご確認ください。
- ベビーシートなど後ろ向きしか使用できないお子さま用シートは、必ず後席に取り付けてください。
- チャイルドシート、ジュニアシートも後席に取り付けるのがいちばん安全と言われています。
- 後席には、ISOFIX タイプのお子さま用シートを固定するためのチャイルドシート固定専用金具（ISOFIX アンカーおよびテザーアンカー、別売り）を設定しています。

→ **3-32 ページ（チャイルドシート固定専用金具）**

⚠警告

- **助手席には、ベビーシートなどのお子さま用シートを後ろ向きに取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **やむをえず助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるときは、シートをいちばん後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。**



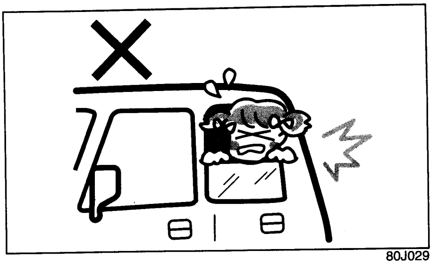
80J027

- 走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
- お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。
- 万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物にあたるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう



80J029

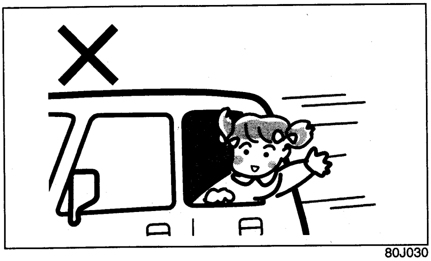
お子さまが自分でパワーウインドーを操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。

→　**3-19ページ**
（ウインドーロックスイッチ）

⚠注意

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

窓から顔や手を出さない



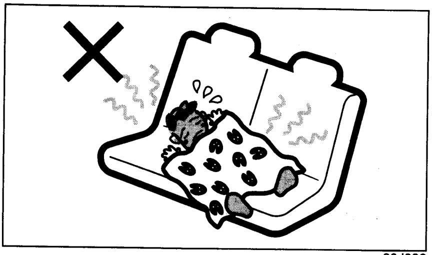
80J030

⚠警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外の物などにあたって重大な傷害を受けるおそれがあります。

2

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さない

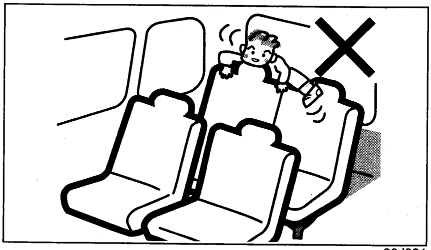


80J032

⚠警告

- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。
- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- エンジンをかけてエアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。

お子さまを荷室に乗せない



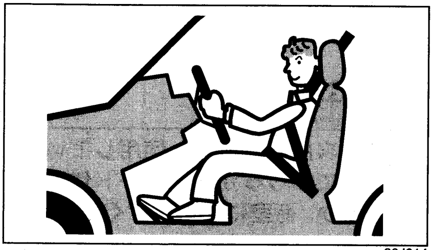
80J031

⚠警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
停車中もお子さまを荷室で遊ばせないでください。

運転席に座って

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠警告

- 走行中にハンドルの調節（タイプ別装備）やシートの調節をすると、ハンドル操作を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →　3-24ページ
  （チルトステアリング）
  →　3-25ページ（前席シート）
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

⚠注意

走行中にルームミラーやドアミラーを調節すると、前方不注意の原因となります。
→　3-22ページ
（ルームミラー、ドアミラー）

シートベルトは正しく着用

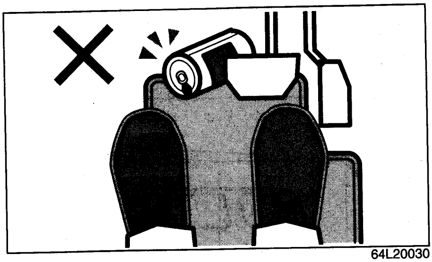
51K0007

⚠警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

→　3-34ページ（シートベルト）

運転席の足元付近に物を置かない

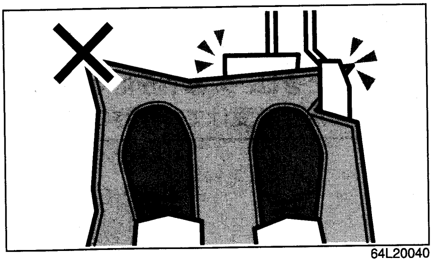


64L20030

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットを使用する



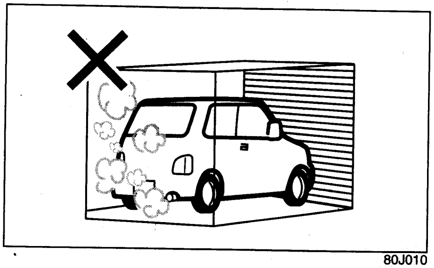
64L20040

⚠警告

フロアマットを重ねて敷いたり、足元の形に合わないフロアマットを使用したりすると、ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

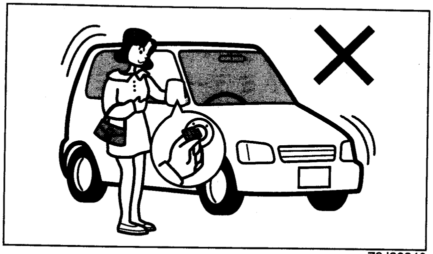


80J010

⚠警告

- 車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。
- 車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

窓越しのエンジン始動はしない



72J20240

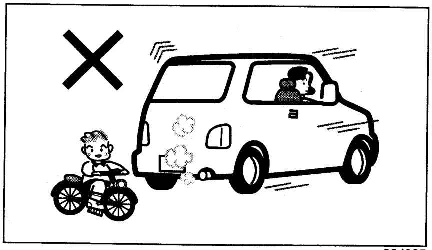
⚠注意

運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

→　4-8ページ(エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

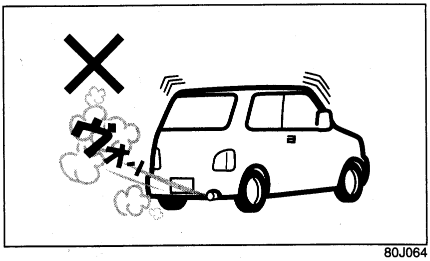


80J025

⚠注意

- 周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。
- バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車からおりて自分の目で後方を確認してください。

エンジン始動直後の空ぶかし、急加速をしない



80J064

エンジンオイルが暖まっていないので、暖機が完了するまでは空ぶかしや急加速をしないでください。エンジン故障の原因となります。

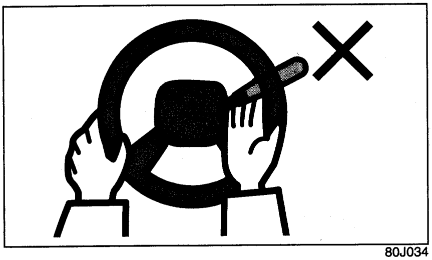
携帯電話やカーナビゲーションなどに気を取られないで

85K2114

⚠注意

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを使用しないでください。会話や電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は、走行中にテレビを見たり、カーナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠注意

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

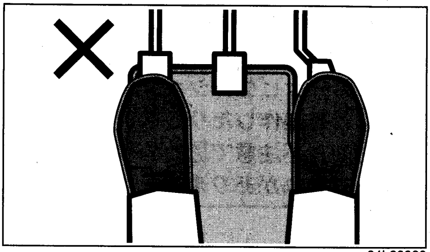
⚠注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

2

クラッチペダルに足をのせたまま走行しない

マニュアル車



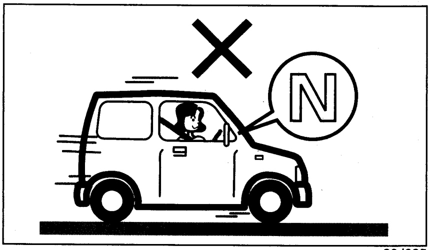
64L20060

⚠注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  →　**3-52ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）
- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、マツダ販売店にご連絡ください。
- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  →　**7-2ページ（パンク）**
- **ブレーキペダルが重く感じたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足をはなし、走行速度に合わせて、次のようにします。

■ マニュアル車

ギヤを1速ずつシフトダウンします。

→ **4-13ページ**
(チェンジレバーの操作)

■ 4AT車

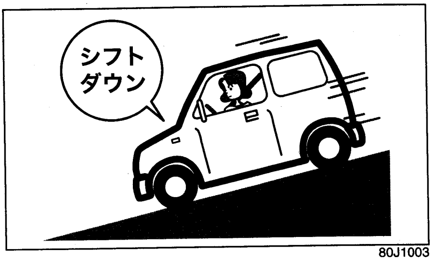
オーバードライブ（O/D）スイッチをOFF にするか、セレクトレバーを [2] または [L] にシフトダウンします。

■ CVT車

S（スポーツ）モードスイッチをONにするか、セレクトレバーを [L] にシフトダウンします。

→ **4-14ページ**
(セレクトレバーの操作)

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足をはなしたときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

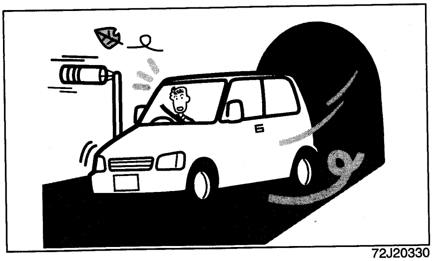


80J1003

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

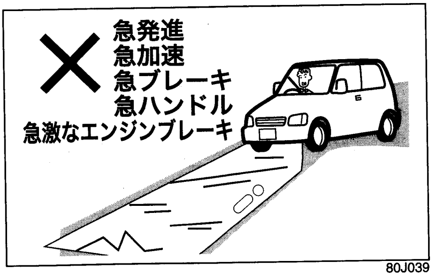
横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

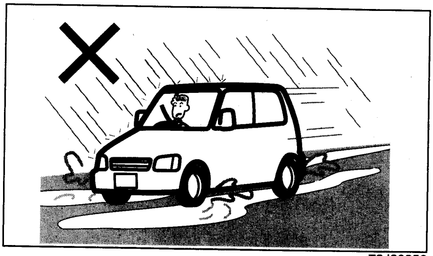


80J039

⚠ 注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

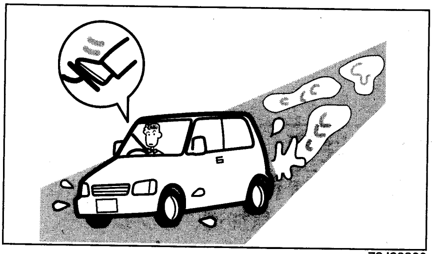


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認

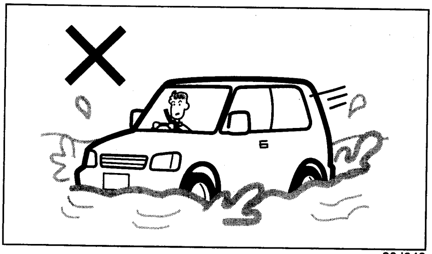


72J20360

⚠注意

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

⚠注意

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

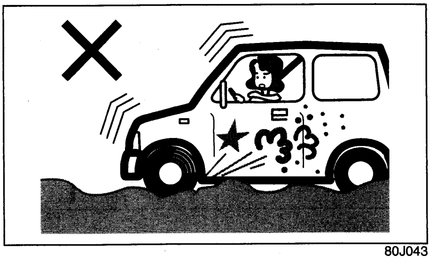
- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。

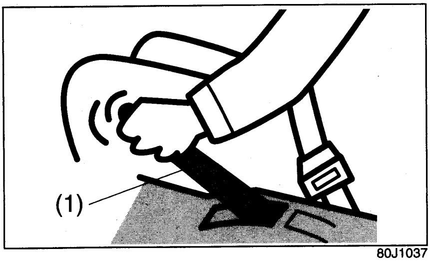
⚠注意

- **脱出しようとする前に、必ず周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。**
- **タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。**


80J043

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

- オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れてください。
- マニュアル車 は、チェンジレバーをR（リバース）または1速に入れてください。
- 坂道で駐車するときは、必ず次のことをお守りください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、車が動き出さないことを確認してください。

2 マニュアル車 は、下り坂ではチェンジレバーをR、上り坂では1速に入れてください。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

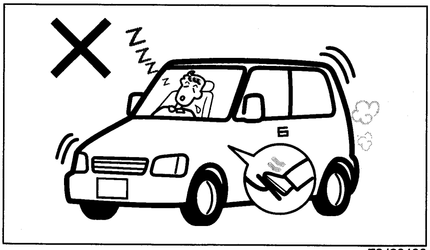
急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない

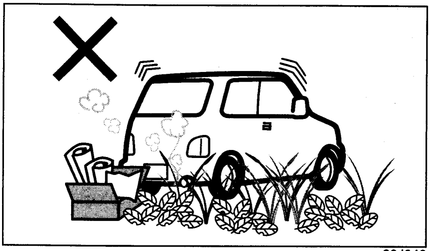


72J20400

⚠警告

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

燃えやすい物の近くに駐車しない

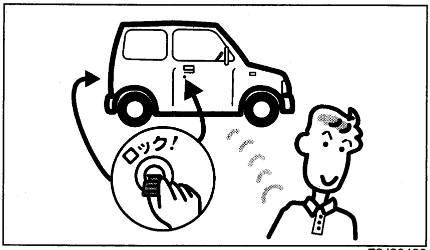


80J046

⚠注意

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



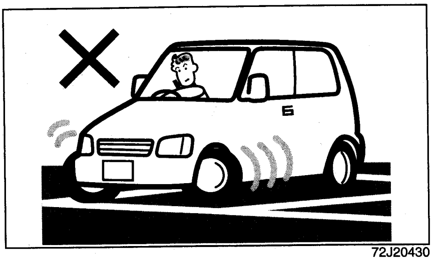
72J20420

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠注意

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない



72J20430

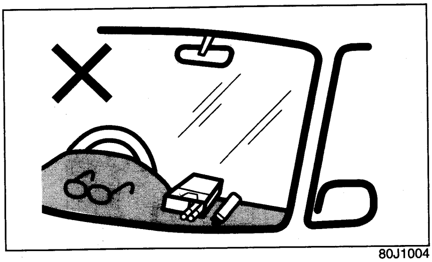
⚠注意

駐車するときや車庫入れのとき、ハンドルをいっぱいにまわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

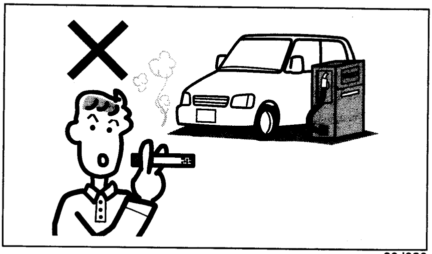
⚠注意

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。

給油するときは

→ 5-24ページ（燃料給油口）

火気にきをつけて



80J020

⚠警告

必ず次のことをお守りください。
- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。

80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示に従ってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- その他、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

⚠注意

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-14ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「4AT車」と「CVT車」の両方を示しています。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R （リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

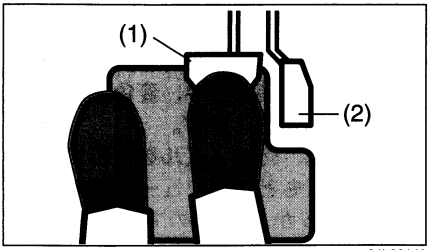
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

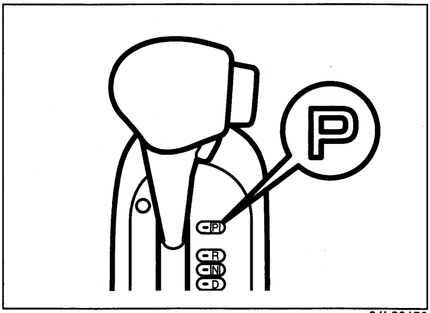
⚠注意

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



64L20150

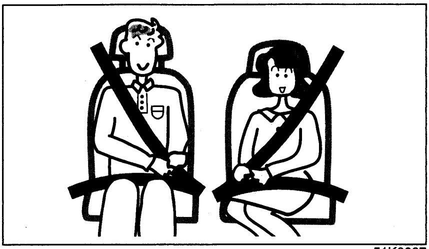
⚠注意

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進をするおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-40 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



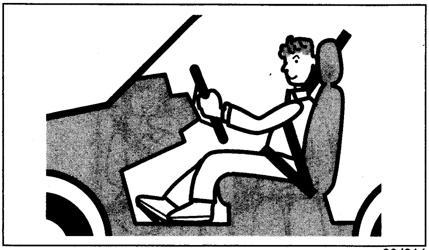
51K0007

⚠警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席SRSエアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。
また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。

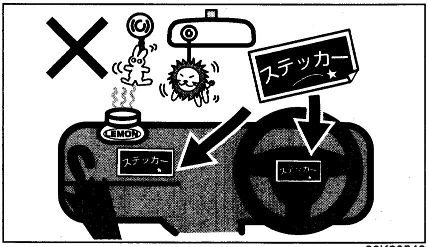


80J014

⚠警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠警告

- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。**
- **インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。**
- **フロントガラスやルームミラーにアクセサリー(マツダ純正用品を除く)などを取り付けないでください。**

お子さま用シートの取付け

→ 2-6ページ（小さなお子さまはお子さま用シートへ）

4WD車を運転するときは

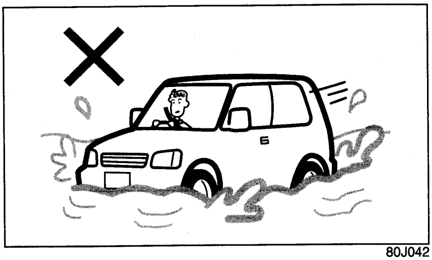
4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。必ず次のことをお守りください。

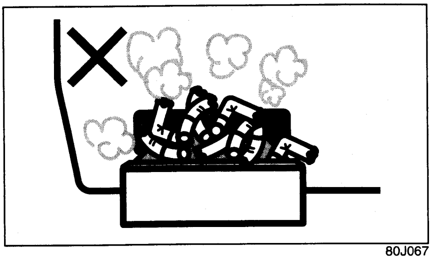
- 砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。
- 渡河走行や水中走行をしないでください。



80J042

こんなことにも注意して

マッチ、タバコの火は確実に消す



80J067

⚠注意

- マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。
- 灰皿（別売り）の中に吸いがらをため過ぎたり、紙など燃えやすい物を入れたりしないでください。

外装部品に力をかけすぎない

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

段差などに注意して

⚠注意

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

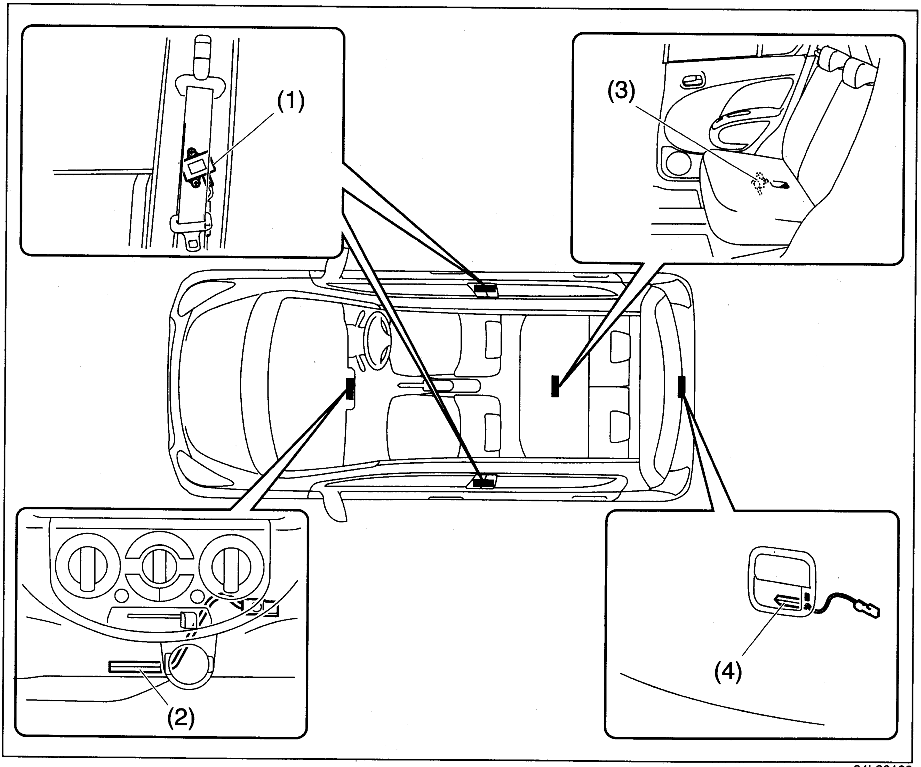
2

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

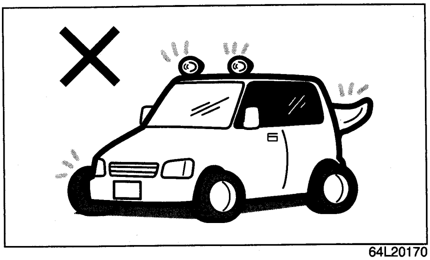
⚠警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の各発信機（下図参照）から約 22 cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。
- 詳しくは、マツダ販売店にお問い合わせください。



(1) 前席ドア車外発信機（※イラストは運転席ドア側）
(2) 車室内発信機
(3) 荷室発信機
(4) バックドア車外発信機

違法改造はしない



64L20170

⚠警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、違法改造になったりすることがあります。
- 無線機、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取付け、取外しをするときは、マツダ販売店にご相談ください。電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定のマツダ純正品以外を使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。

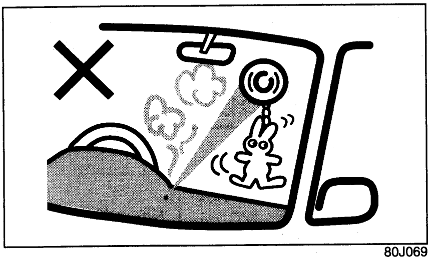
部品の取付け、取外し、修理をするときは

⚠警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。必ずマツダ販売店にご相談ください。

- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取付けに注意して



80J069

⚠警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがのおそれがあります。

2

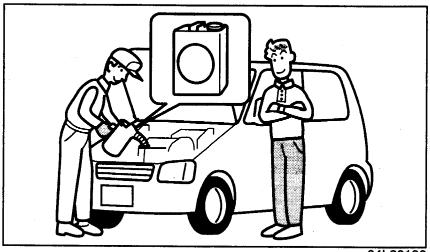
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に必ず交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**10,000 km**ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000 km**ごとに交換してください。
- 指定のエンジンオイルを使ってください。
  → **8-1ページ（サービスデータ）**
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
  → **メンテナンスノート**

⚠注意

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、マツダ販売店へお申しつけください。



64L20190

こんなときは異常ではありません

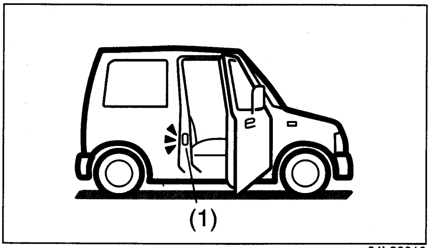
ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

ヘッドライトや制動灯などは、雨天走行や洗車などで一時的にレンズ内面がくもることがあります。これはランプ内外の温度差によるもので、機能上の問題はありません。（雨天時などに窓ガラスがくもるのと同じ現象）
ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認のうえ、調整してください。



64L20010

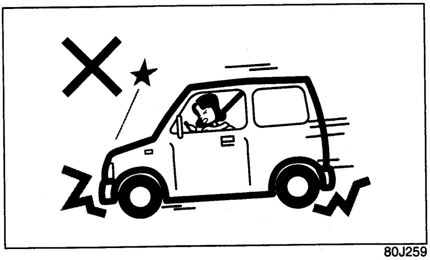
不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

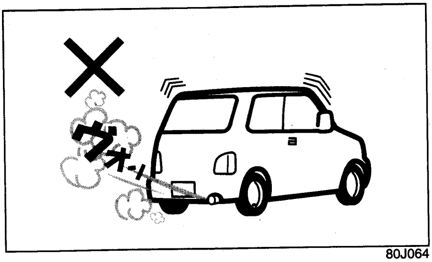
長期間、車を使用しなかったときや極低温のときは、数十秒の暖機運転を行なってから走行を開始してください。それ以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したら、すみやかに走行を開始してください。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**

キー ･････････････････････････････ 3-2
ドア ･････････････････････････････ 3-4
キーレスエントリー ･････････････････････ 3-8
携帯リモコン ･････････････････････････ 3-11

● **警報装置**

セキュリティアラーム（警報装置）･･････････ 3-16

● **ウインドーの開閉**

パワーウインドー ･･･････････････････････ 3-18

● **各部の調節**

ルームミラー ･････････････････････････ 3-22
ドアミラー ･･･････････････････････････ 3-23
チルトステアリング ･････････････････････ 3-24

● **シートの調節**

前席シート ･･･････････････････････････ 3-25
後席シート ･･･････････････････････････ 3-28

● **シートベルト**

シートベルトについて ････････････････････ 3-34
シートベルトの着用のしかた ････････････････ 3-36
シートベルトの取扱いとお手入れ ･････････････ 3-37
シートベルトプリテンショナー（前席のみ）･･･ 3-37
シートベルトの衝撃低減機構（前席のみ）･････ 3-38
お子さま用シートのシートベルトによる固定･･･ 3-39

運転する前に

● SRSエアバッグ

SRSエアバッグ車を運転するときは ………… 3-40
SRSエアバッグシステムの取扱い ………… 3-42
SRSエアバッグシステムの作動 ………… 3-44
SRSエアバッグ警告灯 ………… 3-47
廃棄と廃車 ………… 3-47
イベントデータレコーダー（EDR)とは ………… 3-48

● メーター

メーターの見かた ………… 3-49
警告灯・表示灯の見かた ………… 3-52

● スイッチの使いかた

ライトスイッチ ………… 3-60
光軸調整ダイヤル ………… 3-62
方向指示器スイッチ ………… 3-63
非常点滅灯スイッチ ………… 3-63
ワイパー／ウォッシャースイッチ ………… 3-64
ホーンスイッチ ………… 3-65
リヤデフォッガースイッチ ………… 3-66

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

3

キー

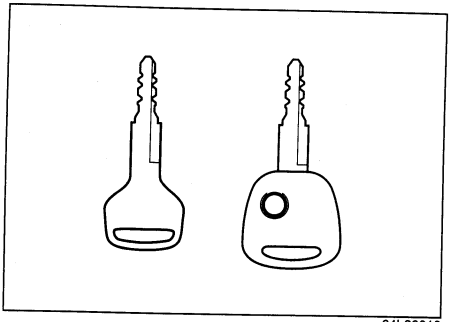
キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

⚠警告

リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。
※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

アドバイス

- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。
- キーのご購入については、マツダ販売店にご相談ください。



64L30010

⚠注意

キーホルダーのアクセサリーなどは必要最小限にしてください。アクセサリーを多数付けたり、重い物を付けたりすると、走行中の振動などでエンジンスイッチに差したキーがまわるおそれがあります。
また、大きなアクセサリーを付けていると、膝や手などがあたってキーをまわしてしまうおそれがあります。
→ **4-2ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）**

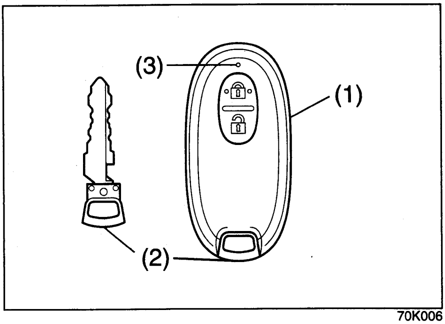
プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

- キーが2本ついています。キーの組合わせは、お車により異なります。
- キーは、エンジンの始動・停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使用します。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

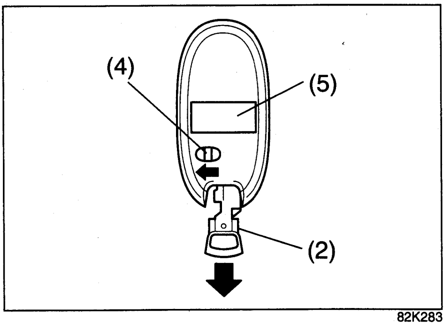
- キーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

- 携帯リモコン（1）が 2 個、リモコンに格納可能なキー（2）が 2 本付いています。
  → **3-11ページ（携帯リモコン）**



(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ⬅ 方向に引きながら取り出します。



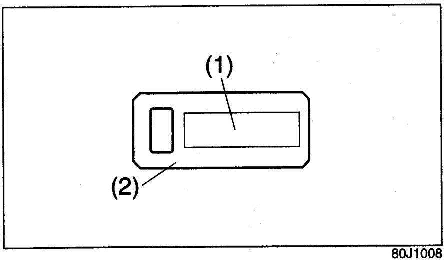
(5) 適合証明マーク

アドバイス

携帯リモコンには、必ずキーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

3

ドア

⚠注意

- ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
- ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
- シートベルトや荷物などをはさまないように、ドアを確実に閉めてください。半ドアの場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不完全な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

アドバイス

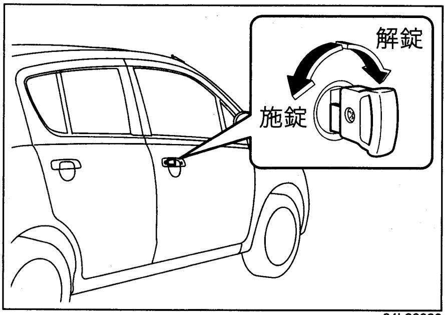
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。
→ 3-16ページ
（セキュリティアラーム）

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ 3-8ページ（キーレスエントリー）
→ 3-11ページ（携帯リモコン）

■ 運転席ドア

キーを差し込んで時計方向にまわすと解錠、反時計方向にまわすと施錠できます。

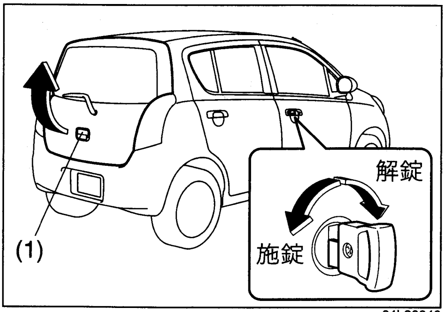


64L30030

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで、時計方向にまわすと解錠、反時計方向にまわすと施錠できます。

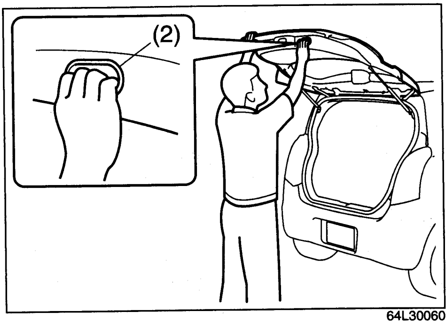
- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドル（1）を手前に引きながらドアを持ち上げます。



64L30040

バックドアを閉めるときは

ドア下面右側の手かけ部（2）を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押しつけます。

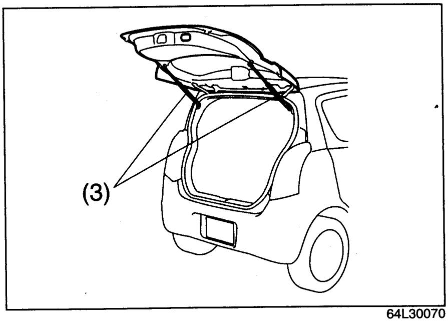


64L30060

⚠注意

バックドアを支えているダンパーステー（3）の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、ビニール片やテープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、物をかけたりしないでください。**

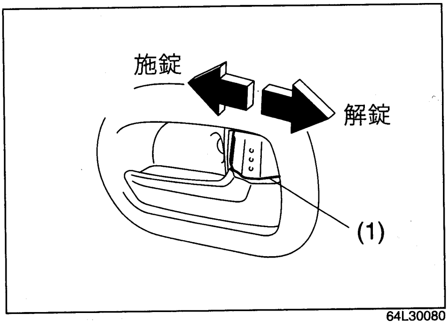


64L30070

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを閉めてロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



64L30080

アドバイス

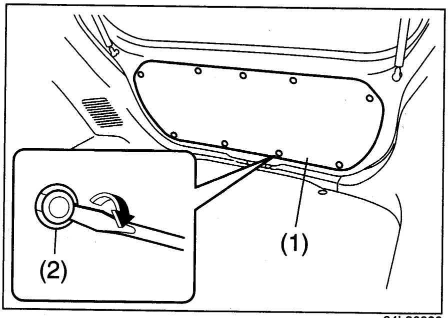
解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

3

■ バックドア

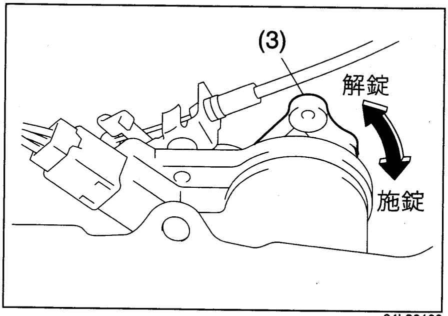
故障やバッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

1. バックドアのトリム（1）を外します。
   - 固定しているクリップ９個（2）は、マイナスドライバー（市販品）でこじて外します。



64L30090

2. トリム内側にあるレバー（3）を引き上げると、解錠します。
   施錠するときは、レバーを押し下げます。



64L30100

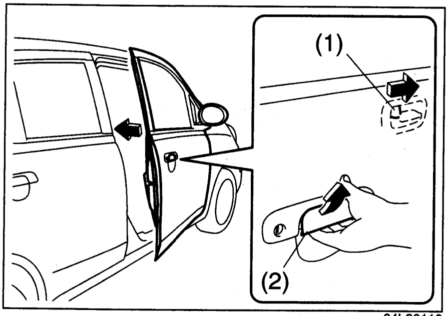
⚠注意

レバー操作をするときは、バックドアの穴周囲のエッジ部分をさわらないでください。けがのおそれがあります。

キーを使わない施錠

■ 前席ドア

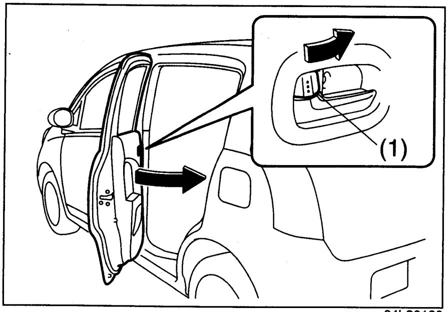
ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアハンドル（2）を引いたままドアを閉めると施錠できます。



64L30110

■ 後席ドア

ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアを閉めると施錠できます。



64L30120

アドバイス

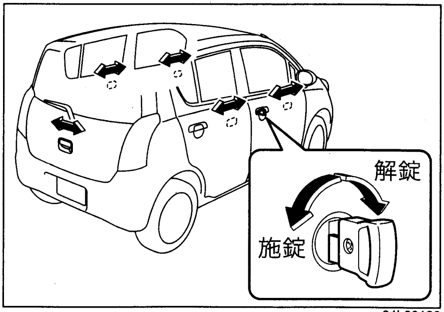
- 「**キーを使わない施錠**」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。
- プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の場合、次のような状況では、「**キーを使わない施錠**」ができない場合があります。
  - 携帯リモコンが車内にある
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき

→ **3-14ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

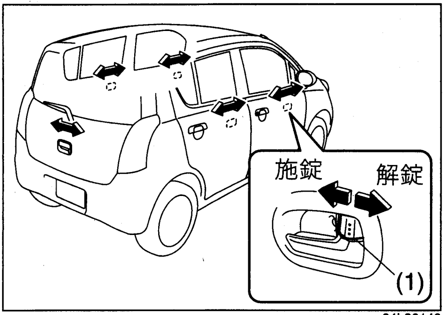
キーまたはロックレバー操作によるパワードアロック

→ **3-8ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-11ページ（携帯リモコン）**

運転席ドアをキーまたはロックレバー（1）操作で施錠・解錠すると、助手席／後席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



64L30130



64L30140

アドバイス

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の場合、いずれかのドアが開いていると、キーまたは運転席ドアのロックレバー操作で施錠できない場合があります。

→ **3-14ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

■ ドアロック解除機能

衝突などでSRSエアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

アドバイス

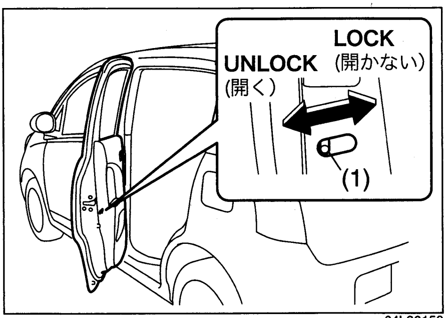
エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

3

チャイルドプルーフによる施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。

- 後席ドアにあるレバー（1）を **LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。ロックレバーの位置に関係なく、車内からはドアが開きません。
- ドアを開けるときはロックレバーを解錠側（車の後ろ方向）にして、外からドアハンドルを引きます。



64L30150

アドバイス

- 後席乗員（とくにお子さま）によるドア誤開放の防止にご使用ください。
- チャイルドプルーフで施錠している後席ドアを車内から開ける場合は、ロックレバーを解錠側にしてウインドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

キーレスエントリー

車から約2 m以内の範囲で、送信器の操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

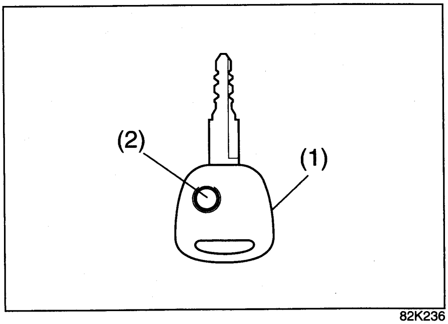
アドバイス

- いずれかのドアが開いていると、キーレスエントリーで施錠できません（解錠はできます）。プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の場合、車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。
- 送信器は、インパネの上など高温になる場所に置かないでください。
- 送信器を落下させるなどして、強い衝撃をあたえないでください。
- 送信機を水洗いしたり、水中に入れたりしないでください。
- 送信器でドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- 送信器が正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

3

●送信器の操作部を必要以上に押すと、電池の消耗が早まります。
●送信器のご購入、電池交換、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

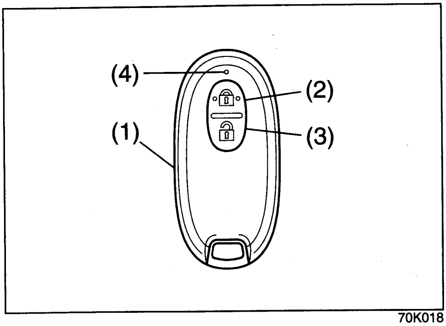


(1) 送信器　(2) 操作部

アドバイス

●エンジンスイッチからキーを抜き忘れていると、キーレスエントリーが作動しません。
●1台の車両で、4個の送信器まで登録できます。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車



(1) 送信器(携帯リモコン)
(2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)
(4) 作動表示灯

アドバイス

●エンジンスイッチが ACC または ON のときは、キーレスエントリーが作動しません。
●1台の車両で、4個の送信器(携帯リモコン)まで登録できます。

3

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯（スイッチがDOOR位置）		約10秒間点灯	2回点滅	約10秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約10秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
→ **5-28ページ（室内灯）**
- プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴		

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、マツダ販売店にご相談ください。
- プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車は、リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約30秒以内にいずれのドアも開けなかったときに作動します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**を除く）
→ **3-16ページ（セキュリティアラーム）**

アドバイス

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車は、リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

タイプ別装備

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。
また、その他に次の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-8ページ（キーレスエントリー）**
- エンジンスイッチによる始動および電源の切り替え
  → **4-4 ページ（プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-3ページ（イモビライザーシステム）**

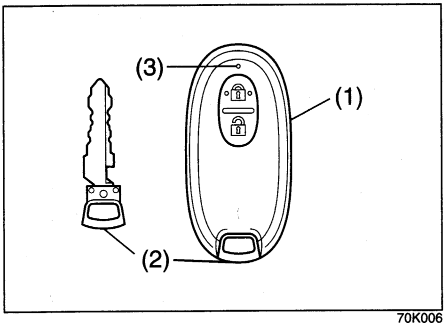
⚠注意

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話や他のリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

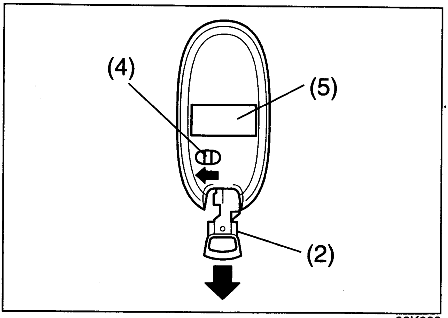
- 携帯リモコンは必ず運転者が所持し、管理してください。車内に携帯リモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

お車には、携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついています。



(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ⬅ 方向に引きながら取り出します。



82K283

(5) 適合証明マーク

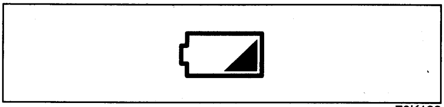
⚠注意

- **携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。**
- **適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。**

アドバイス

- 携帯リモコンには、必ずキーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠やエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - インパネの上などの高温になるような場所に置かない
  - 落下させるなどして、強い衝撃をあたえない
  - 水洗いをしたり、水中に入れたりしない
  - 磁気をおびたキーホルダーなどをつけない
  - テレビやオーディオなど磁気をおびた機器の近くに置かない
  - 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない
- 1台の車両で、4個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れたときは、新しい電池と交換してください。
- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。リモコンをテレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置かないでください。
- 携帯リモコンのご購入、電池交換、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告灯


70K122

メーターパネル内にあります。

- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに約15秒間点灯します。電池の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

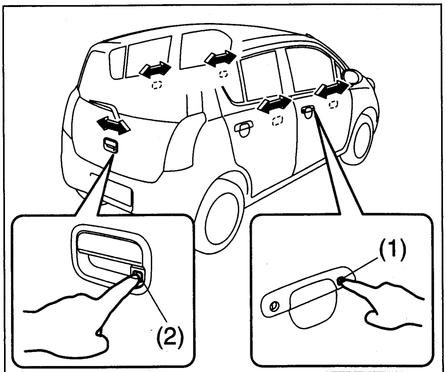
→ **3-52ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、電池切れが近くても点灯しなくなります。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「**リクエストスイッチの作動範囲**」（**3-14 ページ**参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。



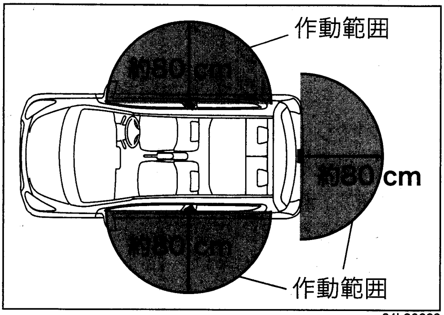
(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

アドバイス

- いずれかのドアが開いていると、リクエストスイッチが作動しません。
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
  → **3-10ページ**
  （アンサーバック機能）
  → **3-10ページ**
  （タイマーロック機能）
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、リクエストスイッチが作動しません。
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。
- 施錠したときは、必ずドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。

リクエストスイッチの作動範囲（車外）

前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



64L30660

アドバイス

- **「リクエストスイッチの作動範囲」**で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約 2 秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチが［ACC］または［ON］の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを［LOCK］（OFF）にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - 携帯リモコンを車内に置き忘れている
  - いずれかのドアが開いている
    →　**3-57ページ（半ドア警告灯）**

エンジンスイッチを［LOCK］（OFF）にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」（**3-6 ページ**参照）で、携帯リモコンを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

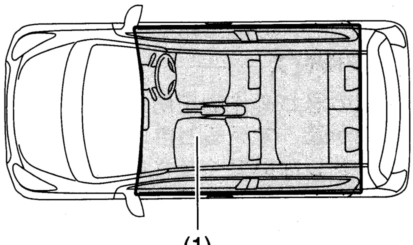
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、**「キーを使わない施錠」**ですべてのドアを施錠しようとすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。

アドバイス

- 「**キーを使わない施錠**」をするときは、リモコンが手元にあるか確認してください。携帯リモコンを閉じ込むおそれがあります。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「**車内の検知範囲**」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



64L30670

アドバイス

- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが次のような小物入れの中にある
    - ・インパネアンダートレイ（運転席）
    - ・グローブボックス
    - ・ドアポケット
  - 携帯リモコンがサンバイザーや床にある
- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

3

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ドアをキーレスエントリーまたはプッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車のリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にセットされます。
セット状態にて、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチ以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバーを含む

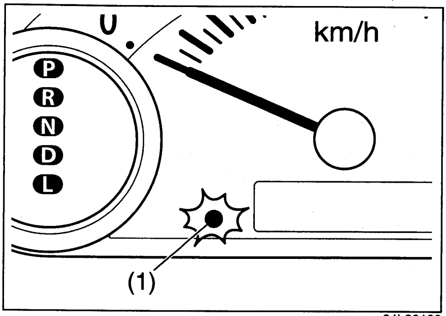
- 工場出荷時は、<**警報モード**>になっています。任意で<**警報なしモード**>に切り替えてください。
  → **3-17ページ**
  （モード設定の切替えのしかた）
- 警報を誤作動させたときは
  → **3-17ページ（警報の停止のしかた）**

アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを<**警報なしモード**>に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（警報モード時）

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター（1）が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。
セット中は、セキュリティアラームインジケーターが約2秒間隔で点滅します。



64L30180

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーで解錠し、いずれかのドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  → **3-10ページ**
  （タイマーロック機能）

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、エンジンスイッチを ON にしてください。警報を途中で停止できます。

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態、または警報作動状態でバッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを ON にすると、セキュリティアラームインジケーターが約８秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが４回鳴ります。盗難にあっていないかお車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

＜**警報モード**＞と＜**警報なしモード**＞の２つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

＜**警報モード**＞（工場出荷時）
非常点滅灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。

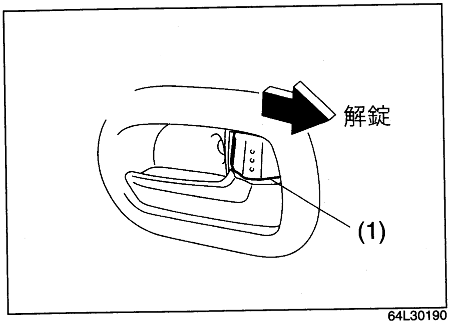
＜**警報なしモード**＞
警報は作動しません。

※＜**警報モード**＞では、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

モード設定の切替えのしかた

次の手順で切り替えてください。

1 すべてのドアを閉め、ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にします。ライトスイッチをOFFの位置にします。



64L30190

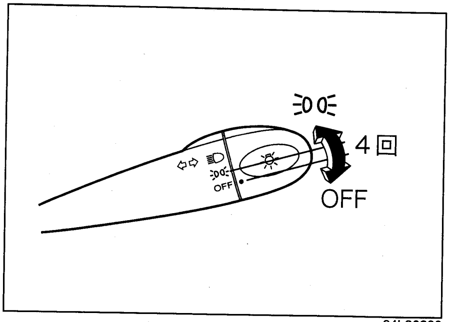
アドバイス

解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

3

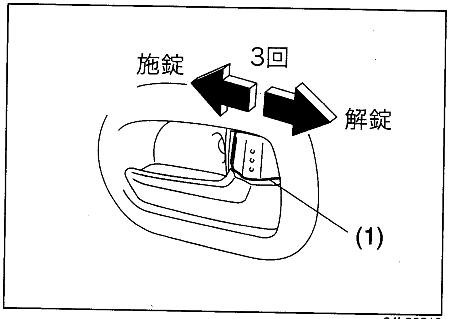
※次の2から3までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

2 ライトスイッチを ☰D0☰ の位置にします。ライトスイッチを再びOFFの位置にします。これらの操作を4回行ない、最後にライトスイッチをOFFの位置にします。



64L30200

3 ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして施錠します。ロックレバーを解錠側（車の後ろ方向）にして解錠します。これらの操作を3回行ない、最後に施錠状態にします。



64L30210

前記手順を行なうと、モード設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

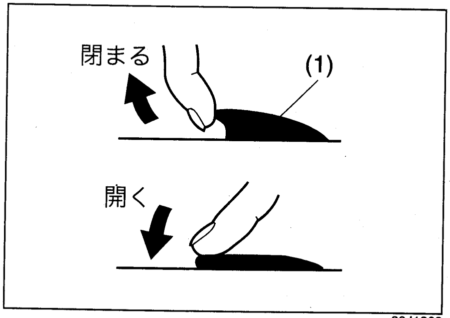
モード設定状態	設定確認ブザー
警報なしモード	1回
警報モード	4回

アドバイス

- アラームがセット状態のときは、モード設定の切替えはできません。
- 2から3までの手順を15秒以内にできなかったときは、はじめからやりなおしてください。
- モード設定を切り替えるときは、ドアを閉めたまま行なってください。

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



80J1268

⚠警告

●パワーウインドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。
●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や腕などをはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスにふれないでください。巻き込まれるおそれがあります。

アドバイス

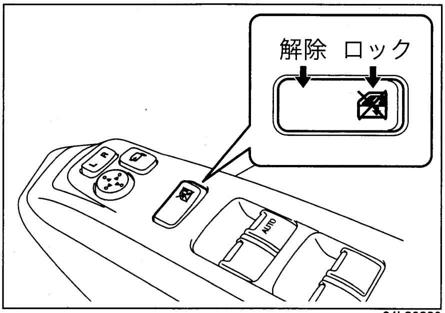
●走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

●バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

■ ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチの［ロック］側を押すと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、ウインドーロックスイッチの［解除］側を押します。



64L30220

⚠警告

お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを［ロック］位置にしてください。

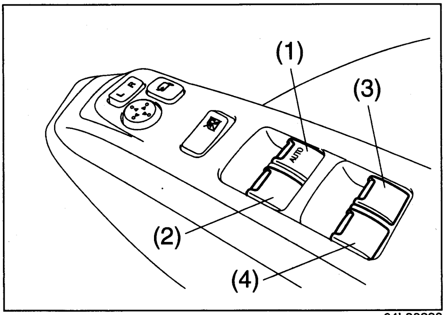
アドバイス

運転席ウインドーは、ウインドーロックスイッチの位置に関係なく開閉できます。

3

運転席での開閉

各席のウインドーの開閉ができます。



64L30230

(1) 運転席ウインドースイッチ
　(オート機構付)
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーの開閉（オート機構付）

- ウインドースイッチを軽く操作すると、操作している間だけ開閉します。スイッチから手をはなすと、その位置で止まります。
- ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手をはなしても自動で全開または全閉します。
  途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 運転席ウインドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウインドーは、エンジンスイッチを ON の位置から ACC または LOCK（OFF）にしたあとでも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30 秒以内でも、運転席ドアを開けて閉めると、運転席ウインドーの開閉ができません。
- 運転席ウインドーの開閉が可能な間は、運転席ウインドースイッチの“AUTO”の文字が点灯しています。

■ 助手席／後席ウインドーの開閉

ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手をはなすと、ウインドーはその位置で止まります。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まり切る直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定のしかた

バッテリー端子やヒューズ(**7-12ページ**参照)を外すなどして、パワーウインドーシステムへの電源供給を一度絶ってしまうと、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。
この場合、次の手順ではさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。また、運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、同様に初期設定を行なってください。

1. エンジンを始動します。
2. 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。
3. 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。
4. そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。
5. 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

手順1~4を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

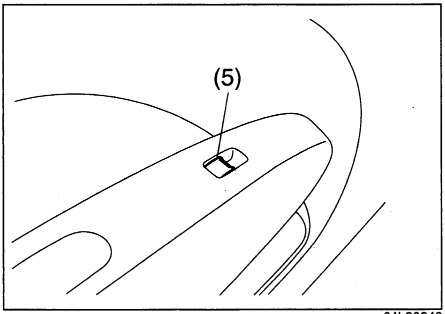
3

助手席、後席での開閉

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチ（1）を操作している間だけ開閉します。スイッチから手をはなすと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

→ **3-19ページ**
（ウインドーロックスイッチ）



64L30240

(5) 助手席／後席ウインドースイッチ（※）

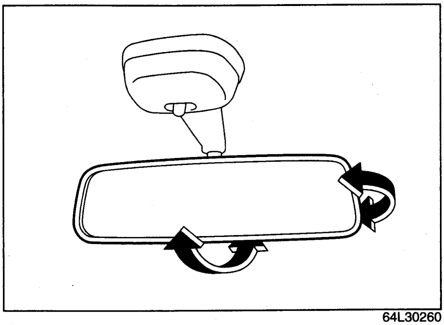
※イラストは助手席ドアを代表しています。

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

ミラー全体を動かして角度を調節します。



64L30260

⚠注意

必ず走行前に調節してください。走行中の調節は、前方不注意の原因となります。

ドアミラー

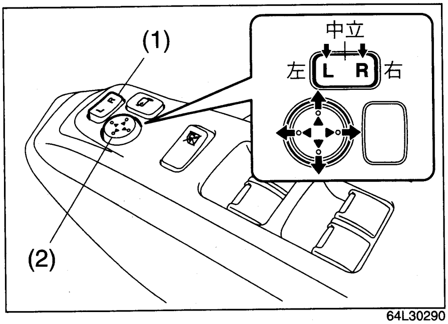
角度の調節

■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

1 左右切替えスイッチ（1）を、調節したいミラーの側を押します。

2 角度調節スイッチ（2）を押して、上下左右にミラーを動かします。



64L30290

⚠注意

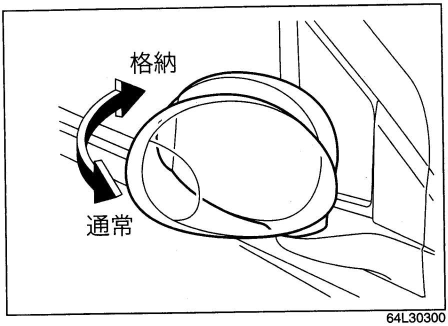
必ず走行前に調節してください。走行中の調節は、前方不注意の原因となります。

アドバイス

調節後は、左右切替えスイッチを押して、中立の位置にもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に倒すことができます。



64L30300

- 上図のドアミラーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

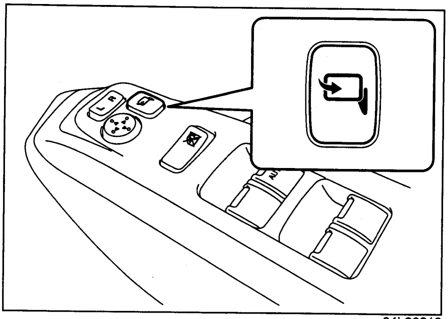
- **ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。**
- **ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人や物にあてないように気をつけてください。**

3

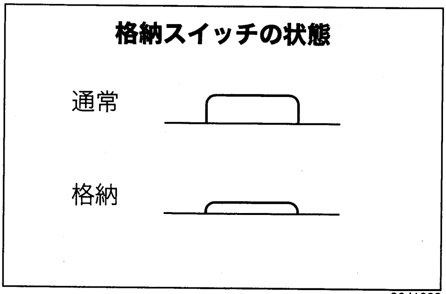
■ ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



64L30310



80J1023

⚠注意

- **動いているドアミラーに触れないでください。手などをはさんでけがのおそれがあります。また、ドアミラー故障の原因となります。**
- **格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。**
  その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

アドバイス

- エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを操作しないでください。ドアミラー故障の原因となります。
- ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。
- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

ドアミラーヒータースイッチ

タイプ別装備

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ **3-66ページ**
(リヤデフォッガースイッチ)

チルトステアリング

タイプ別装備

ハンドルの高さ調節

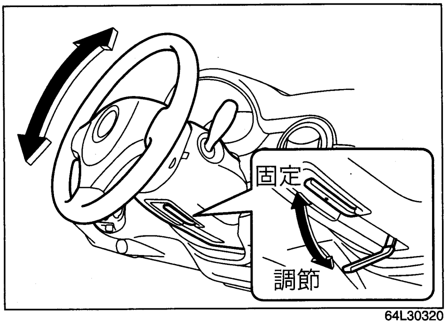
→ **2-8ページ(ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に)**

1 ハンドルの固定を解除します。

- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。

2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。
- その位置でハンドルをおさえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



64L30320

⚠注意

調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

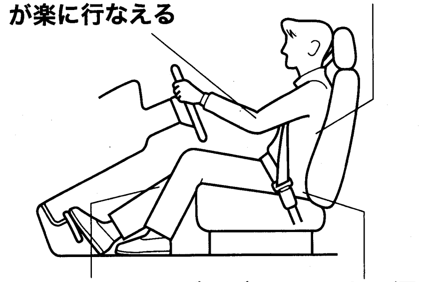
⚠注意

- **シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体にあてたりしないようにに気をつけてください。**
  → 2-8ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）
- **シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。**

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすき間のないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。



80J177

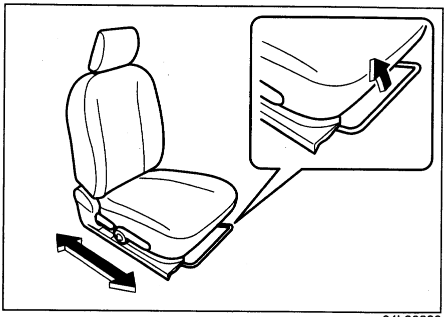
⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

3

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



64L30330

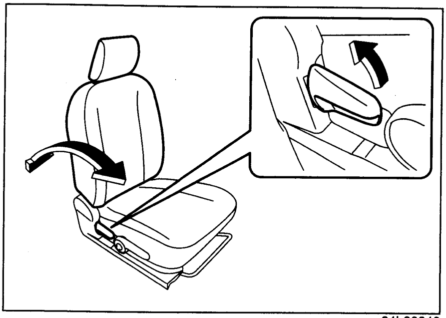
- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

シートの下に物を置かないでください。物がはさまって、シートが固定されないおそれがあります。

背もたれの角度調節

- 後方へ倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方へ起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



64L30340

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

⚠ 注意

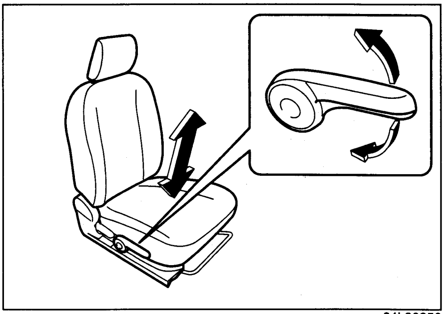
背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などをそえて操作してください。

高さ調節（運転席のみ）

タイプ別装備

運転席シート右横のレバーをくりかえし操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。



64L30350

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを押し下げます。

■ 取外しかた

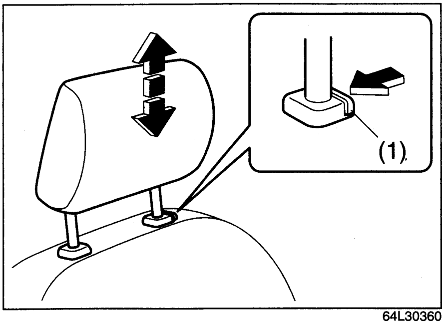
ロックボタンを押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。



64L30360

(1) ロックボタン

⚠ 警告

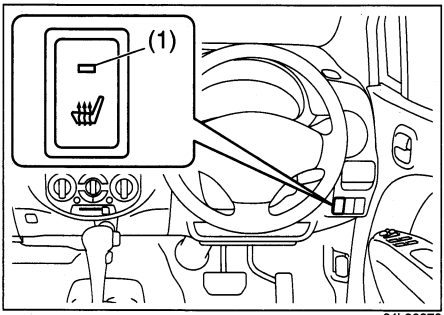
ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

シートヒータースイッチ（運転席のみ）

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

- スイッチを押すと、シート内にあるヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すとヒーターが切れます。
- シートが適温になったら、スイッチを切ってください。



64L30370

⚠注意

- **長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。**
- **シートの上に重い荷物を置いたり、針やくぎなどをシートに刺したりしないでください。**
- **毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。**
- **シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。**
  →　6-4ページ（内装のお手入れ）
- **水やジュースなどをこぼしたときは、すみやかに柔らかい布などでふきとり、十分に乾かしてからご使用ください。**

アドバイス

- バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。
- ヒーターには、自動的にスイッチが切れるタイマー機能がありません。
  また、スイッチを切らないと、エンジンスイッチを ON にするたびにヒーターが自動的に入ります。使用後はすみやかにスイッチを切ってください。

後席シート

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

タイプ別装備

■ 高さの調節

高さの調節は、前席シートと同様です。
3-27ページをお読みください。

■ 取外しかた

ロックボタンを押したまま引き抜きます。

⚠警告

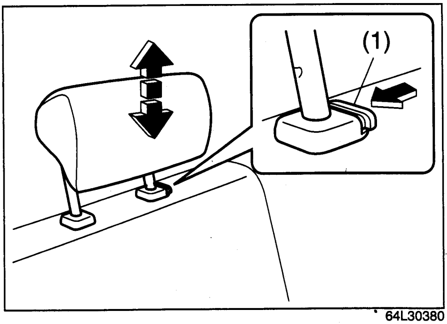
ヘッドレストを外したまま、後席に人を乗せないでください。

⚠注意

取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員や物などにあたって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。



(1) ロックボタン

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
  ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストにあたるのを防ぐため、ヘッドレストを一番高い位置に調節してください。その状態でもお子さま用シートにあたる場合は、ヘッドレストを取り外してください。**
  ヘッドレストがあたった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

3

背もたれの倒しかた

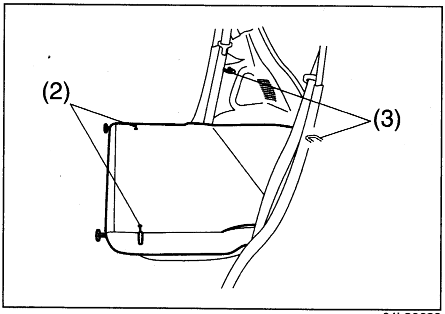
背もたれを前へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

座席以外の部分に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

⚠注意

- **背もたれを動かすときは、手足をはさんだり、身体にあてたりしないように気をつけてください。**
- **背もたれ裏のロック部品 (2) に指などを入れないでください。けがのおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、背もたれ裏のロック部品や背もたれ固定用フック (3) を使用しないでください。また、ロック部品やフックに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりフックが曲がったりして、背もたれが固定できなくなるおそれがあります。**



64L30620

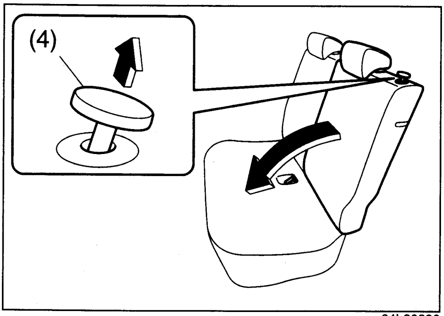
- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ 分割可倒式シート車

左右の背もたれを個別に前へ倒すことができます。

倒しかた

1. ヘッドレストを一番低い位置へ調節します。
2. 背もたれ肩部のロックノブ（4）を引き上げロックを解除し、背もたれを前に倒します。



64L30390

⚠注意

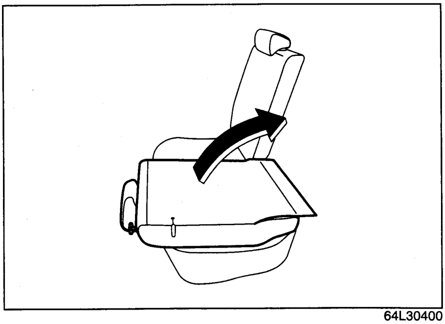
背もたれ肩部のロックノブを引き上げた状態で、後席に人を乗せないでください。ロックノブは一度引き上げると、ロックが解除されたままとなります。背もたれを一度前に倒し再び起こすなどして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。

アドバイス

背もたれを倒すときに、ヘッドレストが前席にあたる場合は、前席を前に動かしてください。

起こしかた

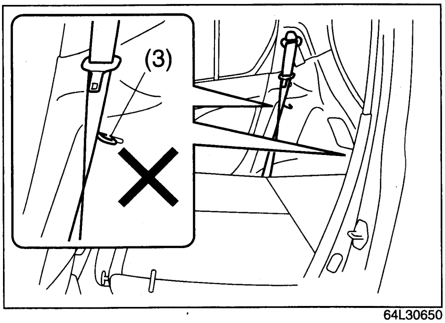
シートベルトが背もたれ固定用フック（3）にかみこまないように背もたれを起こし、固定される位置まで車の後ろ方向へ押しつけます。



64L30400

⚠注意

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。固定が不確実な場合、走行中に突然シートが前に倒れ、思わぬけがのおそれがあります。
- シートベルトの傷つき防止のため、背もたれを起こす前にベルトが背もたれ固定用フック（3）にかかっていないことを確認してください。
  ※ベルトにねじれがあると、フックにかかりやすくなります。

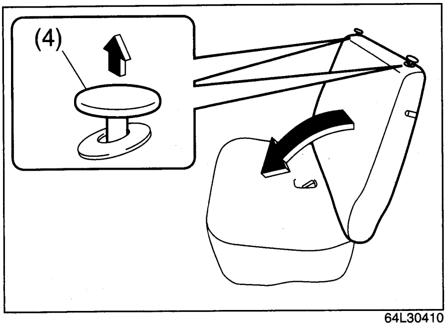


64L30650

■ 一体可倒式シート車

倒しかた

背もたれ肩部左右のロックノブ（4）を引き上げロックを解除し、背もたれを前に倒します。



64L30410

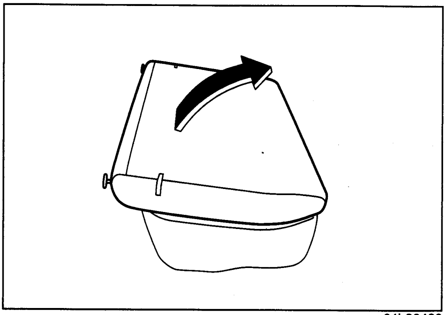
⚠注意

背もたれ肩部のロックノブを引き上げた状態で、後席に人を乗せないでください。ロックノブは一度引き上げると、ロックが解除されたままとなります。背もたれを一度前に倒し再び起こすなどして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。

3

起こしかた

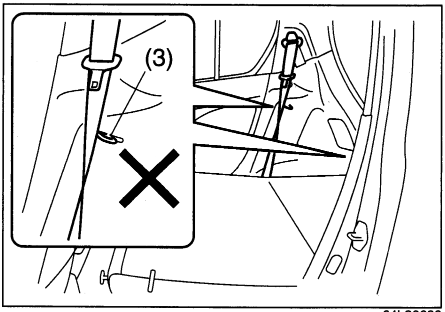
シートベルトが背もたれ固定用フック（3）にかみこまないように背もたれを起こし、固定される位置まで車の後ろ方向へ押しつけます。



64L30420

⚠注意

- **背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。固定が不確実な場合、走行中に突然シートが前に倒れ、思わぬけがのおそれがあります。**
- **シートベルトの傷つき防止のため、背もたれを起こす前にベルトが背もたれ固定用フック（3）にかかっていないことを確認してください。**
  ※ベルトにねじれがあると、フックにかかりやすくなります。



64L30680

チャイルドシート固定専用金具（別売り）

後席には、ISOFIX（※ 1）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が用意されています。

- 座面と背もたれのすき間にある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれ裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※2）】の規格です。

※2 ISO とは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

<マツダ純正用品の場合>

		ISOFIX アンカー	テザー アンカー
ISOFIX タイプの チャイルド シート	乳児用として後ろ向きに固定	○（使用）	×（不用）
	幼児用として前向きに固定	○（使用）	○（使用）

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-39 ページ**の「**お子様用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

お子さま用シートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1 後席のヘッドレスト（タイプ別装備）は、お子さま用シート取付けのさまたげとならないよう、一番高い位置に調節します。

2 後席の背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認します。

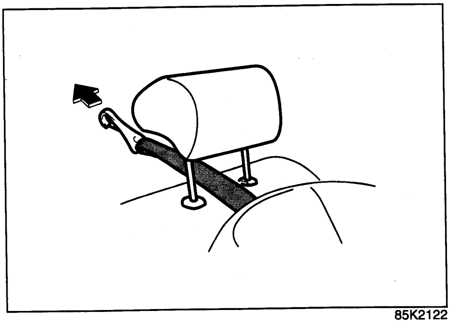
3 座面と背もたれのすき間を少し広げ、ISOFIX アンカーおよびテザーアンカーの位置を確認します。

4 ベースシートを ISOFIX アンカーへ取り付けます。

5 お子さま用シートをベースシートへ取り付けます。

6 テザーベルト（使用するときのみ）をテザーアンカーへ取り付けます。

- テザーベルトは、持ち上げたヘッドレスト（タイプ別装備）の２本の軸の間を通します。



85K2122

7 お子さま用シートをゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

⚠警告

- **お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIXアンカーやテザーアンカー周辺にシートベルトや異物などがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

ISOFIX タイプのお子さま用シートであっても、本車両で ISOFIX による固定の認可を取得していないお子さま用シートは取り付けないでください。

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトを着用するときは、次のことに注意してください。

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ 3-25ページ（正しい運転姿勢）

70K216

⚠警告

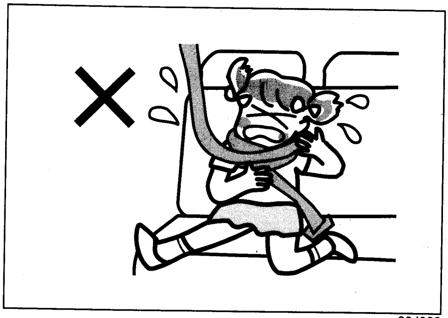
- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

お子さまもシートベルトを着用

→ 2-5ページ(お子さまを乗せるときは)

⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合はハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

- 妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。
- 妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。
→ **3-53ページ（シートベルト警告灯）**

アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK （OFF）にするまで消灯しません。

シートベルトの長さ調節

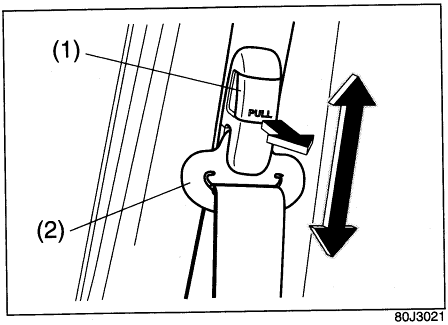
シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

タイプ別装備

身体の大きさにあわせて、ショルダーアンカー（2）の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー（1）を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーをはなします。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



80J3021

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

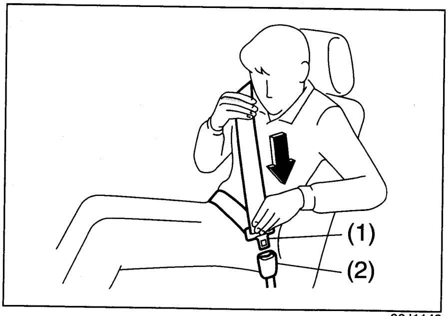
1 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 カチッという音がするまでタングプレート（1）をバックル（2）にしっかりと差し込みます。



80J1148

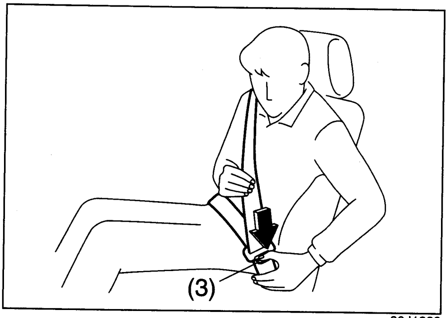
3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン（3）を押してください。シートベルトが自動的に巻きもどされます。



80J1328

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

衝突のときは

⚠警告

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**

- ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、前に投げ出されるおそれがあります。

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

⚠警告

- シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。
- バックルが正常に動かないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。
- バックルや自動巻取り装置の内部に異物を入れないでください。
- ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。
- ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ 6-4ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）

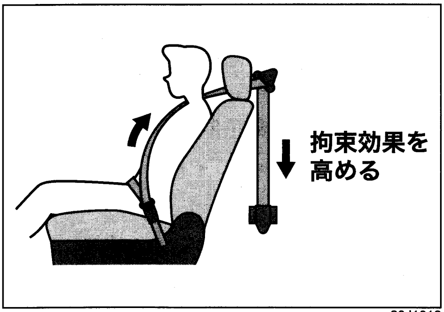
⚠警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となります。

シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、車の正面方向から強い衝撃を受けると、運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動して肩ベルトを瞬時に巻き取ります。また、運転席側はラップアウタープリテンショナー機構により、腰ベルトも同時に巻き取ります。



80J1018

⚠注意

プリテンショナーが一度でも作動すると、ベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。必ずマツダ販売店で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-25 ページ（部品の取付け、取外し、修理をするときは）**

作動するとき、作動しないとき

シートベルトプリテンショナーは、運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。

→ **3-44ページ
（SRSエアバッグシステムの作動）**

SRSエアバッグ警告灯

80J111

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-52ページ
（警告灯・表示灯の見かた）**

廃棄や廃車

作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

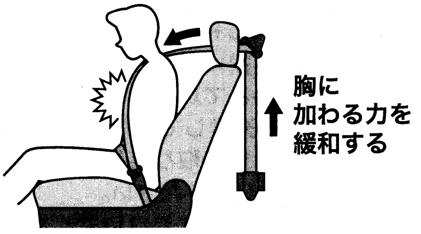
⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、マツダ販売店にご相談ください。

シートベルトの衝撃低減機構（前席のみ）

シートベルト可変ロードリミッターとは

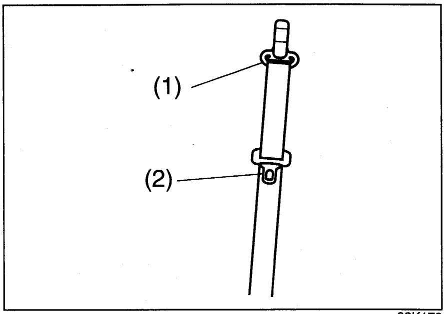
車の正面方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルト可変ロードリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを２段階に繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強いまさつで溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。必ずマツダ販売店で交換してください。



82K179

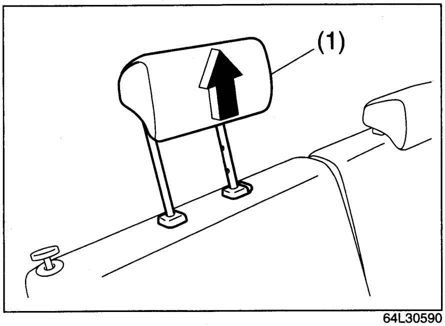
お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **2-6 ページ（お子さま用シートの選択の目安）**
- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-32ページの「チャイルドシート固定専用金具(別売り)」**をお読みください。

固定のしかた

お子さま用シートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1 お子さま用シートがヘッドレスト（1）にあたるのを防ぐため、ヘッドレストを持ち上げ、一番高い位置に調節します。（ヘッドレストの高さ調節については、**3-28 ページ**をお読みください）

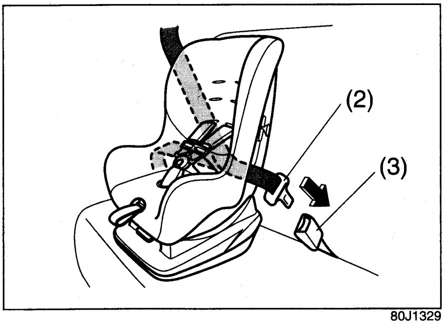


64L30590

⚠ 警告

ヘッドレストを一番高い位置に調節してもお子さま用シートにあたる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストにあたった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

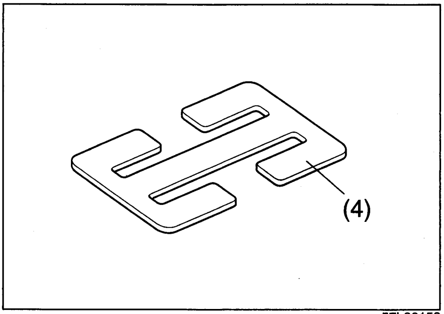
2 カチッと音がするまで、タングプレート（2）をバックル（3）にしっかりと差し込みます。



80J1329

3 お子さま用シートをしっかりと固定します。

- お子さま用シートのシートベルト固定機構またはお子さま用シートに付属のロッキングクリップ (4) を使用します。



57L30152

- 上図のロッキングクリップは代表例です。

アドバイス

お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップも備わっていない場合は、お子さま用シートを固定することはできません。

4 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

⚠ 警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

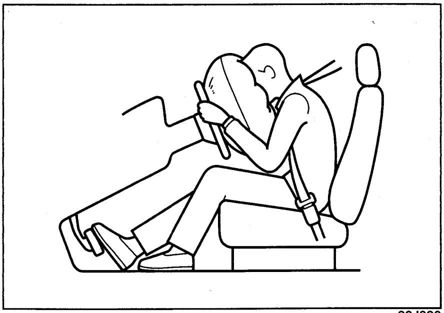
SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の正面方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面があたるような強い衝突のときに、運転席・助手席SRSエアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。

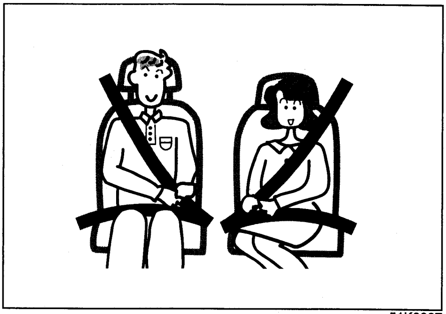


80J090

- シートベルトは必ず着用してください。
→ **3-36ページ**
（シートベルトの着用のしかた）

⚠警告

- SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。



51K0007

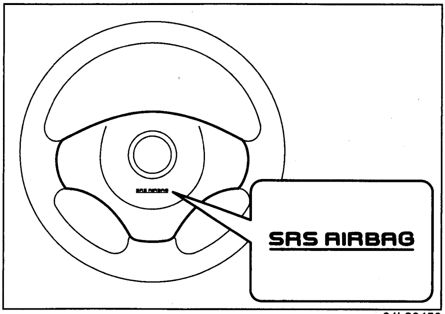
アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に同乗者が乗っていなくても、運転席SRSエアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

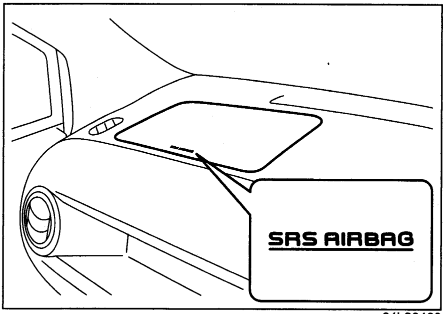
“SRS AIRBAG” の表示がある部分に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



64L30450

■ 助手席SRSエアバッグ



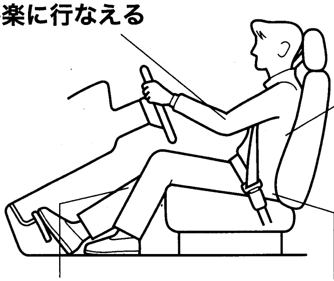
64L30460

⚠警告

- エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、マツダ販売店で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。
とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。
→ **3-25ページ（正しい運転姿勢）**



80J177

お子さま用シートの取付け

→ **2-6ページ（小さなお子さまはお子さま用シートへ）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲に物があると、物が飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠警告

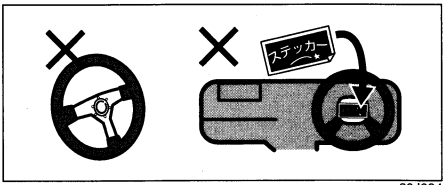
- **サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRSエアバッグの誤作動の原因になります。**
- **車両前部にグリルガードなどを装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
- **無線機などを取り付けるときは、マツダ販売店にご相談ください。無線機の電波などがSRSエアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。**
- **SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後は必ずマツダ販売店で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。**
- **SRSエアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。必ずマツダ販売店にご相談ください。**

- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- センターピラーまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRSエアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。万一のときにSRSエアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。

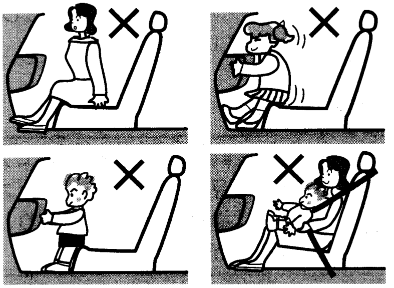


80J094

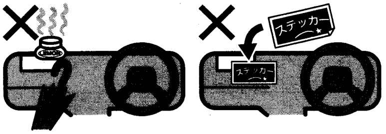
■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠警告

- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
  - お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。


80J095

  - シートベルトを正しく着用できないお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートに乗せてください。
- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

- フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（マツダ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

3

警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

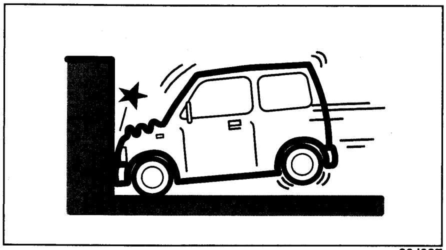
アドバイス

エアバッグは再使用できません。
必ず、マツダ販売店で交換してください。

こんなとき作動します

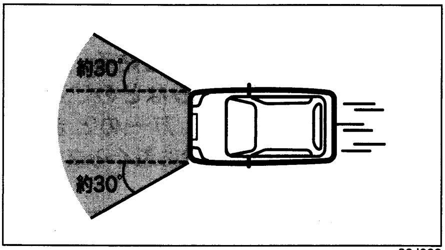
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約　30°以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



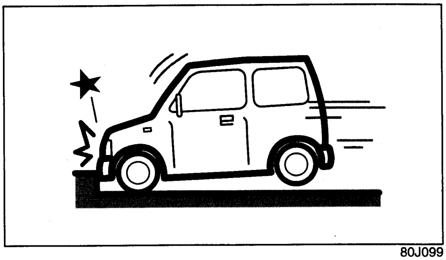
80J098

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

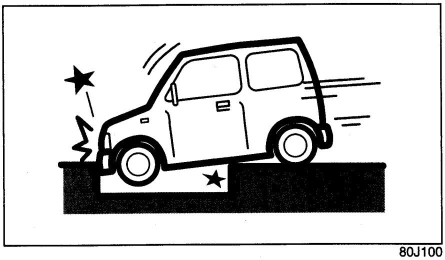
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

● 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



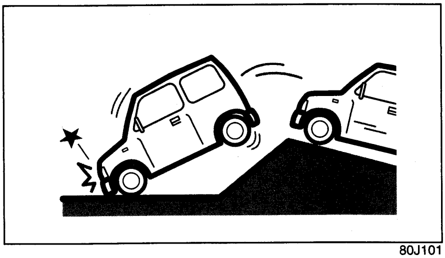
80J099

● 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



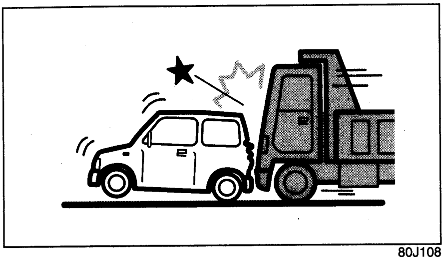
80J101

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

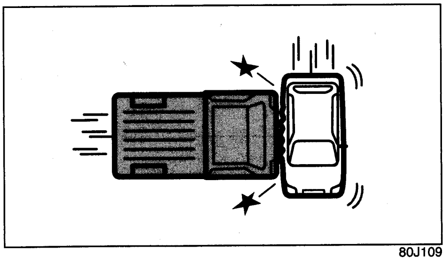
追突、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 追突されたとき



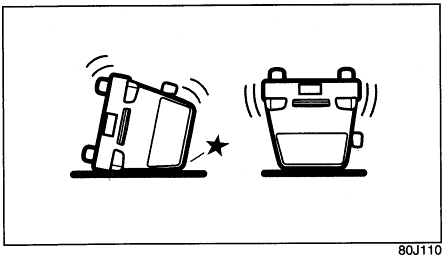
80J108

● 横方向から衝突されたとき



80J109

● 横転や転覆をしたとき



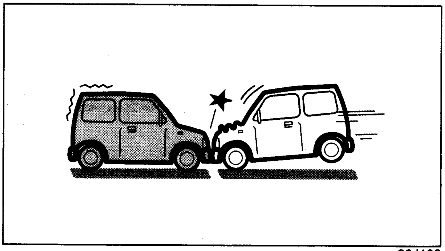
80J110

こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

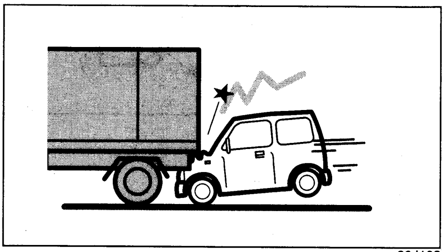
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

● 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



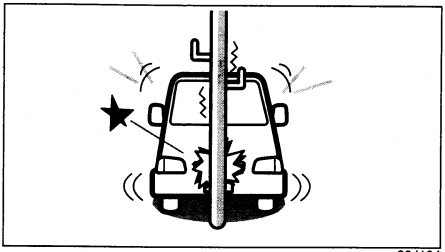
80J102

● トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



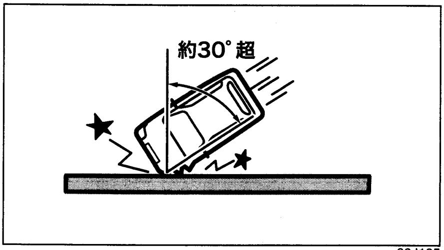
80J103

● 電柱や立木などに衝突したとき



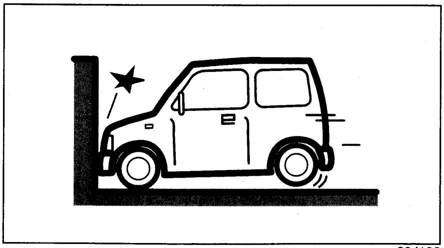
80J104

● 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



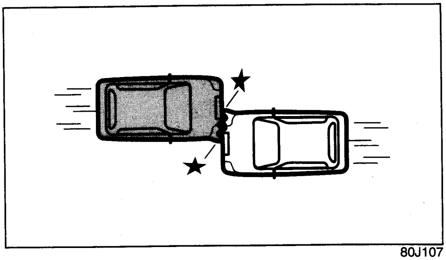
80J105

● 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/h以下のとき



80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



80J107

SRSエアバッグ警告灯

80J111

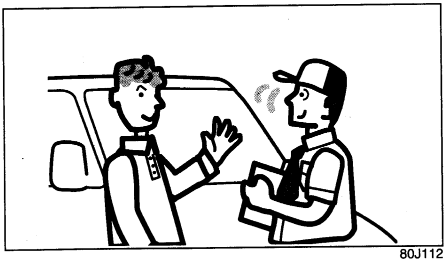
メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-52ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

廃棄と廃車

作動していないSRSエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、マツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー(EDR)とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー(EDR) システムを備えています。

3

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

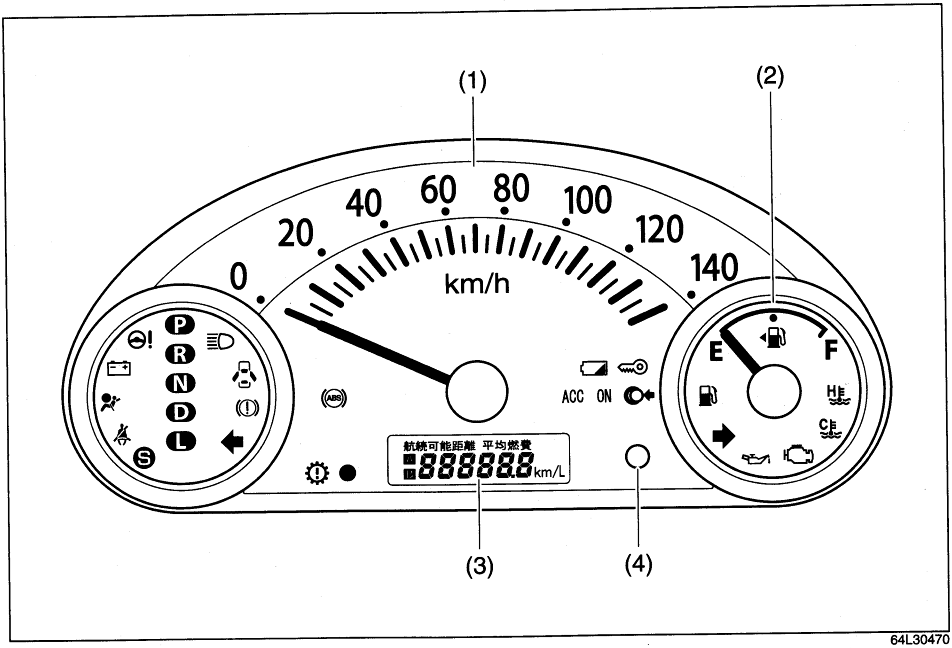
EDRデータの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



64L30470

(1) スピードメーター(速度計)
(2) 燃料計
(3) メーターのディスプレイ
(4) 表示切替えノブ

(1) スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

(2) 燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料の残量の目安が示されます。

アドバイス

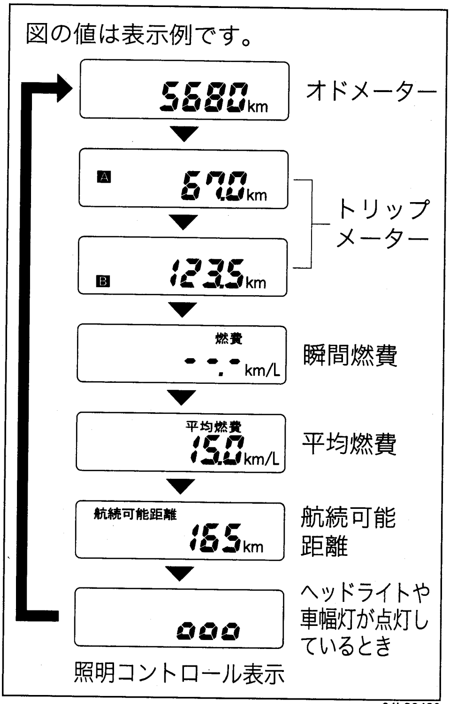
- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
  → **3-54ページ(燃料残量警告灯)**
- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから指針が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- ⛽ の左にある◀印は、給油口(フューエルリッド)が助手席側車両後方にあることを示します。

(3) メーターのディスプレイ

エンジンスイッチを ON にすると次のいずれかが表示されます。

- オドメーター（積算距離計）
- トリップメーター（区間距離計）
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離

メーター内の表示切替えノブ (4) を押すと、下図のように表示が切り替わります。



64L30480

⚠注意

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気をとられて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 表示は、ノブをはなしたときに切り替わります。
- 表示される燃費や航続可能距離は目安です。実際とは異なる場合があります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
  → **3-55ページ（エンジン警告灯）**

オドメーター

走行した総距離が km 単位で表示されます。

トリップメーター

A および B の切替えにより、2 種類の区間距離がkm単位で表示されます。

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまで表示切替えノブ (4) を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと0.0にもどります。

瞬間燃費

走行中に表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は 50.0 です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- 燃費が大きく変化する走行をすると、表示に遅れが発生します。

平均燃費

バッテリー接続後、またはリセット後の値が表示されます。

- リセットするときは、平均燃費の表示中に表示切替えノブ（4）を長押しします。

アドバイス

バッテリー接続後またはリセット後しばらくは、値が表示されません。

航続可能距離

燃料残量と平均燃費から算出した値が5 km単位で表示されます。

アドバイス

- 給油直後の値は、給油前の走行状況に左右されますので、給油ごとに値が異なる場合があります。
- エンジンスイッチを ON のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - エンジンスイッチを ON にしたあと少しの間
  - バッテリー接続後しばらくの間
  - 燃料残量警告灯の点灯中
    → **3-54ページ（燃料残量警告灯）**

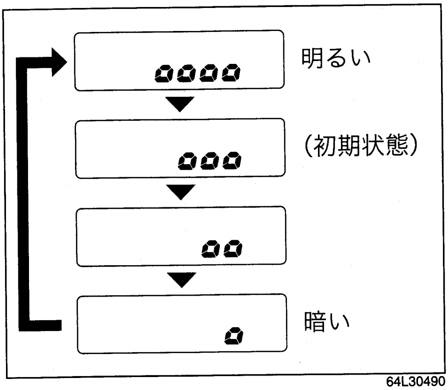
メーターの照明

メーターの照明は、ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

■ メーターの明るさ調節

4段階に調節できます。

- ヘッドライトや車幅灯を点灯させ、照明コントロール表示の状態（**3-50ページ**参照）で、表示切替えノブ（4）を長押しします。明るさが1段階ずつ変化します。



64L30490

⚠注意

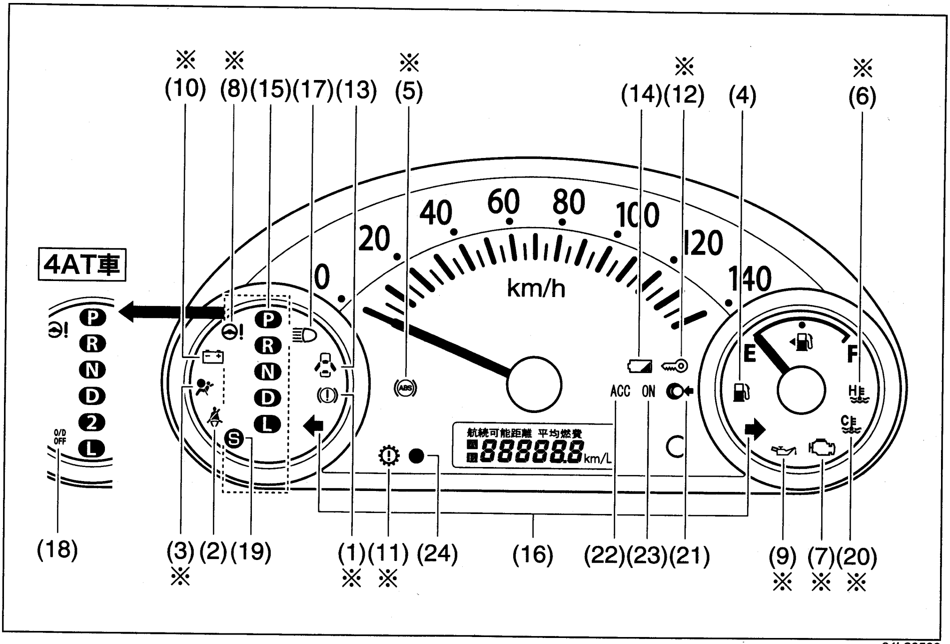
走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを短押しするか10秒以上押さないでいると、オドメーターの表示に切り替わります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され、初期状態にもどります。再度、明るさ調節をしてください。

警告灯・表示灯の見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



64L30500

(1) ブレーキ警告灯(※)
(2) シートベルト警告灯
(3) SRSエアバッグ警告灯(※)
(4) 燃料残量警告灯
(5) ABS警告灯(※)
(6) 水温警告灯(※)
(7) エンジン警告灯(※)
(8) パワーステアリング警告灯(※)
(9) 油圧警告灯(※)
(10) 充電警告灯(※)
(11) トランスミッション警告灯(※)
(12) イモビライザー警告灯(※)
(13) 半ドア警告灯
(14) 携帯リモコン電池消耗警告灯
(15) セレクトレバー位置表示灯
(16) 方向指示器表示灯
(17) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯
(18) オーバードライブOFF表示灯
(19) S(スポーツ)モード表示灯
(20) 低水温表示灯(※)
(21) プッシュ表示灯
(22) ACC表示灯
(23) IG ON表示灯
(24) セキュリティアラームインジケーター

アドバイス

※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯するのが正常です。点灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

(1) ブレーキ警告灯

82K170

次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- ブレーキ液が不足している
- パーキングブレーキをかけている
- ブレーキシステムに異常がある

システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

次のようなときはただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。

- **パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したときは、ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。**
- **ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したままのときは、ABSに異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。**

⚠注意

パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが"ピピピッ、ピピピッ"と鳴り続けます。

→ 4-13 ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）

アドバイス

走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

(2) シートベルト警告灯

80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約 95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK （OFF）にするまで消灯しません。

(3) SRSエアバッグ警告灯

80J111

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

次のような場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- **運転中に点灯**
- **エンジンスイッチを ON にしても点灯しない**
- **エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**

(4) 燃料残量警告灯

80J225

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  - 点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを ON にするごとに警告ブザーが鳴ります。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

(5) ABS警告灯

ABS装備車

80J127

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

- **次のような場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。**
  - **運転中に点灯**
  - **エンジンスイッチを ON にしても点灯しない**
  - **エンジンスイッチを ON にしたあと、約2秒間たっても消灯しない**

●ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。

アドバイス

システムに異常があると、ABSは作動しません。ただし、ABSがない通常のブレーキとして使用できます。

(6) 水温警告灯

82K082

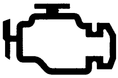
エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを [ON] にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

- 点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、処理をしてください。
→ **7-18ページ (オーバーヒートしたときは)**
- 水温警告灯と低水温表示灯が同時に点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

(7) エンジン警告灯



80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを [ON] にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

点滅したときは、運転を続けないでください。触媒装置が溶損するおそれがあります。

- **点滅中は、アクセルペダルを大きく踏み込む走行をしないでください。すみやかに枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。**
- **マツダ販売店にご連絡ください。近くにマツダ販売店がある場合は低速走行(速度約50 km/h以下)で行き、点検を受けてください。**

アドバイス

エンジン回転中に点灯したときは、高速走行を避けてマツダ販売店に行き、点検を受けてください。

(8) パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

アドバイス

- 次のような場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 運転中に点灯
  - エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
  - エンジンをかけても消灯しない
- 電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止します。この場合はハンドル操作が重くなるため、通常より大きな力で操作してください。

3

(9) 油圧警告灯

80J223

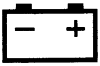
エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。

アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてマツダ販売店にご連絡ください。
- 点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

(10) 充電警告灯



80J226

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

アドバイス

エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、マツダ販売店にご連絡ください。

(11) トランスミッション警告灯

オートマチック車

80J219

4ATまたはCVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

次のような場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 運転中に点灯
- エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
- エンジンスイッチを ON にし、約2秒間たっても消灯しない

(12) イモビライザー警告灯

64L30690

→ **4-3ページ (イモビライザーシステム)**

アドバイス

車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯することがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

(13) 半ドア警告灯

82K274

いずれかのドアが完全に閉まっていないと点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

⚠注意

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

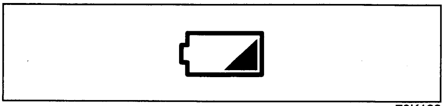
バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。
(バッテリーセーバー機能)

- エンジンスイッチが LOCK (OFF)の位置で、プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車はキーを差していない
- ドアを開けたまま15分が経過

3

(14) 携帯リモコン電池消耗警告灯

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

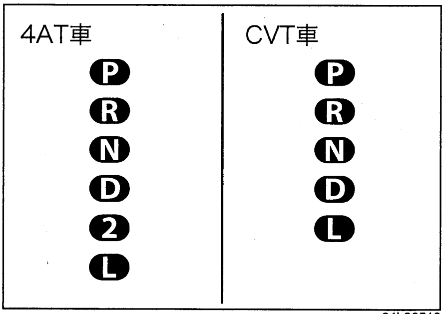


70K122

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、約15 秒間点灯します。電池の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

(15) セレクトレバー位置表示灯

オートマチック車



64L30510

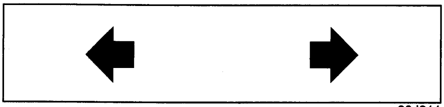
エンジンスイッチが ON のときに、セレクトレバーの位置を示します。

→ **4-14 ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**

アドバイス

エンジンスイッチを ON にしても点灯しないときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

(16) 方向指示器表示灯



80J211

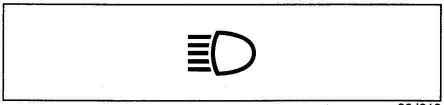
方向指示器／非常点滅灯を作動させると点滅します。

アドバイス

点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅灯の電球切れが考えられます。

→ **7-14ページ**
（電球を交換するときは）

(17) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

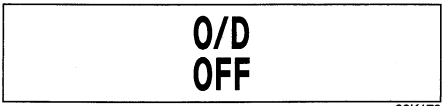


80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

(18) オーバードライブOFF表示灯

4AT車



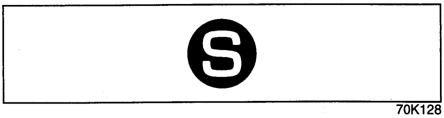
82K173

オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFのときに点灯します。

→ **4-16 ページ（オーバードライブ（O/D）スイッチ）**

(19) S(スポーツ)モード表示灯

CVT車

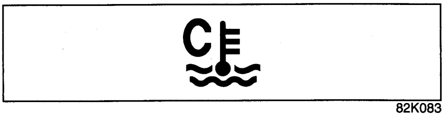


70K128

S（スポーツ）モードスイッチがONのときに点灯します。

→ **4-17ページ**
（S（スポーツ）モードスイッチ）

(20) 低水温表示灯



82K083

エンジンスイッチが ON のときに、エンジン冷却水温が低いと点灯し、エンジンが暖まると消灯します。

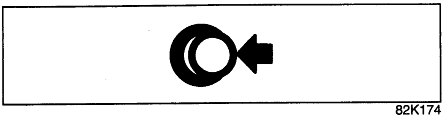
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯します。そのあとはエンジン冷却水温の状態により点灯または消灯します。

アドバイス

暖機を十分にしても点灯したままのときは、センサーの異常が考えられます。また、点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

(21) プッシュ表示灯

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

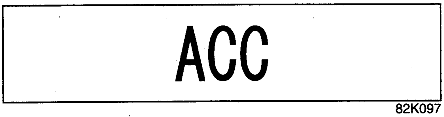


82K174

- ブレーキペダルを踏んで点灯したときは、エンジンの始動が可能です。ただし、始動できず点滅したときは、**4-10ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅してエンジンがかからないときは**」をお読みください。
- ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押して点滅したときは、**4-6ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅して電源が切り替わらないときは**」をお読みください。

(22) ACC表示灯

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車



82K097

エンジンスイッチが ACC 位置にあると点灯します。

→ **4-5ページ（電源の切替えのしかた）**

アドバイス

バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたして約60分が経過すると、自動的に消灯してエンジンスイッチが LOCK （OFF）位置に戻ります。

- ブレーキペダルが踏まれていない
- セレクトレバーが P 位置
- すべてのドアが閉まっている

(23) IG ON表示灯

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

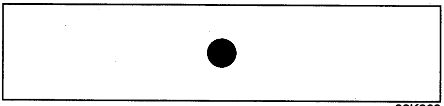
ON

82K098

エンジン停止状態で、エンジンスイッチが ON 位置にあると点灯します

→ **4-5ページ(電源の切替えのしかた)**

(24) セキュリティアラームインジケーター



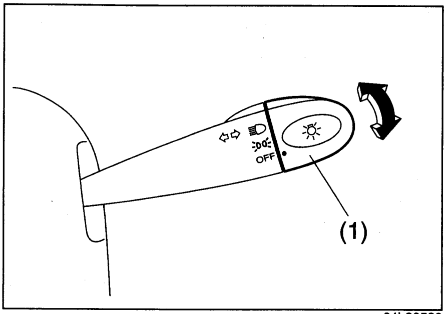
82K269

- セキュリティアラームが<**警報モード**>のときに、ドアをキーレスエントリーまたはプッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車のリクエストスイッチで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを ON にしたときに約8秒間小刻みに点滅します。
  → **3-16ページ(セキュリティアラーム)**
- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミ(1)をまわすと次のように点灯・消灯します。



64L30520

ライトスイッチの位置	ヘッドライト(前照灯)	車幅灯、尾灯、番号灯、計器照明灯
≣D	点灯	点灯
⊰00⊱	消灯	点灯
OFF	消灯	消灯

アドバイス

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

キーを抜いたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

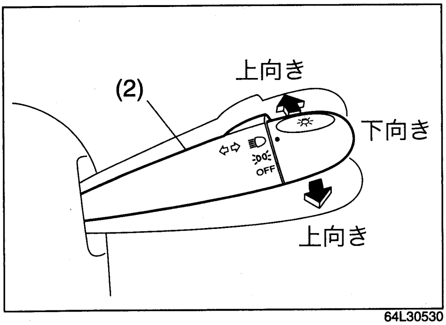
エンジンスイッチを LOCK (OFF) にしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（2）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。
  → **3-58ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



64L30530

アドバイス

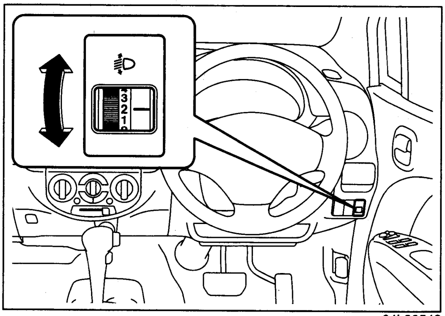
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

3

光軸調整ダイヤル

ヘッドライトを点灯して光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。
荷物や同乗者を乗せてライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **4** まであり、光軸が9段階（0.5きざみ）に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。
- 前席のみ乗車している場合はダイヤルを **0** の位置にします。



64L30540

⚠注意

- **走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを０の位置にしてください。０以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。**

アドバイス

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。
- 荷物や同乗者をおろしたあとは、ダイヤルを**0**の位置にもどしてください。
- 荷物や同乗者ののせかたによって変わりますが、下表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	**0**
運転席および助手席に乗車	
４名乗車	**1.5**
４名乗車で荷室満載	**2**
運転席のみ乗車で荷室満載	**3**

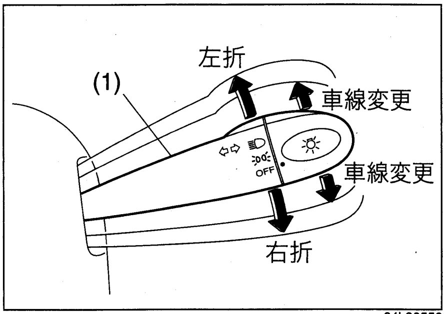
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



64L30550

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

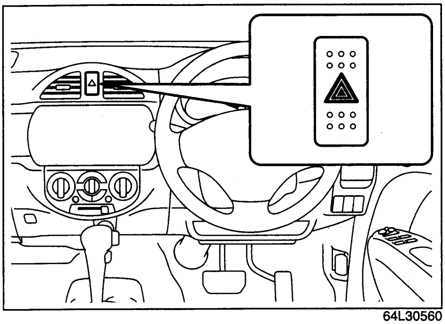
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



64L30560

アドバイス

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

3

ワイパー/ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

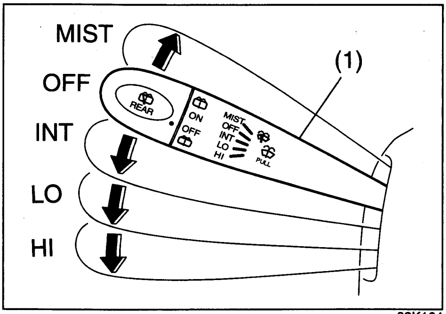
- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつき、視界を悪くすることがあります。**
- **寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。**
  →　5-2ページ（デフロスター）

アドバイス

- ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが傷つくことがあります。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作します。



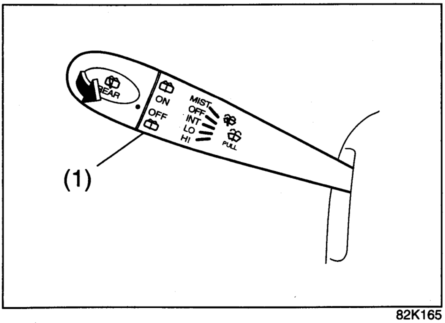
82K164

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

フロントウォッシャースイッチ

レバー(1)を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。

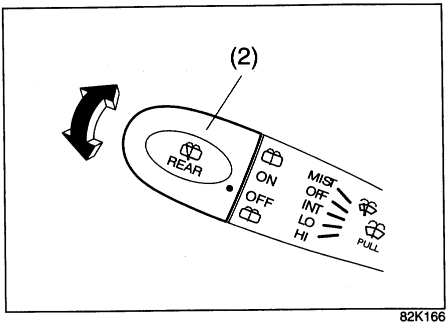


82K165

リヤワイパースイッチ

タイプ別装備

ツマミ（2）をまわします。



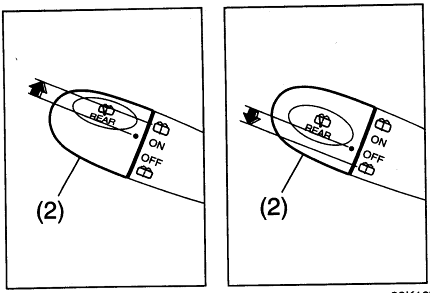
82K166

ON	作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

タイプ別装備

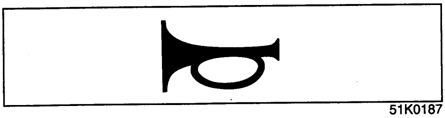
- 図の ⬆ 方向にツマミ（2）をまわし、ON の上にある（ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手をはなすと ON にもどります。
- 図の ⬇ 方向にツマミ（2）をまわし、OFF の下にある（ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射します。
  ツマミから手をはなすとOFFにもどります。



82K167

ホーンスイッチ

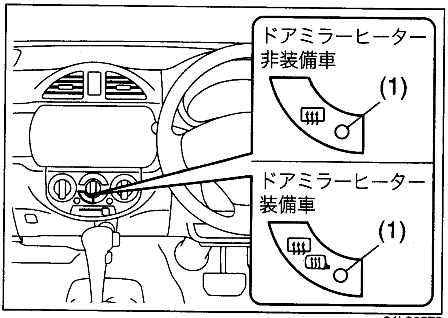
エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。


51K0187

リヤデフォッガースイッチ

エンジン回転中に使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められて、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- ドアミラーヒーター装備車では、バックウインドーガラスとドアミラーが同時に暖められます。



64L30570

アドバイス

- エンジン停止中はスイッチが入りません。
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。また、約 15 分経過する前にエンジンスイッチを ACC または LOCK （OFF）にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。
- バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。
- 雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりすることには使用しないでください。
- バックウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

4. 運転するときは

● エンジン始動

エンジンスイッチの各位置のはたらき ………… 4-2
イモビライザーシステム ………………………… 4-3
プッシュボタンスタート＆
　アドバンストキーレスエントリーシステム … 4-4
エンジンのかけかた ……………………………… 4-8

● パーキングブレーキ

パーキングブレーキの操作 ……………………… 4-12

● チェンジレバー

チェンジレバーの操作 …………………………… 4-13

● オートマチック車

セレクトレバーの操作 …………………………… 4-14
オートマチック車の特性 ………………………… 4-17
オートマチック車を運転するとき ……………… 4-19
オートマチック車の運転のしかた ……………… 4-20

● ABS

ABS装備車の取扱い ……………………………… 4-24

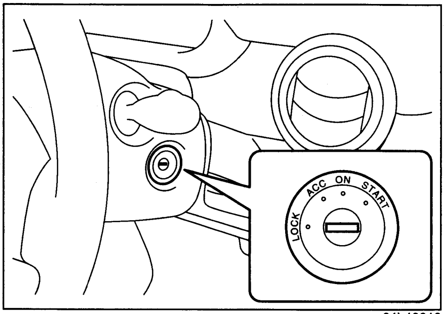
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

4

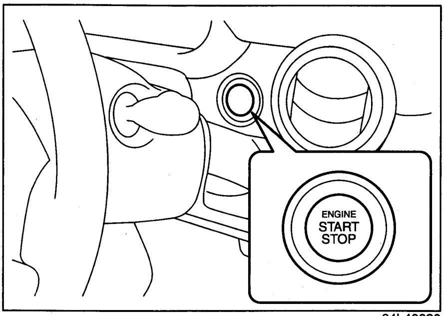
エンジンスイッチの各位置のはたらき

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車



64L40010

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車



64L40020

● 上図のエンジンスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

位置	エンジンの状態	プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車	プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車
LOCK (OFF)	停止	駐車するとき、キーを抜き差しするときの位置です。キーを抜いてハンドルをまわすと、ハンドルは自動的にロックされます。	駐車するときの位置です。エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしてハンドルをまわすと、ハンドルは自動的にロックされます。
ACC	停止	エンジンをかけずにオーディオやドアミラー、アクセサリーソケットなどの電装品を使用するときの位置です。	エンジンをかけずにオーディオやドアミラー、アクセサリーソケットなどの電装品を使用するときの位置です。メーター内のACC表示灯が点灯します。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーター内のIG ON表示灯などが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。IG ON表示灯は点灯しません。
START	始動	エンジンをかけるときの位置です。始動したらキーから手をはなしてください。キーは自動的に ON にもどります。	携帯リモコンを所持してセレクトレバーを P にし、ブレーキを踏んでエンジンスイッチを押すと、自動的に始動します。

アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを LOCK から ACC または ON にしたときに解除されます。
- プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車の場合、強い電波やノイズの影響を受けると、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ラジオなどを聞かないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ハンドルロックが解除できないときは

ハンドルの負荷などが原因として考えられます。ハンドルを左または右にまわして負荷がかからない状態としながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。

イモビライザーシステム

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたリモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

■ イモビライザー警告灯

64L30690

メーターパネル内にあります。
→ **3-52ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- エンジンの始動が可能な場合は、エンジンをかけるときに、約２秒間点灯したあと消灯します。点滅すると、エンジンの始動ができません。
  → **4-10 ページ（プッシュ表示灯が点滅してエンジンがかからないときは）**
- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。
  → **4-6 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**

アドバイス

エンジンをかけるときに、約５秒間点灯したあと消灯すると、エンジンがかからない場合があります。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム

タイプ別装備

所持している携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7 ページ**参照）に入っていると、エンジンスイッチによる始動および電源の切替えが可能となります。
また、その他に下記の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-8ページ（キーレスエントリー）**
- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
  → **3-11ページ（携帯リモコン）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-3ページ（イモビライザーシステム）**

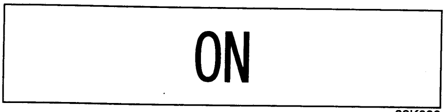
ACC表示灯

82K097

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが ACC 位置にあると点灯します。
  → **3-52ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
  → **4-5ページ（電源の切替えのしかた）**

IG ON表示灯

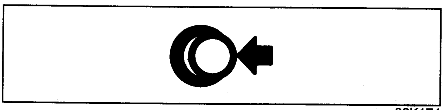


82K098

メーターパネル内にあります。

- エンジン停止状態で、エンジンスイッチが ON 位置にあると点灯します。
  → **3-52ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
  → **4-5ページ（電源の切替えのしかた）**

プッシュ表示灯



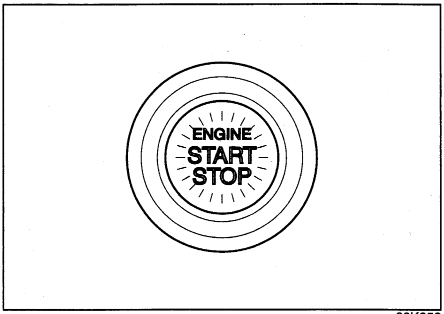
82K174

メーターパネル内にあります。

- ブレーキペダルを踏んで点灯したときは、通常エンジンの始動が可能です。
  ただし、始動できず点滅したときは、**4-10 ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅してエンジンがかからないときは**」をお読みください。
- ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押して点滅したときは、**4-6 ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅して電源が切り替わらないときは**」をお読みください。

エンジンスイッチ照明

- 運転席ドアを開けると点灯します。
- 運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。



82K253

アドバイス

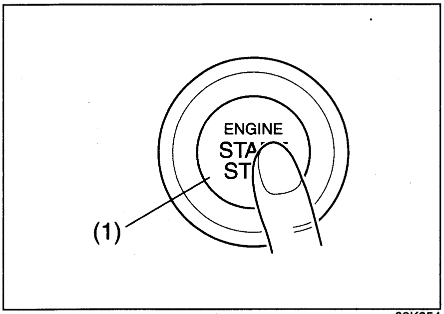
バッテリー保護のため、運転席ドアを閉め忘れて点灯させたままにしていても、約15分が経過すると自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)

電源の切替えのしかた

エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。
なお、この切り替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

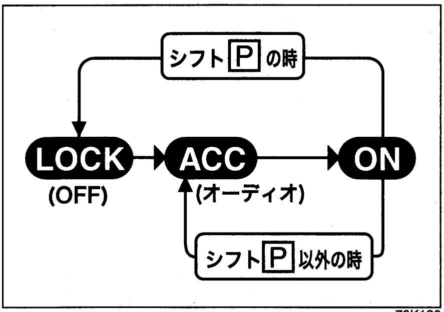
1. 携帯リモコンを所持して運転席に座ります。

2. ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。



82K254

- 押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わります。



70K130

アドバイス

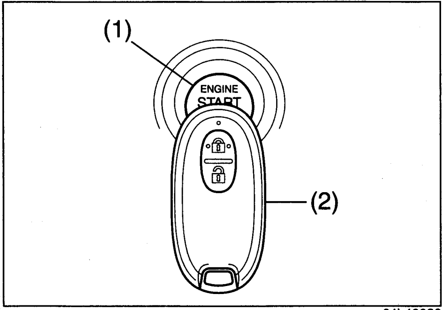
セレクトレバーが P 以外の位置にあると、LOCK（OFF）にはもどせません。

■ プッシュ表示灯 が点滅して電源が切り替わらないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、メーター内のプッシュ表示灯 の消灯後、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1. ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

2. メーター内のプッシュ表示灯 が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間あてます。



64L40030

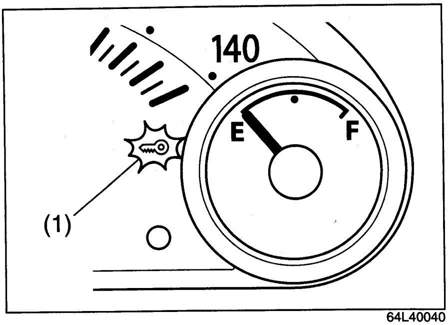
アドバイス

- 前記手順を何度繰り返しても切り替わらないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。
- プッシュ表示灯 の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間点灯します。電池の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内／車外ブザーが約2秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のイモビライザー警告灯が点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- エンジン回転中、またはエンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内にない場合
- エンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、エンジンをかけようとしたときに携帯リモコンが車内にない場合



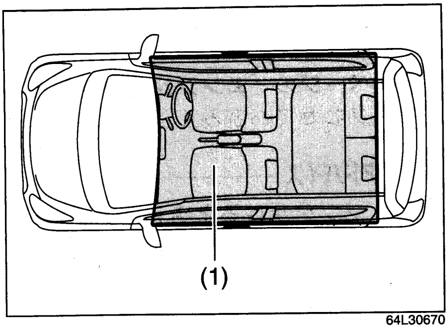
(1) イモビライザー警告灯(点滅)

アドバイス

- 警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンの場所を確認してください。
- 警告作動中はエンジンの再始動ができません。
- イモビライザー警告灯の点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしてから再操作してください。
- 携帯リモコンは必ず運転者が所持し、管理してください。

エンジン始動/電源切替え/携帯リモコン車外持ち出し警告の作動範囲(車内)

「車内の作動範囲」(1)は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



アドバイス

- **「車内の作動範囲」**に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが次のような小物入れの中にある
    - ・インパネアンダートレイ(運転席)
    - ・グローブボックス
    - ・ドアポケット
  - 携帯リモコンがサンバイザーや床にある
- **「車内の作動範囲」**に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

4

エンジンのかけかた

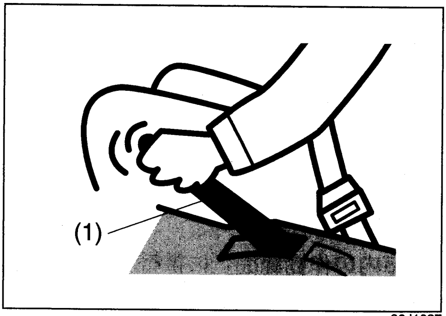
2-10 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

アドバイス
- エンジンをかけるときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。

→ **4-3 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

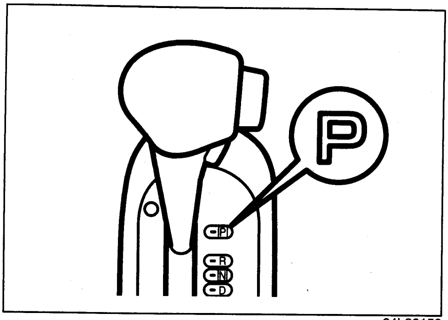
1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。



80J1037

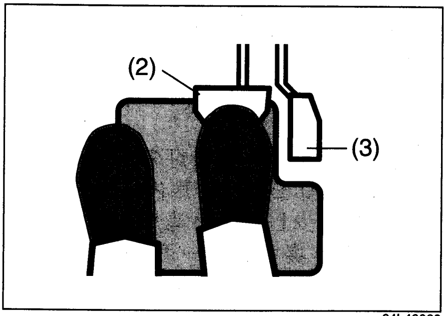
2 マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを確認します。

オートマチック車 は、セレクトレバーが P になっていることを確認します。



64L20150

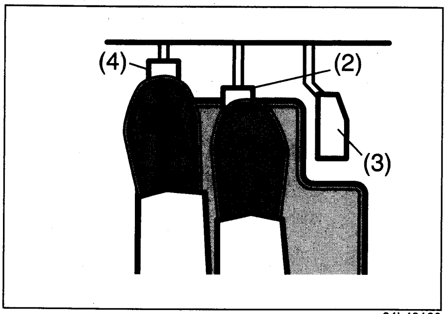
3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。



64L40060

(3) アクセルペダル

4 マニュアル車 は、左足でクラッチペダル（4）をいっぱいまで踏み込みます。

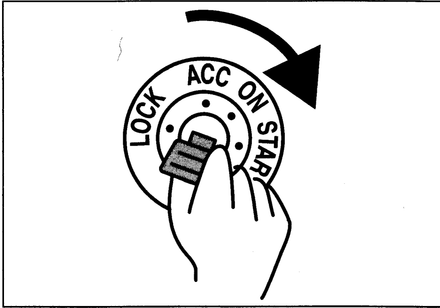


64L40160

(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

■クラッチスタートシステム
マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

5 キーを START まで回します。



80J1036

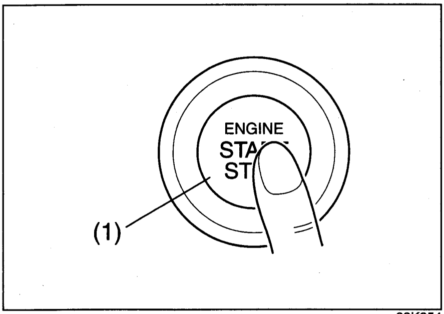
- エンジンがかかったら、すみやかにキーから手をはなします。

アドバイス
- バッテリー保護のため、キーを START にまわした状態を 8 秒以上続けないでください。エンジンがかからないときは、キーを一度 ACC にもどし、10 秒以上待ってから再びかけてください。
- 前記手順を何度繰り返してもエンジンがかからないときは、バッテリーあがりなどの原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

1、2、3は、プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車と同じ操作です。

4 メーター内のプッシュ表示灯 が点灯したら、エンジンスイッチ（1）を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。



82K254

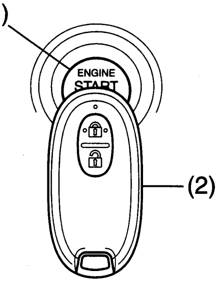
アドバイス
エンジンがかからなくても、スターターはしばらくすると自動的に停止します。自動停止後またはシステム異常時は、エンジンスイッチを押している間だけ、スターターがまわります。

4

■ プッシュ表示灯 が点滅してエンジンがかからないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、メーター内のプッシュ表示灯 の消灯後、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1. セレクトレバーが P にあることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。
2. メーター内のプッシュ表示灯 が点灯したら、エンジンスイッチ（1）を押します。
3. メーター内のプッシュ表示灯 が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間あてます。



64L40030

4

アドバイス

- 前記手順を何度くりかえしてもエンジンがかからないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。
- プッシュ表示灯 の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間点灯します。電池の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

エンジンを止めるときは

⚠警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **ABS（タイプ別装備）が作動しません。**

⚠注意

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッション（タイプ別装備）が損傷するおそれがあります。

■ プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

エンジンスイッチを ACC にもどします。

⚠警告

マニュアル車 は走行中、絶対にエンジンスイッチを LOCK にもどさないでください。キーが万一抜けると、ハンドルがロックされてまわせなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中(緊急時)	エンジンスイッチを3秒以上長押しする

アドバイス

停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを３秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

キーを抜くときは

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

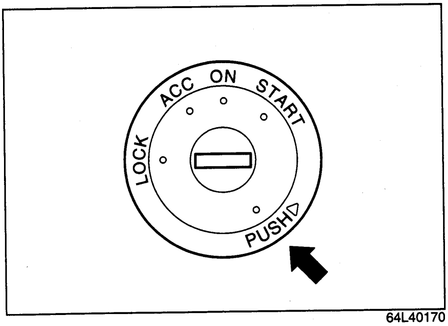
■ オートマチック車

誤操作防止のため、セレクトレバーが P のときだけキーが抜けます。

→ **4-18ページ(キーインターロック)**
→ **4-23ページ(駐車)**

■ マニュアル車

ACC → LOCK は、キーを押し込んでまわします。



64L40170

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

- キーを ACC または LOCK にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- キーを抜くと、室内ブザーが止まります。

エンジンスイッチをもどすときは

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

誤操作防止のため、セレクトレバーが P のときだけエンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどせます。

→ **4-23ページ (駐車)**

アドバイス

- セレクトレバーが P 以外の位置にあると、LOCK (OFF) にはもどせません。LOCK (OFF) にもどすときは、セレクトレバーが P にあることを確認してから、エンジンスイッチを押してください。
- ハンドルロックの故障などで、エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどせないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - 盗難を防ぐため、キー操作にてドアを施錠してください。(リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません)
  - バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。(10 mm スパナなどの市販工具が必要です)

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを ACC にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- エンジンスイッチを2回押して LOCK (OFF) にもどすと、室内ブザーが止まります。

アドバイス

車から離れるときは盗難防止のためエンジンを停止し、必ずエンジンスイッチを LOCK (OFF)にもどしたことを確認して、ドアを施錠してください。
LOCK (OFF) にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

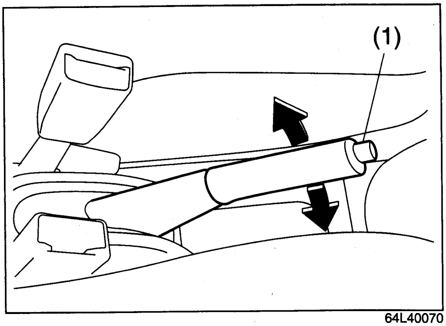
■ ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを LOCK(OFF) にしてもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。マツダ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- 駐車するときは、ボタン (1) を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。
- 解除するときは、レバーを少し引き上げながらレバー先端のボタン (1) を押し込み、そのまま下まで完全におろします。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動きだす感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



64L40070

⚠注意

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。
万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。
→　3-53ページ　(ブレーキ警告灯)

■ パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

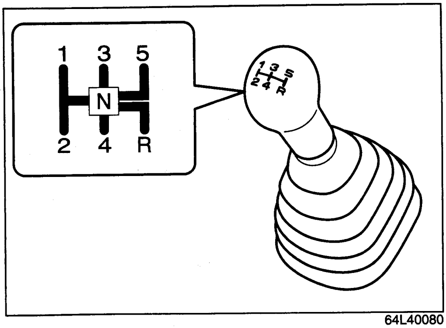
アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、パーキングブレーキを解除し忘れて走行しても、警告ブザーが鳴らなくなります。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。



64L40080

アドバイス

誤操作防止のため、5速からR（リバース）に直接入れることはできません。一度N（ニュートラル）に入れてからRへ操作してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、下表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

シフトダウン	上限速度（km/h）	
	2WD車	4WD車
2速 → 1速	35	30
3速 → 2速	60	55
4速 → 3速	100	95
5速 → 4速	145	130

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

アドバイス

上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。

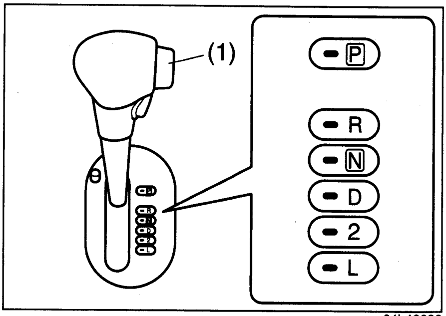
セレクトレバーの操作

オートマチック車

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「4AT 車」と「CVT 車」の両方を示しています。

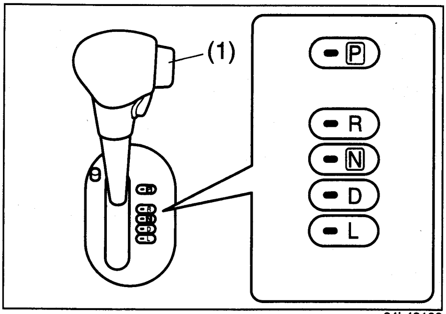
セレクトレバーの各位置のはたらき

4AT車



64L40090

CVT車



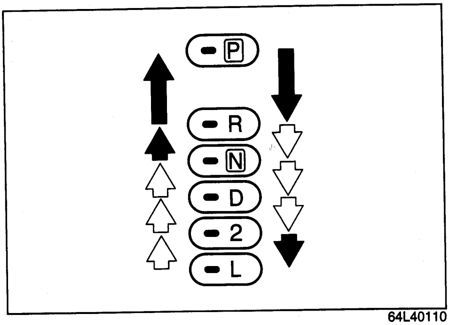
64L40100

(1) ボタン

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するとき、プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車のキーを抜くときの位置 ●駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
2 セカンド（4AT車）	エンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは 1 速と 2 速の間で自動的に切り替わります。坂道を走行するときなどに使用します。
L ロー	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な下り坂を走行するときなどに使用します。

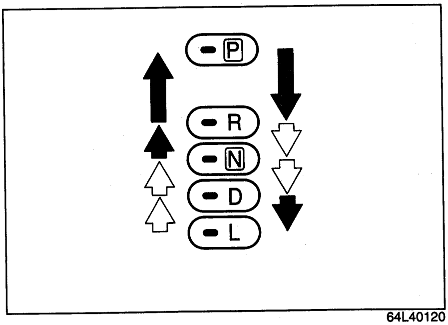
セレクトレバーの動かしかた

4AT車



64L40110

CVT車



64L40120

⬇	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
⬆ ⬇	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

アドバイス

- ⇧⇩ の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣を付けてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P R L へ入れてしまうおそれがあります。

- 運転席および助手席にお乗りの方は、乗車姿勢にご注意ください。
膝などがあたって、セレクトレバーを動かしてしまうおそれがあります。
- 走行中は、セレクトレバーを R に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。なお、CVT 車はトランスミッション保護のため、前進車速が約10 km/h以上のときは変速されません。(ニュートラルのまま)

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P から他の位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK (OFF) のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P から他の位置に動かせません。

アドバイス

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P から他の位置へ動かせない場合、次の手順でシフトロックを解除してください。
この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

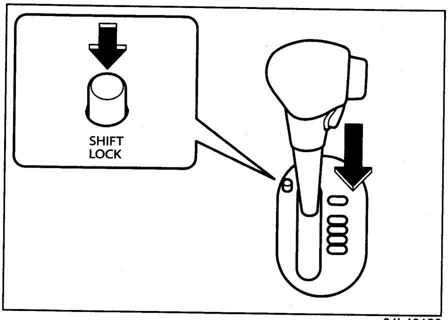
4

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障やバッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、エンジンスイッチを ACC にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



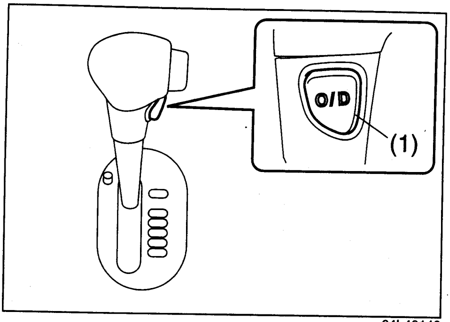
64L40130

- 上図のセレクトレバーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

オーバードライブ（O/D）スイッチ

4AT車

- スイッチを押すごとに、ONとOFFが切り替わります。
- OFFのときに、メーター内のオーバードライブOFF表示灯が点灯します。



64L40140

(1) オーバードライブ(O/D)スイッチ

アドバイス

オーバードライブスイッチは、エンジン始動時には自動的にON状態へもどります。このときオーバードライブOFF表示灯が消灯します。

■ スイッチがONのときは

通常走行に適しています。

- セレクトレバーが D のときに、1速から4速の間で自動変速し、燃費性能と静粛性を高めます。

アドバイス

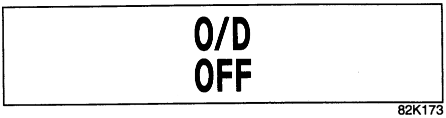
スイッチがONでも、AT油温、エンジン水温が低いと、4速ギヤに入らない場合があります。

■ スイッチがOFFのときは

坂道や山間路の走行に適しています。

- セレクトレバーが D のときに、1速から3速の間で自動変速します。
- 下り坂では、軽いエンジンブレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

■ オーバードライブOFF表示灯



82K173

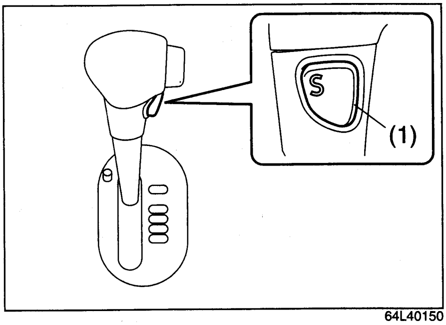
メーターパネル内にあります。

- オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFのときに点灯します。
  → **3-52ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）

S（スポーツ）モードスイッチ

CVT車

- スイッチを押すごとに、ON と OFF が切り替わります。
- ON のとき、メーター内の S（スポーツ）モード表示灯が点灯します。



64L40150

(1) S(スポーツ)モードスイッチ

アドバイス

S（スポーツ）モードスイッチは、エンジン始動時にはOFF状態にもどります。このときS（スポーツ）モード表示灯が消灯します。

■ スイッチがONのとき

坂道や山間路の走行に適しています。

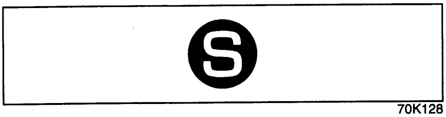
- 下り坂ではエンジンブレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転数を高く保ち、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ スイッチがOFFのとき

通常走行に適しています。

- 燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

■ S（スポーツ）モード表示灯



70K128

メーターパネル内にあります。

- S（スポーツ）モードスイッチがONのときに点灯します。
  → **3-52ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

キックダウン

走行中(低車速時を除く)にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登降坂変速制御

■ 4AT車

セレクトレバーが D および 2 の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトアップを制限し、エンジンの回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。
- 4速走行時に降坂中と判断したときは、ブレーキペダルを踏むと3速にシフトダウンし、軽いエンジンブレーキがかかります。

■ CVT車

セレクトレバーが D の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

キーインターロック

プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

誤操作防止のため、セレクトレバーが P のときだけキーが抜けます。これをキーインターロックといいます。

アドバイス

キーを抜くときは、セレクトレバーが P にあることを確認してから、キーを LOCK にもどしてください。

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯

80J219

メーターパネル内にあります。

- 4ATまたはCVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-52ページ**
(警告灯・表示灯の見かた)

R(リバース)ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R(リバース)ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

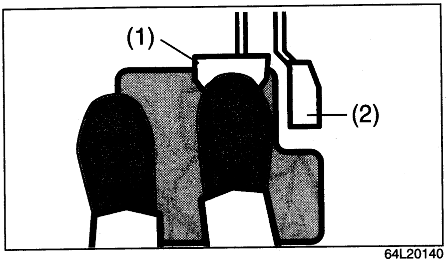
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

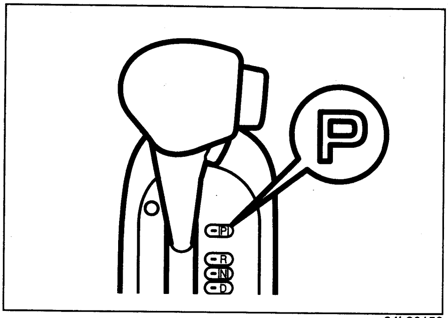
⚠注意

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



64L20150

⚠注意

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

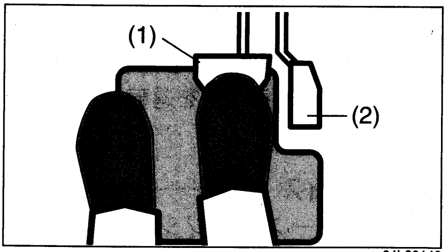
オートマチック車の運転のしかた

4-14 ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節し、ハンドルを調節（タイプ別装備）します。
→ **3-25ページ（前席シート）**
→ **3-24ページ（チルトステアリング）**

2 アクセルペダル（2）とブレーキペダル（1）の位置を右足で確認します。



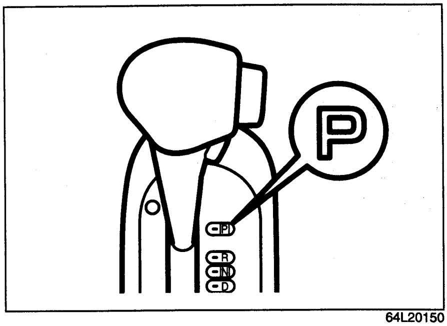
64L20140

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は**4-8ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



64L20150

アドバイス

セレクトレバーが N の位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

4 ブレーキペダルからゆっくりと足をはなし、アクセルペダルを慎重に踏んで発進します。

⚠注意

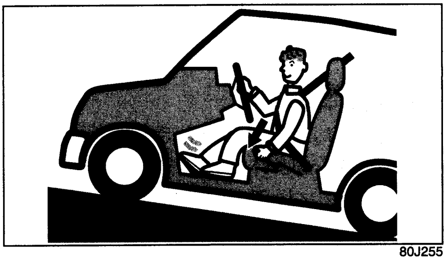
発進時の速度の調節は、アクセル操作だけです。アクセルペダルはゆっくり慎重に踏んでください。

■ 急な上り坂での発進

1、2は「通常の発進」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足をはなし、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動きだす感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。


80J255

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠注意

●緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。
●4AT車の場合、高速走行中はセレクトレバーを 2 や L に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかって、スリップ事故を起こすおそれがあります。また、エンジンの回転が上がりすぎて故障の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

4AT車

- 坂の勾配に応じて、あらかじめオーバードライブ（O/D）スイッチをOFFにするか、セレクトレバーを 2 に入れておくと、エンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。
- 急な上り坂で、1速と2速の変速を繰り返すようなときには L に入れます。

CVT車

坂の勾配に応じて、あらかじめS（スポーツ）モードスイッチをONにしておくと、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

4AT車

- 坂の勾配に応じて、あらかじめオーバードライブ（O/D）スイッチをOFFにするか、セレクトレバーを 2 に入れてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

CVT車

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S（スポーツ）モードスイッチを ON にしてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

4

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠注意

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

上り坂などで、アクセルをふかしながら車を停止させないでください。トランスミッションオイルが過熱し、故障の原因となります。

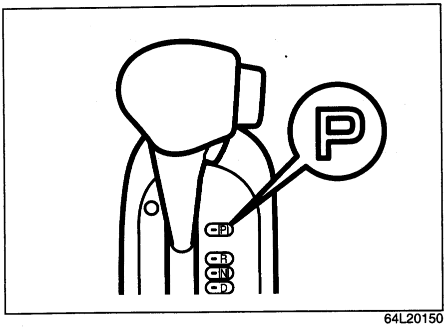
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足をはなします。

- セレクトレバーが P の位置になっているか目で確かめます。



64L20150

⚠注意

駐車するときは、必ずセレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 エンジンスイッチが LOCK (OFF) にあることを確認します。プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車はキーを抜きます。

⚠注意

車から離れるときは、必ずエンジンスイッチを LOCK (OFF) にしてください。また、プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車は、必ずキーを抜いてください。

4

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

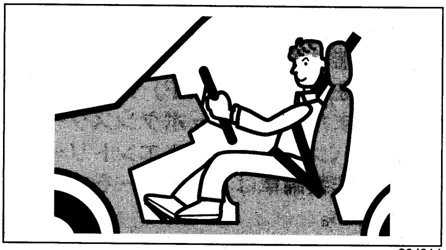
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠警告

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（※）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。
※4AT車の D 2 L
CVT車の D L

■ 停車するとき

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

ABS装備車の取扱い

ABSはタイプ別装備

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠注意

- **ABSを過信しないでください。ABSが作動しても、走行安定性や操舵性の確保には限界があります。スピードを控えめにして車間距離を十分にとって、常に安全運転に心がけてください。**

- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**

  ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

- **急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。**
- **次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。**
  - **凸凹道や石だたみなどの悪路**
  - **じゃり道、新雪路**
  - **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
  - **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
  - **タイヤチェーンの装着時**
- **急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。**

  ※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた
- **路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。**

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

タイヤについて

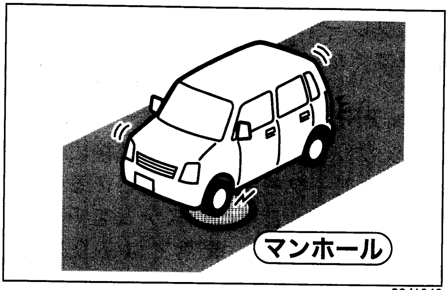
⚠警告

ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

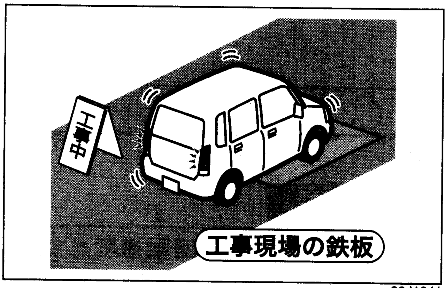
4

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

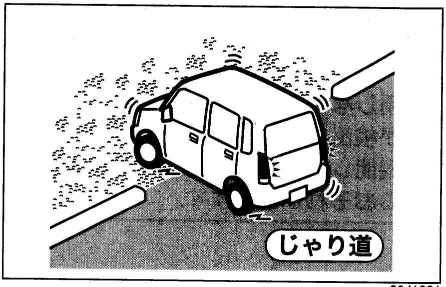
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

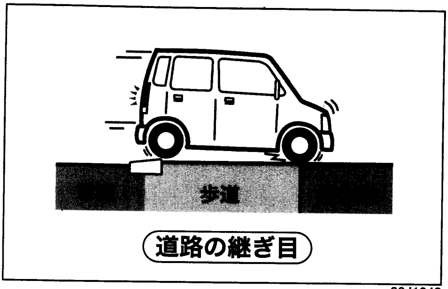


80J1041

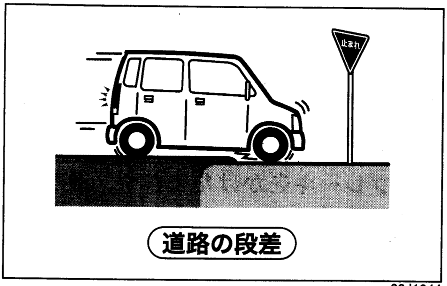


80J1361

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

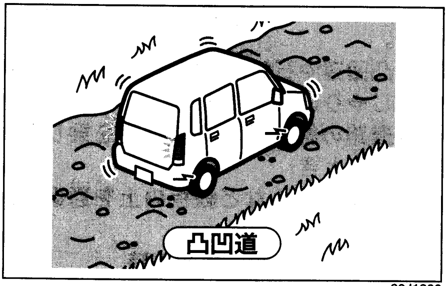


80J1043

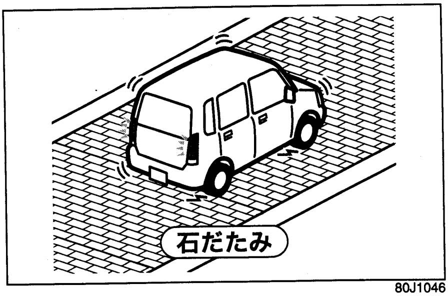


80J1044

- 悪路を走行しているとき



80J1300



80J1046

ABS警告灯

80J127

メーターパネル内にあります。

- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **3-52ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）

ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

アドバイス

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

4

MEMO

5. 装備の取扱い

● エアコン、ヒーター

吹出し口 ………………………………… 5-2
マニュアルエアコン ………………………… 5-3
エアコンの上手な使いかた ………………… 5-6

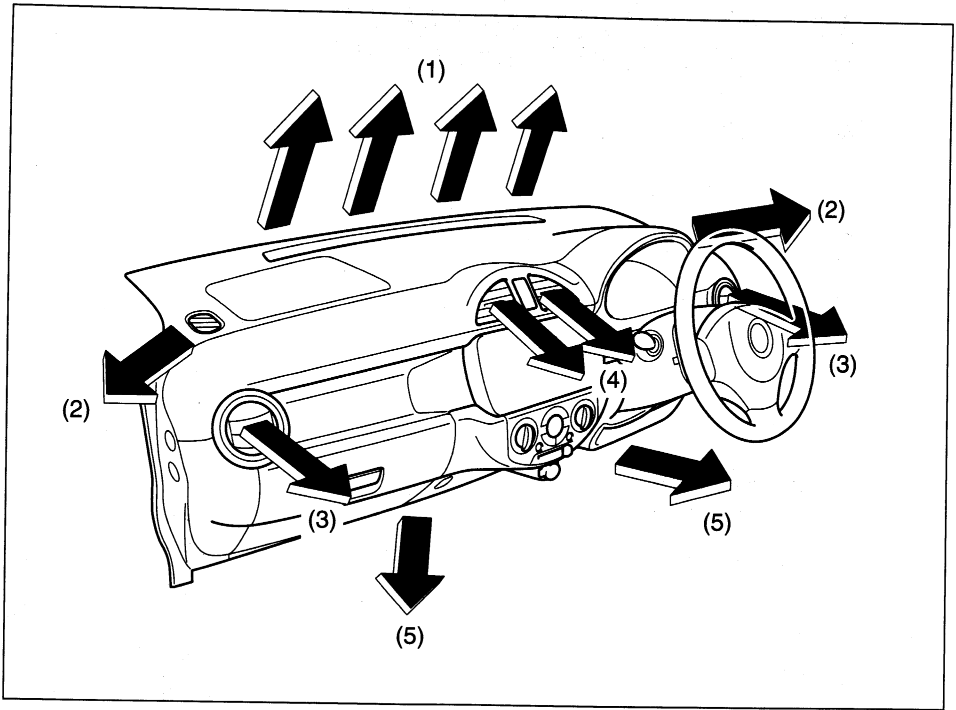
● オーディオ

オーディオの上手な使いかた ……………… 5-7
アンテナ ………………………………… 5-7
CDプレーヤー …………………………… 5-8

● その他の装備

燃料給油口 ……………………………… 5-24
ボンネット ……………………………… 5-25
サンバイザー …………………………… 5-27
室内灯 …………………………………… 5-28
アクセサリーソケット ……………………… 5-30
グローブボックス ………………………… 5-30
インパネトレイ（助手席） ………………… 5-31
インパネアンダートレイ（運転席） ………… 5-31
コンソールポケット ……………………… 5-32
ドリンクホルダー ………………………… 5-32
シートバックポケット ……………………… 5-33
フットレスト ……………………………… 5-34
ショッピングフック ………………………… 5-34
ラゲッジアンダーサイドボックス …………… 5-34

吹出し口

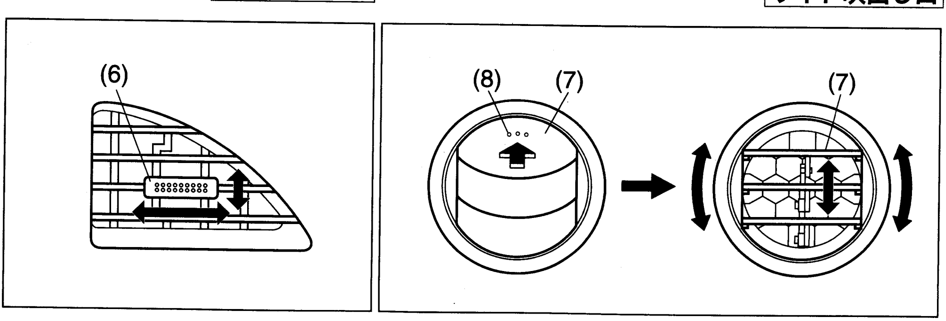


64L50010

(1) デフロスター　(2) サイドデミスター　(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口　(5) 足元吹出し口

- 中央吹出し口（4）は、ノブ(6)を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口（3）は、凸部（8）を押して開いたルーバー（7）を上下または回転させると、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口は、開閉ができます。

中央吹出し口　**サイド吹出し口**

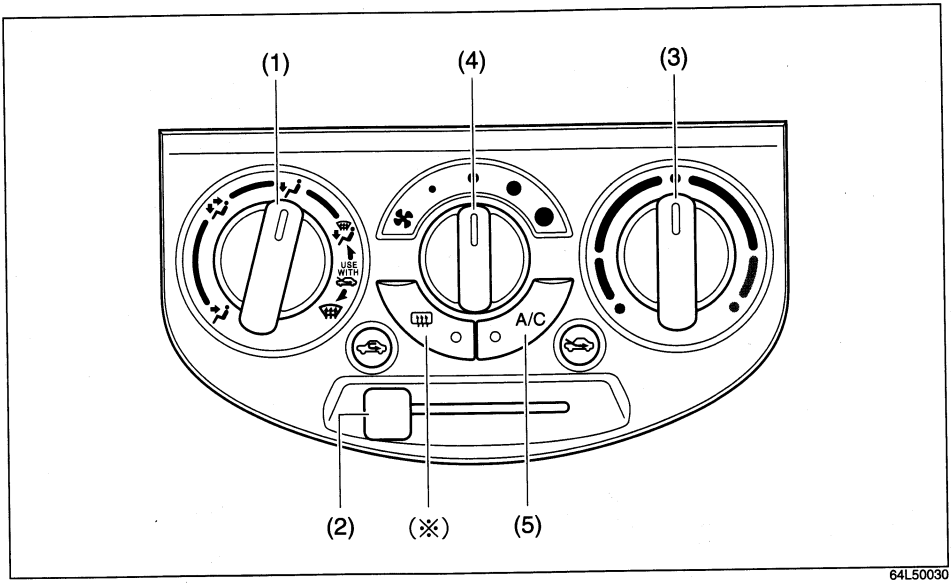


64L50020

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

マニュアルエアコン



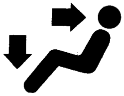
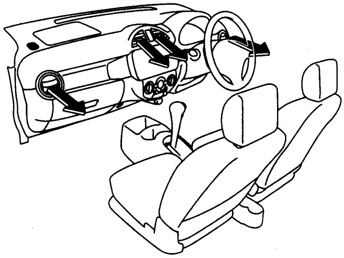
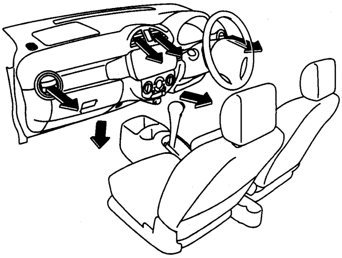
(1) 吹出し口切替えダイヤル
(2) 内外気切替えレバー
(3) 温度調節ダイヤル
(4) ファン(風量)調節ダイヤル
(5) エアコンスイッチ

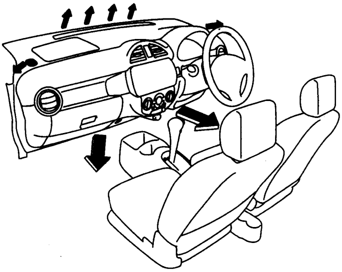
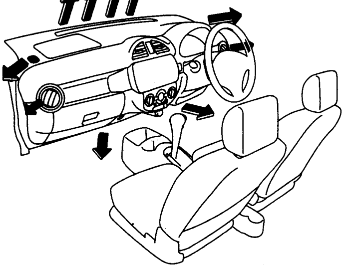
※ リヤデフォッガースイッチについては、**3-66ページ**をお読みください。

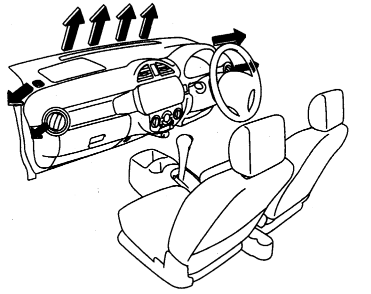
各ダイヤル、スイッチ、レバーの使いかた

(1) 吹出し口切替えダイヤル

使用目的にあわせて、吹き出し口切替えダイヤルを左右にまわして切り替えます。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
ダイヤル		
吹出し口	 64L50040	 64L50050

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル		
吹出し口	 64L50060	 64L50070

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき	アドバイス
ダイヤル		
吹出し口	 64L50080	このマークは、窓ガラスのくもりを早く取るためのアドバイスです。 吹出し口切替えダイヤルを またはにして内外気切替えスイッチを外気導入にすると、内気循環にくらべて窓ガラスのくもりが早く取れます。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

(2) 内外気切替えレバー

レバーを左に操作すると内気循環、右に操作すると外気導入になります。

位 置	状 態
(外気導入)	外気を導入しています。 ● 通常はこの位置でお使いください。
(内気循環)	外気をしゃ断しています。 ● トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。

(3) 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルを時計方向にまわすと、温度が高くなります。反時計方向にまわすと、温度が低くなります。

頭寒足熱暖房

吹出し口切替えダイヤルの位置が のときに、温度調節ダイヤルを中間の位置に操作すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風を吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

(4) ファン（風量）調節ダイヤル

ファン調節ダイヤルをまわすと、風量が調節できます。

ダイヤル位置	✤	・●●●
風量	停止	弱←→強

アドバイス

長時間の停車や渋滞では、バッテリー保護のため風量を弱くしてください。

(5) エアコンスイッチ

エンジンをかけ、ファン調節ダイヤルを停止の位置から時計方向にまわし、エアコンスイッチを押します。除湿された風が吹き出すとともに、スイッチ内の表示灯が点灯します。
止めるときは、スイッチをもう一度押します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここちよい暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

エアコンの上手な使いかた

エアコンガスを充てんするときは

エアコンガスは、必ず冷媒HFC134a（R134a）を使用してください。

アドバイス

- エアコンガスを充てんするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、マツダ販売店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にオイルを循環させてください。油ぎれを防ぐことにより寿命をのばします。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

脱臭フィルターを交換するときは

エアコンを快適に使用するために、脱臭フィルターを取り付けています。脱臭フィルターは定期的に清掃、交換してください。

地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	**5,000 km** ごと、または **6か月**ごと	車検ごと
上記以外の地域	**10,000 km** ごと、または **12か月**ごと	車検ごと

アドバイス

脱臭フィルターの清掃と交換は、マツダ販売店にご相談ください。

オーディオの上手な使いかた

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- オーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- エンジンを停止したまま長時間オーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

注意

走行中はオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

オーディオの操作については、**5-8ページ**の「**CDプレーヤー**」またはオーディオに付属の取扱説明書をお読みください。

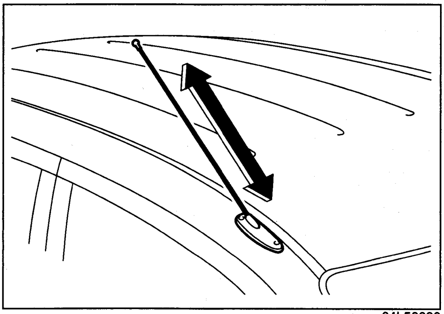
アンテナ

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

ピラーアンテナ

ラジオを聞くときは、ピラーアンテナをいっぱいまで伸ばします。



64L50090

注意

自動洗車機にかけるときや屋根の低い車庫に入るときなどは、アンテナを収納してください。アンテナが曲がると収納できなくなります。

5

CDプレーヤー

CDの演奏について

- 車内が極度に冷えた状態で、ヒーターを入れてすぐに本機を使用すると、CD や本機内部の光学部品がくもって正常に再生できない場合があります。CD がくもっているときは、やわらかい布で拭いてください。光学部品がくもったときは、電源を入れた状態で 1 時間ほど放置すると自然にくもりがとれ、正常な状態にもどります。
- 悪路などで車体が激しく振動すると、CD が音飛びを起こすことがあります。

CDについて

下記マークのついた CD をご使用ください。ハート形や八角形など、特殊形状のCDは使用しないでください。

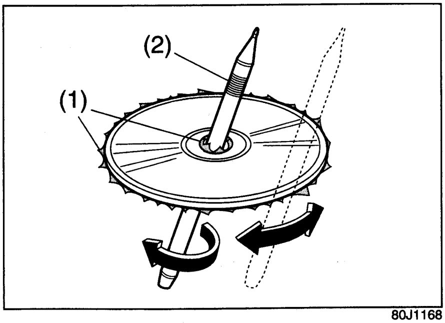
COMPACT disc DIGITAL AUDIO　　COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

82KC012

- CD-TEXT　のタイトル表示はできません。
- CD-R/CD-RW は、音楽用 CD-R/CD-RW だけを使用してください。また、録音状態によっては再生できない場合があります。
- 各種コピーコントロールCDは、CD規格に合致しない特殊ディスクであり、再生できない場合があります。CD の発売元にお問い合わせください。

■ 取扱上のご注意

- CD-R/CD-RWは、通常の音楽CDに比べて高温多湿の環境に弱く、一部のディスクは再生できない場合があります。車室内に、長時間放置しないでください。
- 記録面に、傷、指紋、ほこり、汚れなどをつけないでください。
- レーベル面（印刷面）や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
- テープやレンタル CD のラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがある CD は使用しないでください。そのままCDプレーヤーに入れると、CDが取り出せなくなったり、故障の原因となります。
- 8 cmシングルCDは再生できません。アダプターを付けた状態でも本機に挿入しないでください。
- 新しいディスクは、ディスクの周囲に「バリ」が残っていることがあります。このようなディスクを使用すると、再生できなかったり音飛びの原因となります。ディスクにバリがあるときは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。



80J1168

(1) バリ　　(2) ボールペン

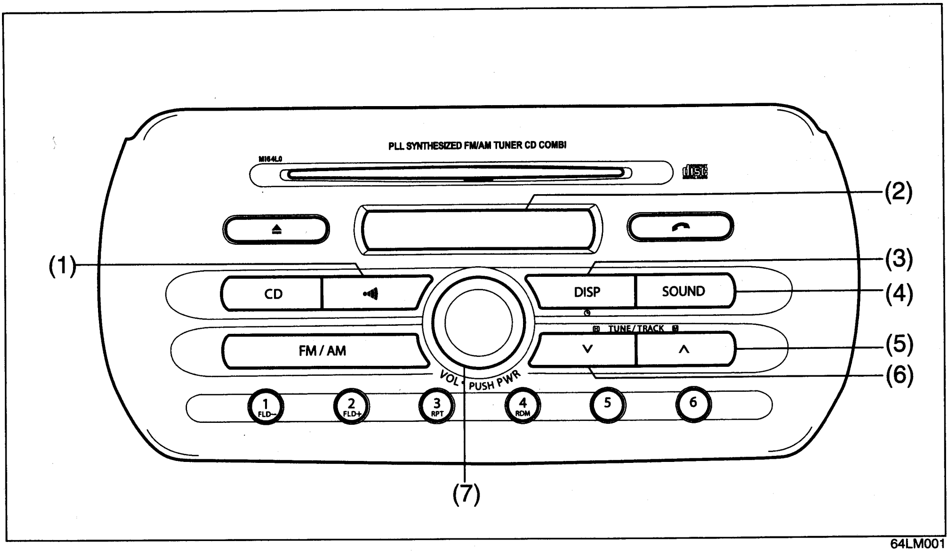
■ CDは次のような場所には保管しない

- 直射日光のあたる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 暖房の熱が直接あたる場所

■ お手入れ

- 汚れたときは、内側から外側へ向かってやわらかい布でよく拭いてください。
- レコードクリーナー液やアルコールなどで拭かないでください。

基本操作

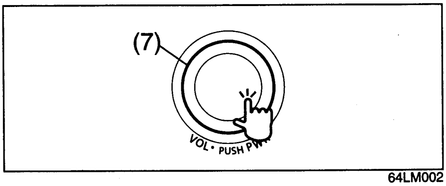


64LM001

(1) 交通情報ボタン　(2) ディスプレイ　(3) 表示切換えボタン
(4) サウンドボタン　(5) アップボタン　(6) ダウンボタン
(7) ボリュームノブ

■ 電源を入れる

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、ボリュームノブ（7）を押します。



64LM002

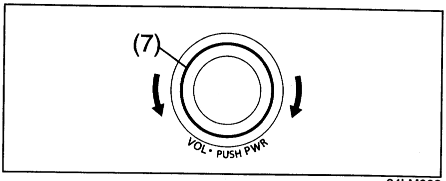
- もう一度押すと、電源が切れます。

アドバイス

- 初期電源投入時、時計は“１２：００”が点滅表示します。
- 電源を入れると、前回の操作終了時のモードがディスプレイに表示されます。

■ 音量を調節する

ボリュームノブ（7）をまわします。



64LM003

- 右にまわすと音量が大きくなり、左にまわすと小さくなります。

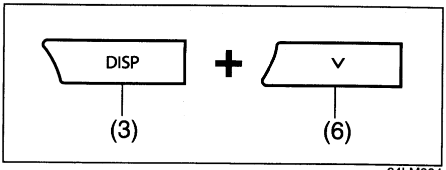
⚠注意

- **車外の音が聞こえる程度の音量にしてください。**
- **電源を切るときは、音量を小さくしてください。電源を入れたときに突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因となります。**

■ 時計を合わせる

時の調整のしかた

表示切換えボタン (3) を押しながら、ダウンボタン(6)を押します。



64LM004

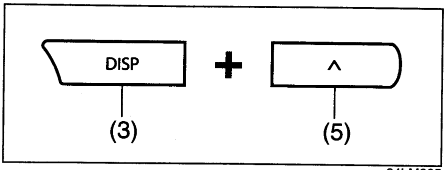
(3) 表示切換えボタン (6) ダウンボタン

アドバイス

ダウンボタン（6）を押し続けると、“時”を早送りします。

分の調整のしかた

表示切換えボタン (3) を押しながら、アップボタン(5)を押します。



64LM005

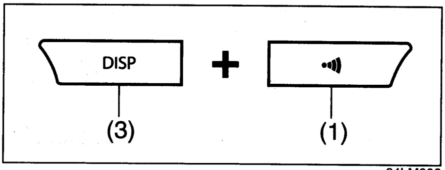
(3) 表示切換えボタン (5) アップボタン

アドバイス

アップボタン（5）を押し続けると、“分”を早送りします。

時報合わせのしかた

表示切換えボタン (3) を押しながら、交通情報ボタン(1)を押します。



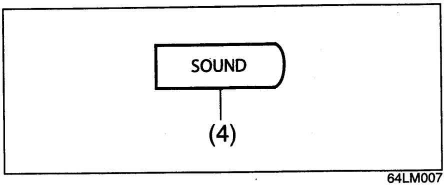
64LM006

(1) 交通情報ボタン
(3) 表示切換えボタン

- 分が００～２９の時は分を００に戻します。
  例：１０：２０→１０：００
- 分が３０～５９の時は、時を進め、分を００にします。
  例：１１：４８→１２：００

■ 音質（バス/トレブル）/バランス/フェダーを調整する

1 サウンドボタン(4)を押します。

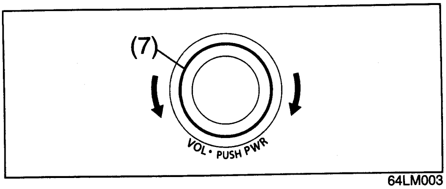


64LM007

- 押すたびに、ディスプレイ表示 (2) が次のように切り替わります。

バス(低音)調整 (0 BAS)
↓
トレブル(高音)調整 (0 TRE)
↓
バランス調整 (0 BAL)
↓
フェダー調整 (0 FAD)
↓
もとのモード → バス(低音)調整に戻る

2 ボリュームノブ (7) をまわして調整します。



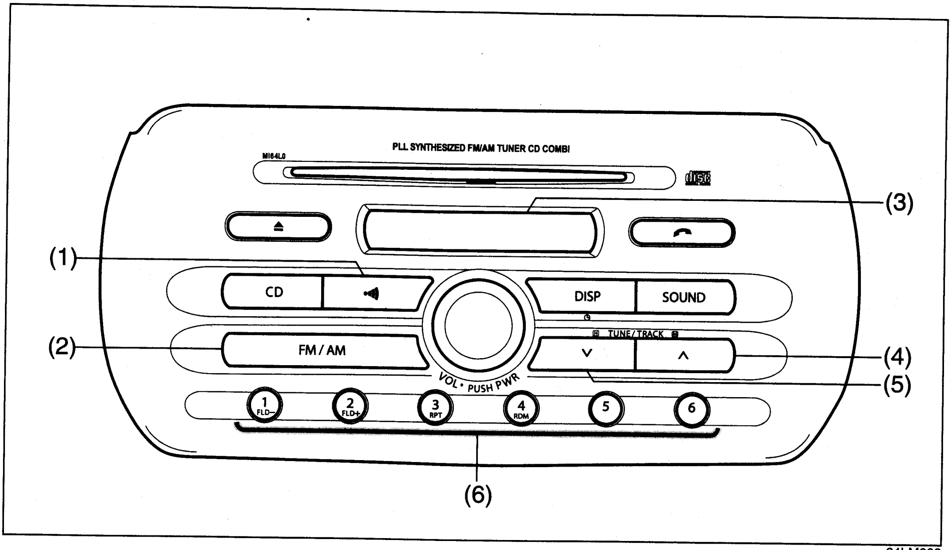
64LM003

- バス調整では、右にまわすと低音が強調されます。
- トレブル調整では、右にまわすと高音が強調されます。
- バランス調整では、右にまわすと右のスピーカーの音が強調され、左にまわすと左のスピーカーの音が強調されます。
- フェダー調整では、右にまわすと前のスピーカーの音が強調され、左にまわすと後ろのスピーカーの音が強調されます。

アドバイス

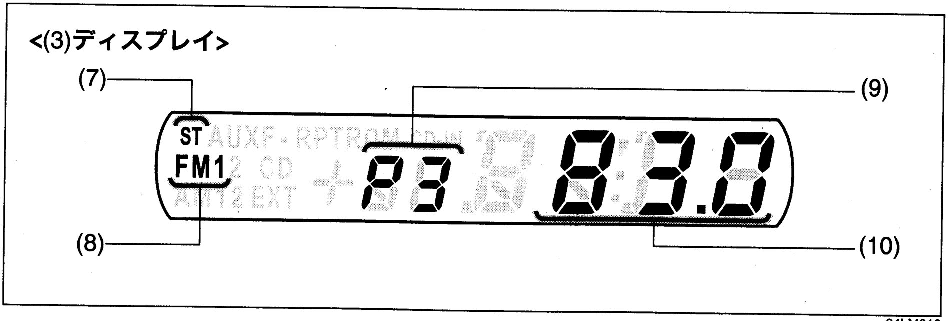
ノブ操作が約5秒間なかった場合、自動的にもとのモードにもどります。

ラジオ放送を聴く



64LM009

(1) 交通情報ボタン
(2) FM/AMボタン
(3) ディスプレイ
(4) アップボタン
(5) ダウンボタン
(6) プリセットボタン**1～6**

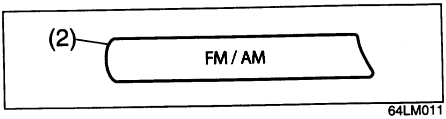


64LM010

(7) ステレオインジケーター
(8) バンド表示
(9) プリセットチャンネル番号
(10)周波数

■ FM/AMを選ぶ

FM/AMボタン(2)を押します。



64LM011

● 押すたびに、ディスプレイ(3)のバンド表示(8)が次のように切り替わります。

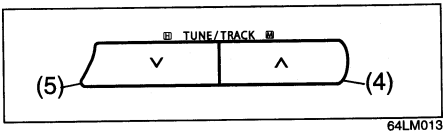
FM1 → FM2 → AM1 → AM2 → FM1

アドバイス

● ステレオ放送を受信すると、ディスプレイ(3)のステレオインジケーター(7)が点灯します。
● 本機はAMステレオ放送には対応していません。

■ 自動選局する（シーク選局）

アップボタン(4)またはダウンボタン(5)を約1秒間押し続けます。



64LM013

(5) ダウンボタン　　(4) アップボタン

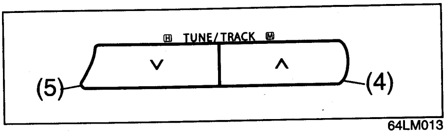
● 放送局のあるところで、自動的に選局が止まります。

アドバイス

● 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。
● 自動選局を取り消したいときは、アップボタン(4)またはダウンボタン(5)をもう一度押してください。

■ 手動選局する（マニュアル選局）

アップボタン(4)またはダウンボタン(5)を短押しします。



64LM013

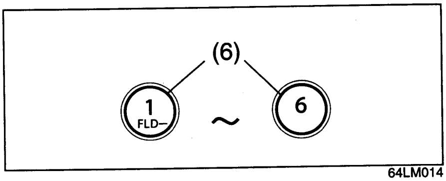
(5) ダウンボタン　　(4) アップボタン

● 受信している周波数がディスプレイ(3)に表示されます。

■ 放送局をメモリーする（プリセットメモリー）

1 メモリーしたい放送局を選びます。

2 メモリーしたいプリセットボタン**1～6**(6)を約2秒間押し続けます。



64LM014

(6) プリセットボタン**1～6**

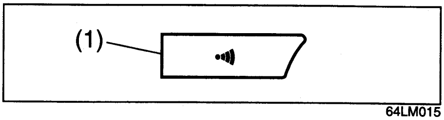
● ビープ音が鳴り、ディスプレイ(3)のプリセットチャンネル番号(9)に周波数表示(10)の放送局がメモリーされます。

アドバイス

プリセットメモリーできるのは、FM1、FM2、AM1、AM2各6局、合計で24局です。

■ 交通情報を聴く

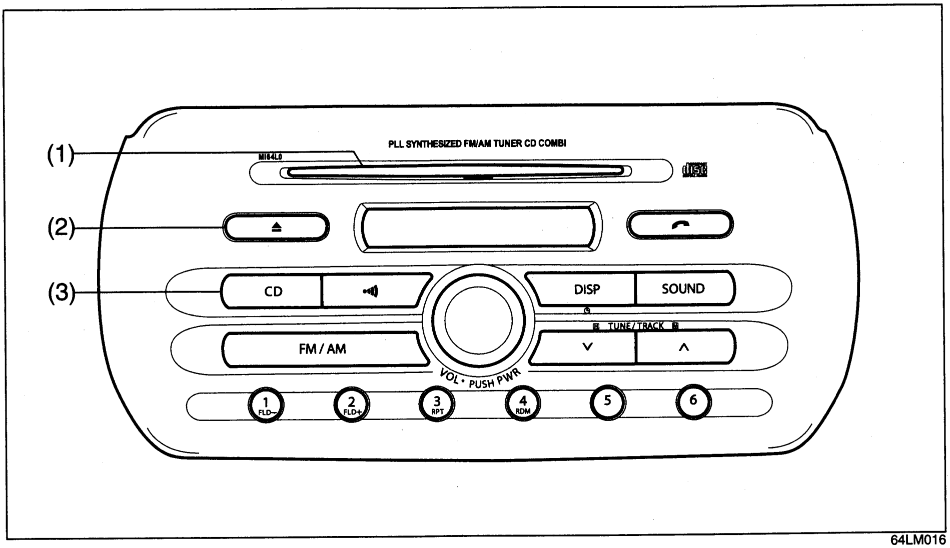
交通情報ボタン（1）を押します。



64LM015

- 交通情報放送局（AM1620kHz）を受信します。
- もう一度押すと、もとのモードにもどります。

CDを聴く



64LM016

(1) CD挿入口　(2) CDイジェクトボタン　(3) CDモードボタン

5

■ ディスクを入れる

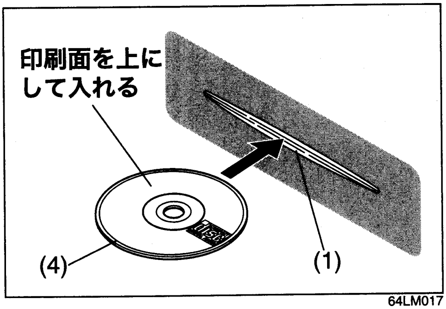
ディスク・イン・プレイ機能とは

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチが ACC または ON であれば、CD を入れると自動的に電源が入って演奏が始まります。

⚠注意

CD 挿入口に手、指、異物を入れないでください。けがをしたり、火災や感電の原因となるおそれがあります。

CD挿入口（1）にCD（4）を入れます。

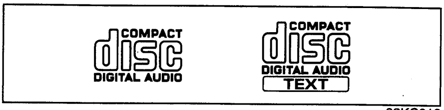


64LM017

- CD（4）を入れると、自動的に演奏が始まります。

アドバイス

- CD は、レーベルが印刷されている面を上にして入れてください。
- CD-R、CD-RW、各種コピーコントロールCDは、再生できない場合があります。
- 下記マークのないCDは、使用できません。
- CD-TEXT のタイトル表示はできません。



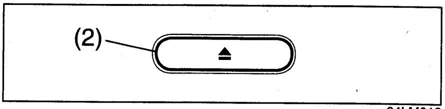
82KC012

■ ディスクを取り出す

バックアップイジェクト機能とは

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチの位置に関係なくイジェクトボタンを押すと、CD を取り出せます。

CDイジェクトボタン（2）を押します。



64LM018

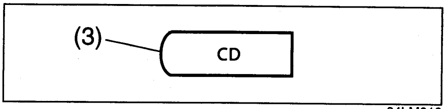
- CDがイジェクトされます。

アドバイス

- CD をイジェクトしたままにしておくと、約 10 秒後に本機内に引き込まれます。（オートリロード機能）
- オートリロード前に無理に CD を押し込むと、ディスク表面に傷がつくおそれがあります。

■ すでに入っているディスクを聴く

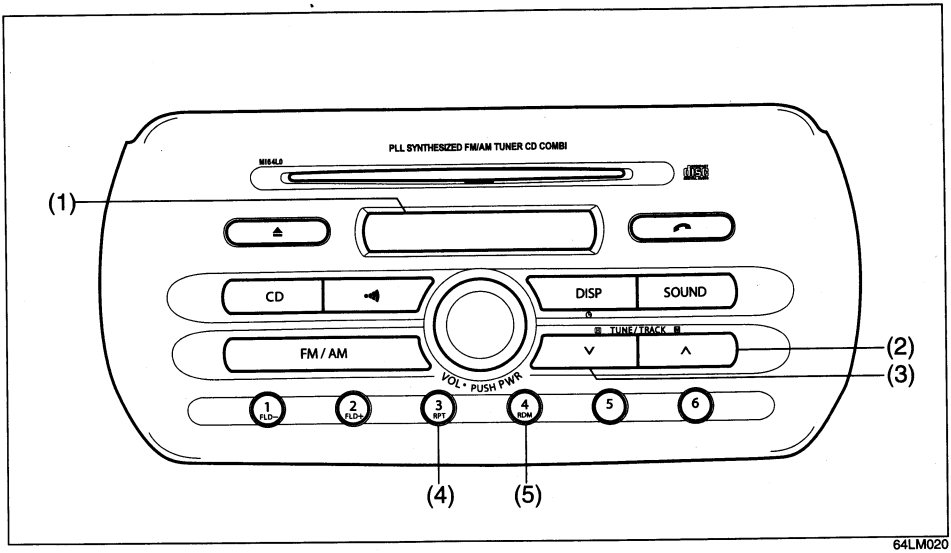
エンジンスイッチが ACC または ON のときに、CD モードボタン（3）を押します。



64LM019

- CDモードになると、自動的に演奏が始まります。

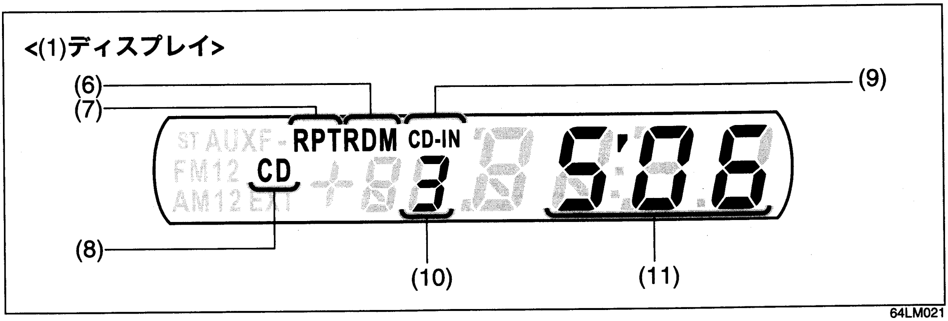
5



64LM020

(1) ディスプレイ　(2) アップボタン　(3) ダウンボタン
(4) リピートボタン　(5) ランダムボタン

<(1)ディスプレイ>

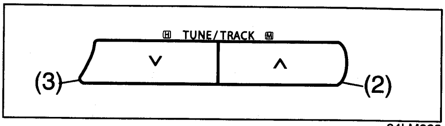


64LM021

(6) ランダムインジケーター　(7) リピートインジケーター　(8) モード表示
(9) ディスクインインジケーター　(10)トラック番号　(11)演奏時間

■ 曲を選ぶ

次の曲を聴くときは、アップボタン (2) を押します。
前の曲を聴くときは、ダウンボタン (3) を2回押します。



64LM022

(2) アップボタン(次の曲)
(3) ダウンボタン(前の曲)

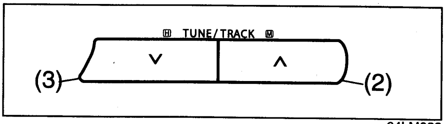
- アップボタン (2) を押すと、次の曲が演奏されます。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
- ダウンボタン(3)を1回押すと、演奏中の曲が最初から演奏されます。さらに押すと、押した回数だけ前の曲が演奏されます。

アドバイス

曲の頭部分が演奏されているときにダウンボタンを 2 回押すと、2 曲前の曲へもどることがあります。

■ 早送り、早戻しする

早送りするときは、アップボタン (2) を押し続けます。
早戻しするときは、ダウンボタン (3) を押し続けます。
アップボタン (2)、ダウンボタン (3) を放すと演奏が始まります。

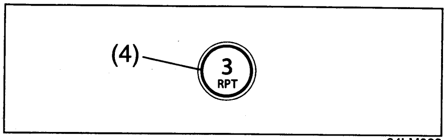


64LM022

(2) アップボタン(早送り)
(3) ダウンボタン(早戻し)

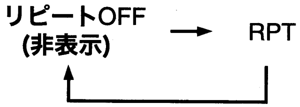
■ 曲を繰り返し聴く(リピート演奏)

リピートボタン (4) を押します。



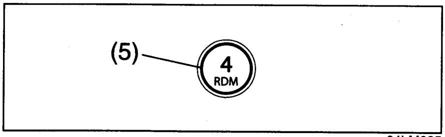
64LM023

- 押すたびに、ディスプレイ (1) のリピートインジケーター (7) が次のように切り替わります。



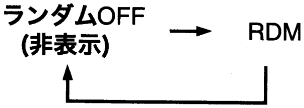
■ 順不同に演奏を聴く(ランダム演奏)

ランダムボタン (5) を押します。



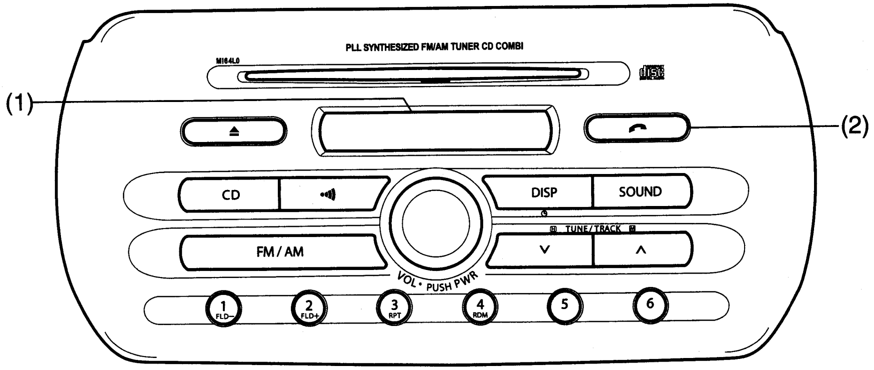
64LM025

- 押すたびに、ディスプレイ (1) のランダムインジケーター (6) が次のように切り替わります。



5

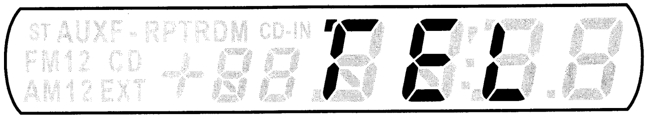
ハンズフリーで通話する



64LM027

(1) ディスプレイ　　(2) ハンズフリーフォンボタン

<(1)ディスプレイ>



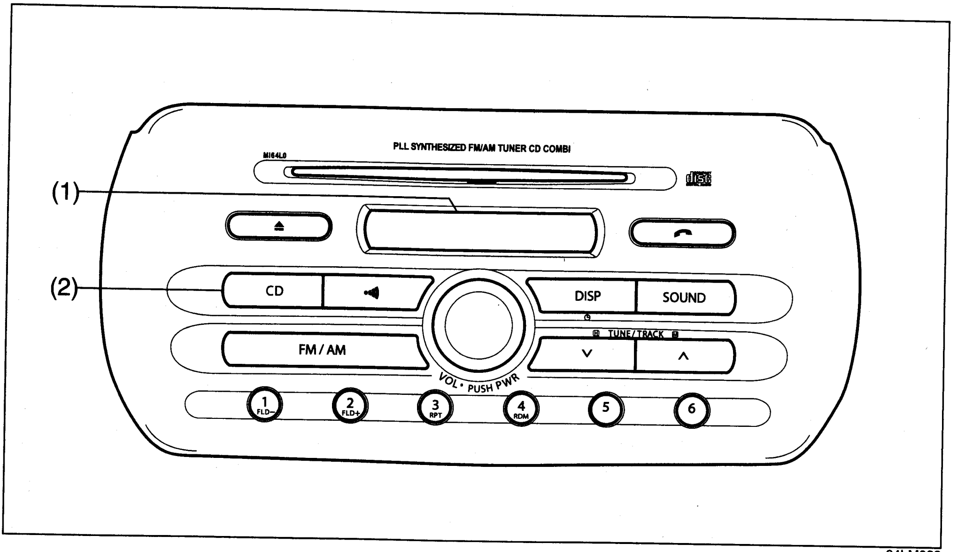
64LM028

- ハンズフリー通話には、専用のハンズフリーキット（別売り）が必要です。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用でき、着信があったときにハンズフリーフォンボタン(2)を長押しすると、電話の受信ができます。

アドバイス

ハンズフリー通話の詳細については、専用のハンズフリーキット（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

外部機器を操作する

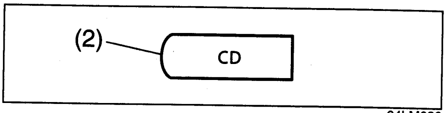


64LM029

(1) ディスプレイ　(2) CDモードボタン

■ 外部機器を再生する

外部機器を接続した状態で、CD モードボタン（2）を押します。



64LM030

- 押すたびに、ディスプレイ（1）の表示が次のように切り替わります。

CD
(本体内蔵CDプレーヤー)
↓
AUX
(外部機器)
↓
EXT
(USB接続機器)
（→ CDに戻る）

別売りの外部接続ユニットを接続することにより外部機器（AUX、USB）などを再生することができます。

アドバイス

- AUXモードでの次の操作については、**5-11ページ**をご覧ください。
  - 音量を調節する
  - 音質（バス/トレブル）/バランス/フェダーを調整する
- USB接続機器の操作については、USB接続ユニット（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

故障かなと思ったら

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

	症状	原因	処置
共通	電源が入らない / 音が出ない。	配線が不完全。	マツダ販売店にご相談ください。
ラジオ	雑音が多い。	放送局の周波数に合っていない。	正しい周波数に合わせてください。
ラジオ	自動選局で選局できない。	受信電波が弱い。	手動選局で選局してください。
CD	音飛びする / ノイズなどが入る。	CDが汚れている。	CD をやわらかい布でふいてください。
CD		CDに傷やソリがある。	傷やソリのない CD と交換してください。
CD	電源を入れた直後、音が良くない。	湿気の多いところに駐車すると、内部のレンズに水滴がつくことがある。	電源を入れた状態にして、約 1 時間乾燥させてください。
CD	CDが入らない。	本機の中に CD などが入っている。	イジェクトボタンを押して入っている CD を取り出してから再度CDを入れてください。
その他	ディスプレイに「エラー表示」が出る。	自己診断機能がはたらき、障害が発生したことを知らせている。	**5-23 ページ**の**「エラー表示」**を参照して、内容を確認してください。

5

エラー表示について

本機は、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。エラーが表示されたときは、対処方法にしたがってください。

	エラー表示	状態	原因	対処方法
CD	E 01	フォーカスエラー	CD を裏返しに入れたために、再生できない。	CD を取り出し、正しい位置(レーベル面を上)にして入れ直してください。
			CD またはレンズが湿気により結露して、再生できない。	電源を入れた状態にして、しばらく乾燥させてください。
	E 02	ディスク異常	主にディスクの異常が原因で再生できない。	特定のディスクのみエラー表示する場合は、ディスクの反りや傷、汚れなどが原因です。エラー表示となるディスクを確認してください。
				全てのディスクでエラー表示する場合は、内部の結露や汚れなどが原因です。 しばらく経っても再生しない場合はマツダ販売店にご連絡ください。
	E 03	メカエラー	何らかの原因でディスクの引き込みや排出ができない等の異常が発生している。	マツダ販売店にご連絡ください。
	E	その他の異常	主に機器側の異常が発生している。	
	Ehot	高温保護	プレーヤー内部が高温になっていることによる保護のために再生が一時中断となっている。	しばらく放置してください。 CD デッキ内の温度が正常な状態に戻るとエラーコードが消え、自動的に再生を始めます。

※復帰しない場合は、本機の電源を切り、マツダ販売店にご相談ください。

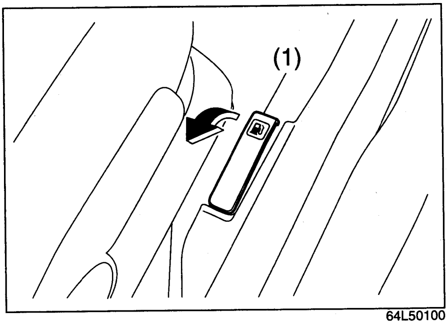
燃料給油口

2-18 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押しつけます。

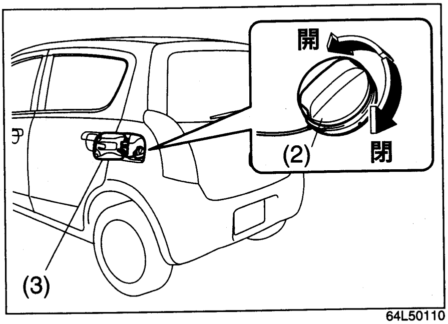


⚠ 警告

ガソリンは引火性が高いため、給油するときはタバコなどの火気は厳禁です。また、エンジンは必ず止めてください。

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が2回以上するまで締めます。



(2) フューエルキャップ
(3) フューエルリッド

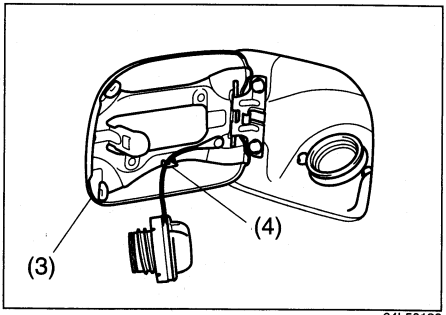
⚠ 警告

- **フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。**
- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のマツダ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

キャップホルダー

フューエルリッド(3)の裏側にあります。

- 給油中は、外したキャップが車体にあたらないように、ひもの部分をかけてください。



64L50120

(4) キャップホルダー

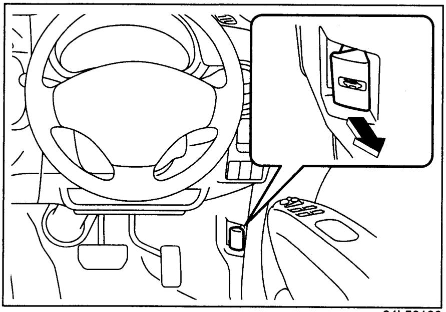
ボンネット

⚠警告

- **お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。**
- **ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。**
- **点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。**

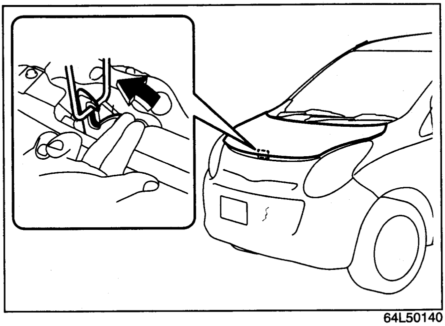
開けかた

1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



64L50130

2 浮き上がったボンネットのすき間に手を入れ、ロックレバーを左側へ押しつけながら、ボンネットを持ち上げます。



64L50140

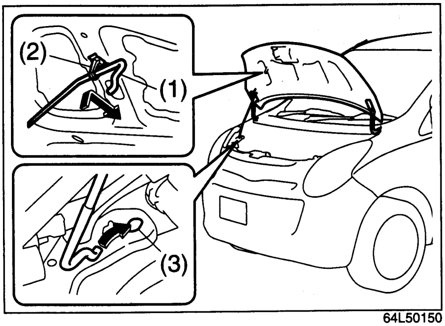
⚠注意

エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に必ず確認してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3 ボンネット側にあるステー（1）をホルダー（2）から外し、車体側の固定穴（3）に差し込んでボンネットを固定します。



64L50150

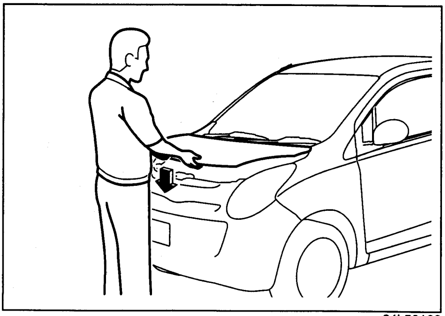
⚠注意

- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**
- **ステーをホルダーから外すときは、ステーが曲がらないように、ステーの先端から7 cm以内のところを持ってください。**

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外して、もとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手をはなしてボンネットを閉めます。



64L50160

⚠注意

●ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
●ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

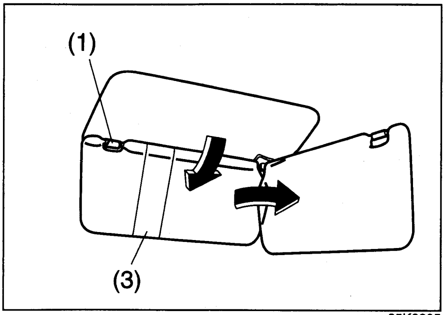
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

チケットホルダー

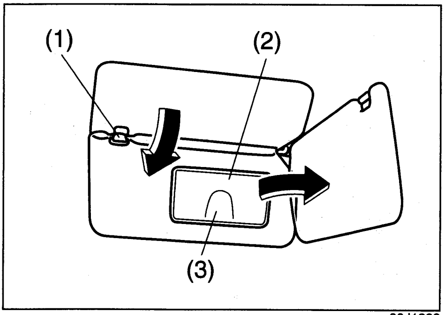
サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

Aタイプ



85K2205

Bタイプ



80J1222

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

⚠注意

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。
→　2-17 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

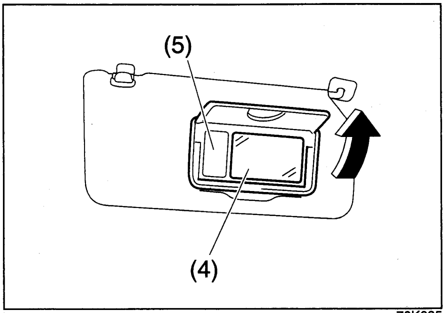
5

照明付きバニティミラー

タイプ別装備

ミラーカバーを開けた場所にあります。

- 照明（5）は、ミラーカバーを開けている間、点灯します。



(4) バニティミラー

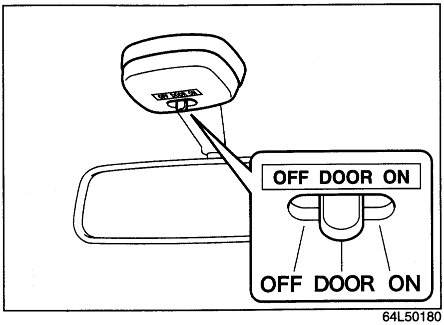
⚠注意

- **走行中はバニティミラーを使用しないでください。前方不注意の原因となります。**
- **バニティミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

アドバイス

エンジン停止中に、ミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、バッテリーあがりの原因となります。

室内灯



アドバイス

- エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。
- バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
  - エンジンスイッチが LOCK (OFF) の位置で、プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車はキーを差していない
  - 室内灯スイッチが DOOR 位置で、点灯したまま15分が経過
- 室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、キーレスエントリーまたはプッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車のリクエストスイッチを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。

→　**3-10ページ**
（アンサーバック機能）

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム非装備車

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯します。

- すべてのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- すべてのドアを閉めているときでも、キーを抜くと約 10 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。

また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。

- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠
- キーレスエントリーによる施錠

OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

プッシュボタンスタート＆アドバンストキーレスエントリーシステム装備車

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯します。

- すべてのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。

また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする
- リクエストスイッチまたはキーレスエントリーによる施錠
- キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠

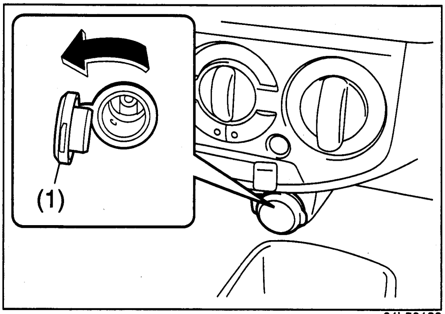
OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源（規定容量12V 120W以下）として使用できます。

- 使用するときは、ふた (1) を開けます。



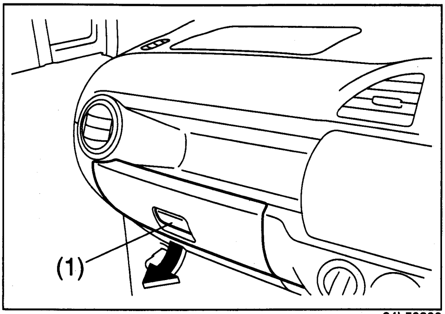
(1) ふた

アドバイス

- 規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。
- 使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。またエンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- 事故防止のため、マツダ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。

グローブボックス

レバー（1）を手前に引いてふたを開けます。



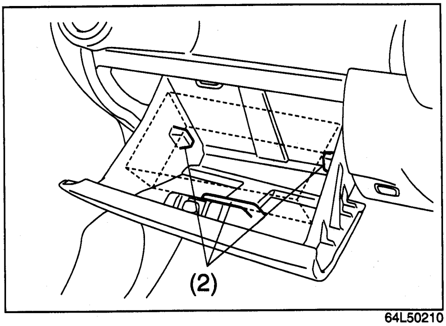
⚠注意

ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたにあたったり、中の物が飛び出したりするおそれがあります。物を出し入れしたあとは、ふたを閉めてください。

ボックスティッシュホルダー

グローブボックス内にあります。

- ボックスティッシュは、ホルダーの上に置きます。



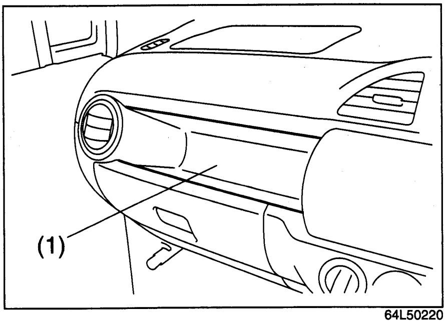
(2) ボックスティッシュホルダー

アドバイス

- ボックスティッシュの大きさや形状によっては、置けない場合があります。
- グローブボックスの奥には、同時に車検証などが収納できます。

インパネトレイ（助手席）

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



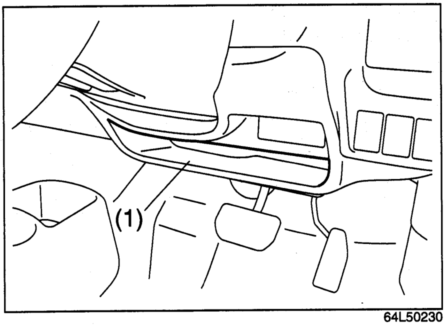
(1) インパネトレイ(助手席)

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

インパネアンダートレイ（運転席）

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



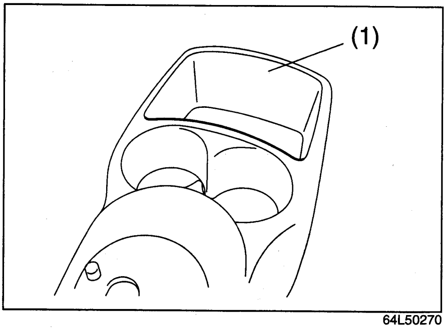
(1) インパネアンダートレイ

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

コンソールポケット

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



(1) コンソールポケット

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドリンクホルダー

缶ジュースやカップが置けます。

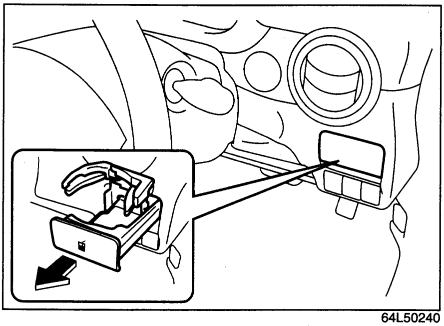
⚠警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物がオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

インパネ

■ 運転席

- 使用するときは、手前に引き出します。



- 使用後は、押し込んで格納します。

⚠警告

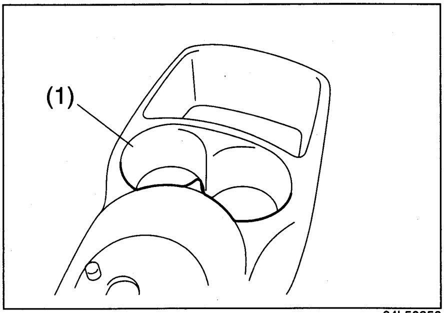
缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転の妨げになったりするおそれがあります。

アドバイス

使わないときは、じゃまにならないよう格納してください。

コンソール

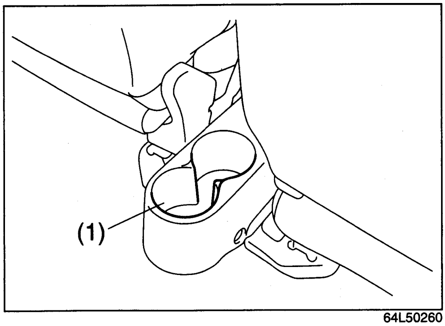
■ フロント



64L50250

(1) ドリンクホルダー

■ リヤ



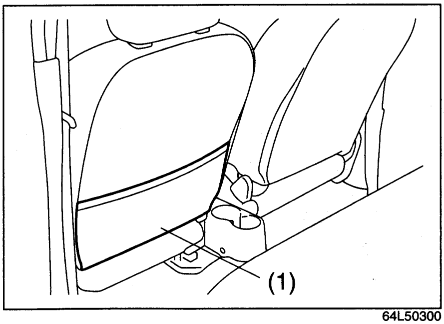
64L50260

(1) ドリンクホルダー

シートバックポケット

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。

助手席



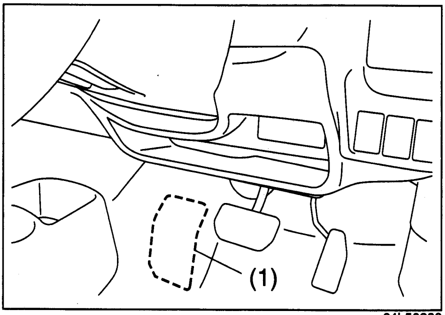
64L50300

(1) シートバックポケット

フットレスト

タイプ別装備

フロアカーペット内にあります。左足のささえとして使用します。



64L50280

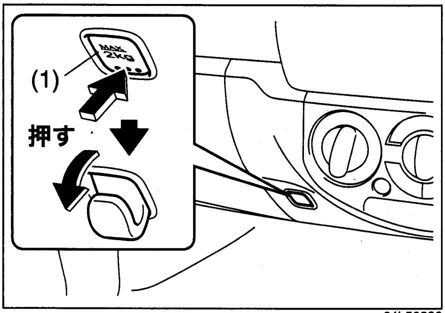
(1) フットレスト

5

ショッピングフック

買い物袋などを引っかけるときにご使用ください。

- 使用するときは、フック（1）の下部を押しながら回転させます。



64L50290

- もとにもどすときは、反転させてフックを格納します。

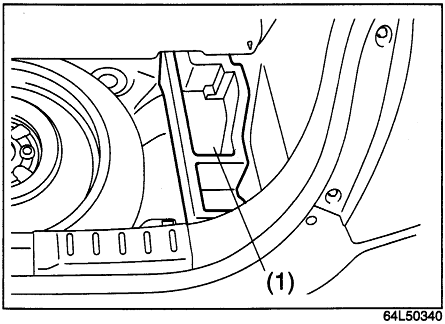
アドバイス

- フックにかける物は、2 kg以下としてください。フックが破損するおそれがあります。
- 使わないときは、じゃまにならないようにフックを格納してください。

ラゲッジアンダーサイドボックス

荷室のフロアボード下にあります。

- 手回り品や小物などの収納にご使用ください。
  → **7-2 ページ（フロアマットおよびフロアボードの外しかた）**



64L50340

(1) ラゲッジアンダーサイドボックス

6. お車との上手なつきあいかた

● お手入れ

外装のお手入れ ································ 6-2
内装のお手入れ ································ 6-4
タイヤの交換 ································· 6-5

● 寒冷時の取扱い

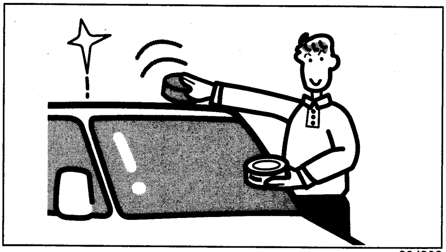
冬期に入る前の準備 ····························· 6-6
出発の前に ·································· 6-7
雪道を走行するとき ····························· 6-9
駐車するとき ································· 6-10
タイヤチェーンを装着するとき ······················ 6-11

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明に従ってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

アドバイス

塗装面の傷を補修するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **エンジンルームやバッテリーに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。**
- **バッテリーの上に水などが残っていたら、ふき取ってください。バッテリー内部に入ると、液面が上昇して液漏れの原因となります。**
- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  →　2-14ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

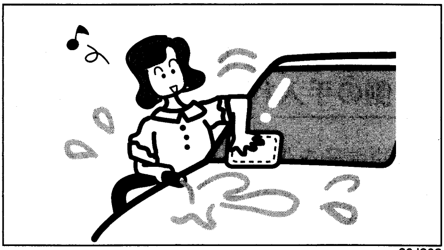
6

手洗い洗車をするときは

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 柔らかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

⚠注意

ドアミラーを格納し、アンテナを収納してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。

アドバイス

自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

ノズルを車体から40 cm以上離してください。

アドバイス

ドアガラスやドアまわりなどの開閉部分にノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

フロントウインドーガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

6

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼった柔らかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーや柔らかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

車内に水などをかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

アドバイス

- 次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
  - ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
  - 酸性、アルカリ性の洗剤
  - 漂白剤や染料
- 液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのものをご使用ください。
- 色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。変色や変質の原因となります。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1. 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
2. 真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をふき取ります。
3. 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

バックウインドーガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

6

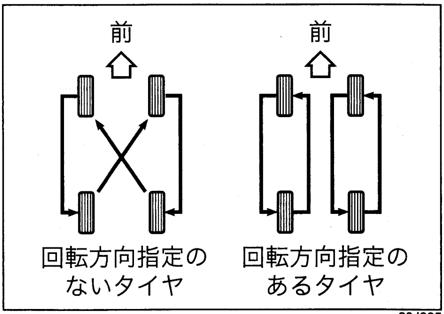
タイヤの交換

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（下図参照）

- 車載ジャッキで行なうときは、応急用スペアタイヤを使用して 1 輪ずつ交換します。

→ **7-6ページ（ジャッキアップ）**



80J305

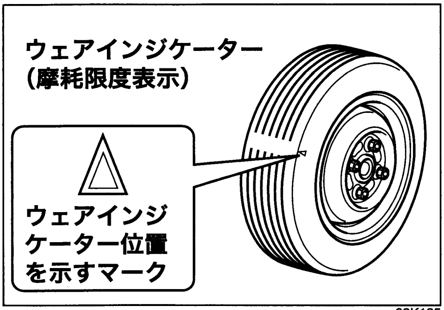
アドバイス

- 応急用スペアタイヤは、通常の走行には使用しないでください。
- 回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。
- 回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

タイヤ交換するときは

- 指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)
  - ABS（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。
  - 4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

- 指定サイズと空気圧はお車のタイプにより異なります。運転席ドア開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6 mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、他のタイヤと交換してください。



82K135

6

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈マツダ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-3ページ**
（バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、マツダ販売店へお申し付けください。

スノーブレード

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード、別売り）は、金属部分をゴムでおおって雪の付着を少なくするものです。必要に応じて交換してください。

⚠注意

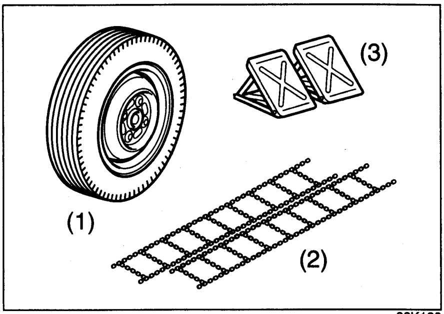
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードをご使用ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。準備してください。



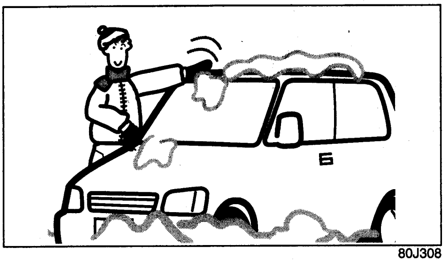
82K139

(1) 冬用タイヤ　(2) タイヤチェーン
(3) 輪止め

出発の前に[illegible]

屋根に積もった雪

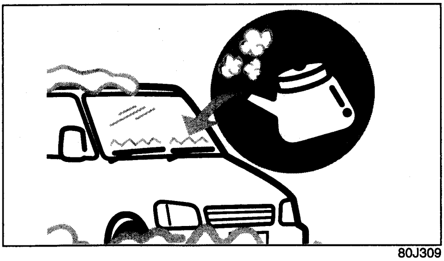
出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



80J308

ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。

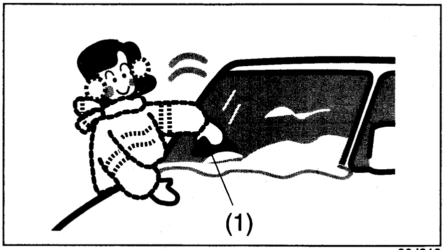


80J309

6

ガラス面の雪や霜

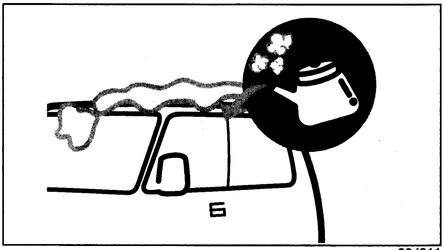
プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



80J310

ドアの凍結

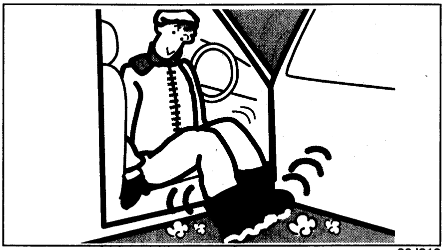
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



80J311

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

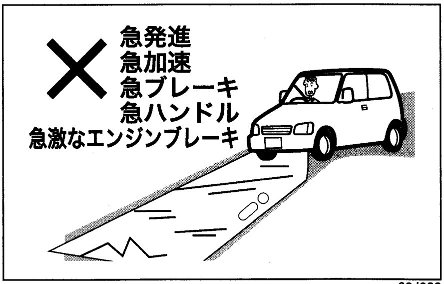
6

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

⚠注意

- **周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。**
- **ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。**

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

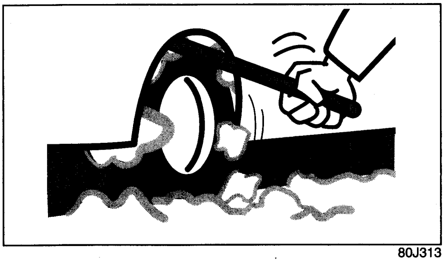
- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。

→ **6-5ページ(タイヤ交換するときは)**
→ **6-11 ページ（タイヤチェーンを装着するとき）**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

6

駐車するとき

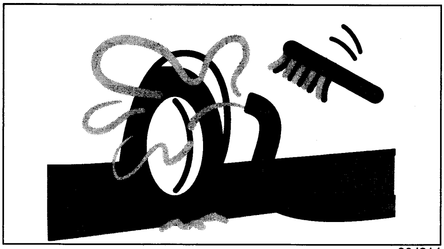
パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
  - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。特に車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。



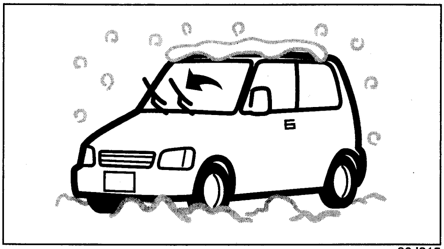
80J314

アドバイス

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

屋外に駐車するときは

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。

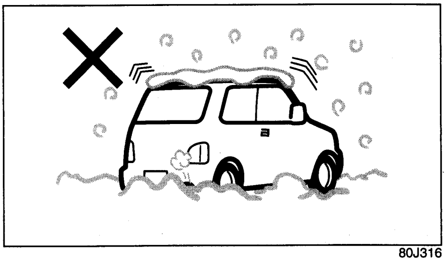


80J315

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

- **適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。**
- **ABS（タイプ別装備）の場合、タイヤチェーンを装着すると、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。**

アドバイス

- タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体にあたると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

6

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WDです。後輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤには装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪につけ、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-4 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

■ フルホイールキャップを外してから装着

フルホイールキャップの傷つき防止のため、キャップを外してからタイヤチェーンを装着します。キャップの外しかたは**7-5ページ**をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

MEMO

MEMO

7. 万一のとき

● パンク ………………………… 7-2

● バッテリーあがり ………………… 7-9

● ヒューズ切れ …………………… 7-11

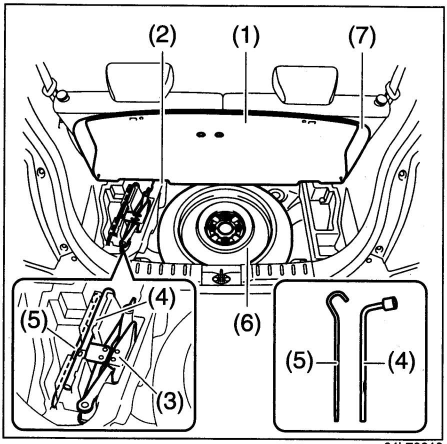
● 電球切れ ………………………… 7-14

● オーバーヒート ………………… 7-17

● その他 ………………………… 7-19

工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤの収納場所

荷室のフロアボード（1）下に収納されています。



64L70010

(2) 工具･ジャッキ収納ボックス
(3) ジャッキ
(4) ホイールナットレンチ
(5) ジャッキバー
(6) 応急用スペアタイヤ
(7) フロアマット

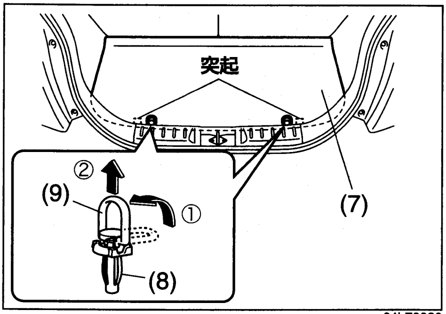
- 上図の後席やフロアボードは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 工具（ジャッキバー、ホイールナットレンチ）は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから所定の位置に収納してください。

フロアマットおよびフロアボードの外しかた

1. フロアマット（7）およびフロアボード（1）を固定しているクリップ2個（8）を外します。
   - クリップは、とっ手（9）を引き起こしてからそのまま引き抜きます。



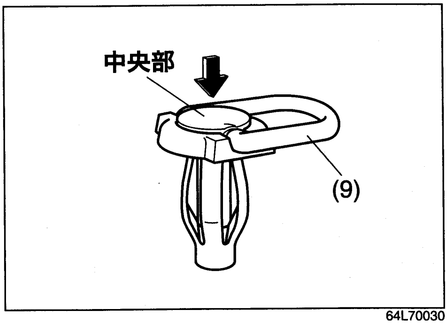
64L70020

2. フロアボード（1）を後方から持ち上げて、車体側の突起から外します。

■ もとにもどすときは

1 フロアボードを車体側の突起にはめます。

2 車体側の穴へ、フロアボードおよびフロアマットの穴を合わせてから、クリップを差し込みます。
- クリップのとっ手（9）を倒し、中央部をカチッと音がするまで押し込みます。



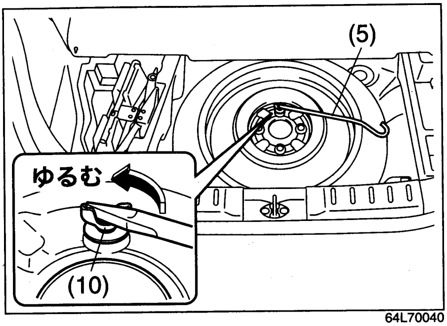
64L70030

アドバイス

このクリップは、荷室フックではありません。荷物の固定などに使用しないでください。

応急用スペアタイヤの取り出しかた

フロアマットおよびフロアボードを持ち上げて、固定用ボルト（10）をゆるめて取り出します。
- ボルトがゆるみにくいときは、ジャッキバー（5）でゆるめてください。



64L70040

アドバイス

- ジャッキバーは、締め付けには使用しないでください。
- スペアタイヤが取り出しにくいときは、後席の背もたれを倒してください。

→ **3-30ページ**
（背もたれの倒しかた）

応急用スペアタイヤの取扱い

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べて空気圧が高く、幅が細く、直径がやや小さいため、次の事項を守ってください。

⚠注意

定期的に点検する

空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの空気圧は420 kPa（4.2 kgf/cm^2）です。

前輪には使用しない

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WDです。前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてください。

装着したときの走行は

- **ABS（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**
- **応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず高速道路を走行する場合は、最低速度（法令では高速道路の最低速度は50 km/h です）に近い速度で走行してください。**
- **応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べ直径がやや小さいため、車高が少し低くなります。突起物などを乗り越えるときは、車体を接触させないように気をつけてください。**

タイヤチェーンは装着できません

タイヤチェーンを装着した前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてからタイヤチェーンを再装着してください。

他の車のスペアタイヤを使わない

応急用スペアタイヤは、この車専用です。他の車に使用したり、他の車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

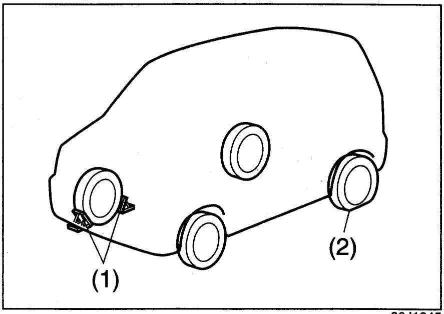
タイヤ交換の準備

1. 他車に注意をうながすため、非常点滅灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2. パーキングブレーキをしっかりとかけます。
   - オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
   - マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

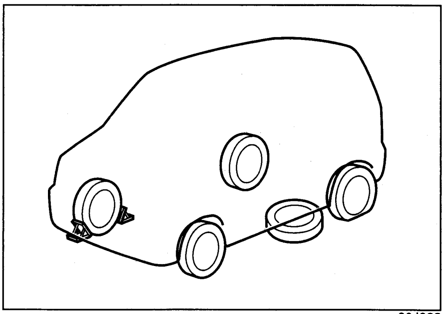
   必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



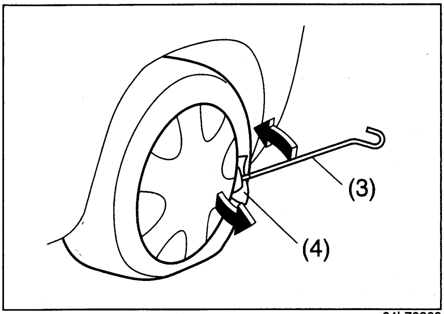
80J1245

4 工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。


80J323

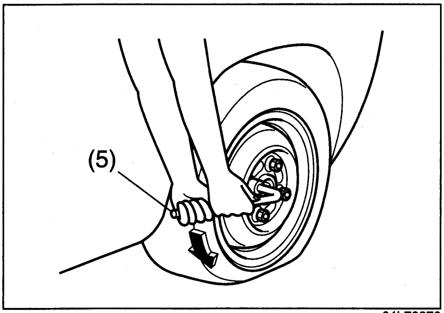
アドバイス
- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出した応急用スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。
- ホイール表面の傷つきを防ぐため、応急用スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にしてください。

5 フルホイールキャップを外します。
- 傷つき防止のため、ジャッキバー（3）の先端に布（4）をあてがってホイールとキャップの間に差し込み、こじて外します。



64L70260

6 ホイールナットレンチ（5）でホイールナット（4個）を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



64L70270

ジャッキアップ

⚠警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

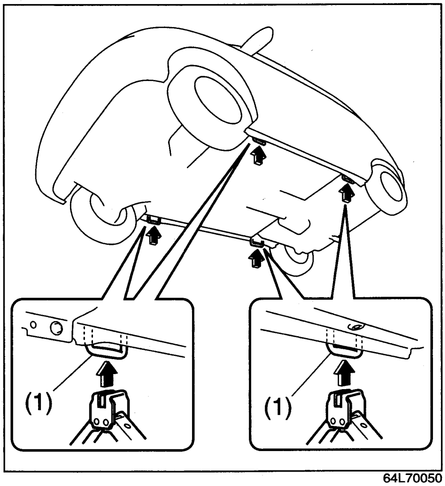
⚠注意

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- **オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。**
- **マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。**

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。



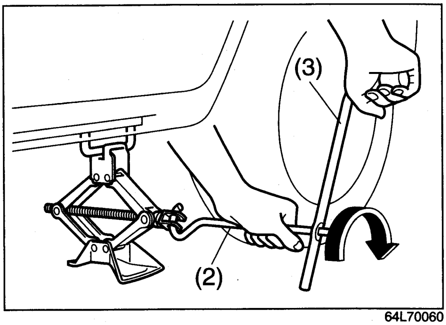
(1) 車載ジャッキ指定位置

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。（下図参照）

アドバイス

ジャッキバーは下図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



64L70060

(2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

タイヤの取付け・取外し

1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

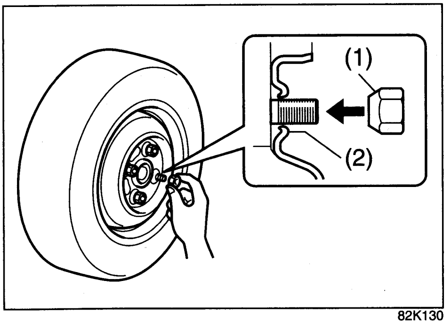
⚠注意

- **ホイールの取付け面を汚したときや汚れがあるときはふき取ってください。汚れがあると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。**
- **ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。**

アドバイス

ホイール表面の傷つきを防ぐため、タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にしてください。

2 ホイールナットのテーパー部（1）が、ホイール穴のシート部（2）に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

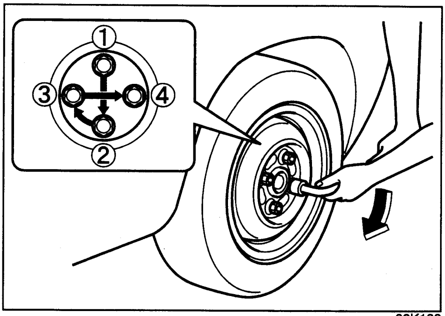


82K130

3 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

4 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを下図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m (870 kgf・cm)



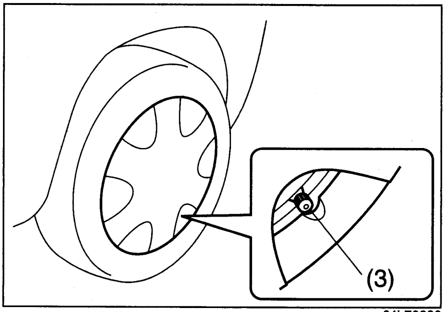
82K132

⚠注意

ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は330 N（34 kgf）を目安にしてください。ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを使って締め付けたりすると、ナットを締め過ぎてボルトが折れるおそれがあります。

5 フルホイールキャップを付けます。

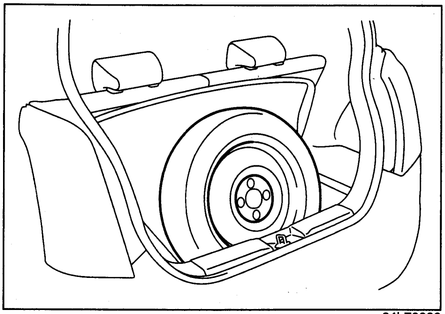
- タイヤの空気注入口 (3) とキャップの切り欠き部分を合わせてから、確実に押し込みます。



64L70280

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- パンクした標準タイヤは、応急用スペアタイヤの収納場所に収納できません。ホイール表面を上向きにして、下図のように斜めにした状態で収納してください。


64L70080

⚠注意

- **タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。**
- **タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、マツダ販売店にご連絡ください。**

7

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーがあがっています。

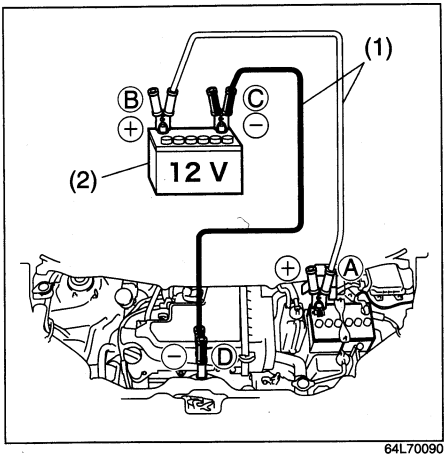
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用している他のバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1本目のブースターケーブルをⒶ→Ⓑの順序で接続し、2本目のブースターケーブルをⒸ→Ⓓの順序で接続します。

Ⓐ バッテリーあがり車の ⊕ 端子
Ⓑ バッテリー正常車の ⊕ 端子
Ⓒ バッテリー正常車の ⊖ 端子
Ⓓ バッテリーあがり車のエンジン本体（エンジンハンガーフックなど）



(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー

2 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

3 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

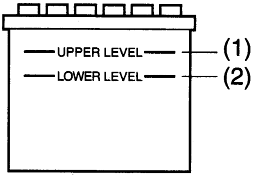
4 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

7

5 お近くのマツダ販売店またはガソリンスタンドでバッテリーを完全充電します。

⚠警告

- **バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。**
  - **バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限 (2) 以下のままで充電などすると、バッテリーの発熱や爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。**
    バッテリー補充液を上限 (1) まで補給してから、充電などを行なってください。



80J1267

  - **充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。**
  - **Ⓓの接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発するおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。**
  - **乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。**

⚠注意

- **ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、V ベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。**
- **ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。**
- **オートマチック車 は押しがけができません。マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。**

バッテリーあがりを防ぐためには

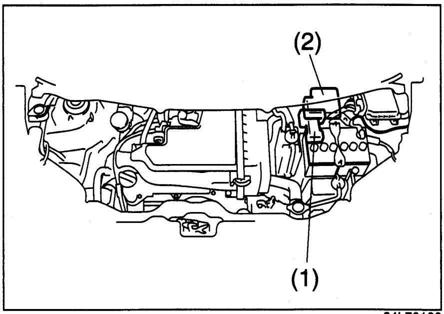
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ラジオなどを聞いたりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
  → **2-3ページ**
  (バッテリーの液面を点検する)

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。

エンジンルーム内のヒューズ

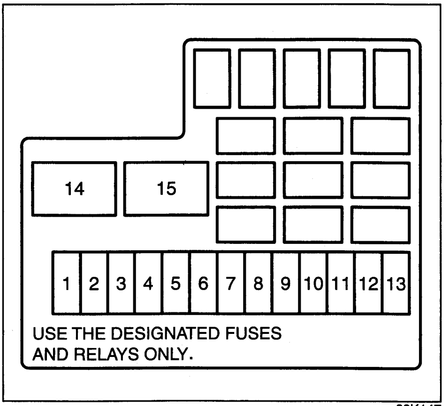


64L70100

(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス

■ リレーボックス内のヒューズ

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。



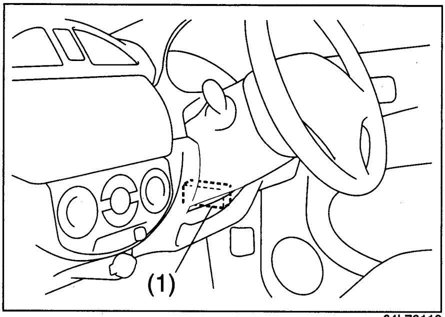
82K147

- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。
- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	H/L	25A	ヘッドライト
2	—	—	—
3	H/L R	15A	ヘッドライト(右)
4	H/L L	15A	ヘッドライト(左)
5	THR MOT	15A	スロットルモーター
6	FI	15A	燃料噴射装置
7	CVT	15A	CVT
8	FOG /CNR LP	15A	—
9	—	—	—
10	CPRSR	10A	コンプレッサー
11	RDTR	30A	ラジエーターファン
12	PSD R	20A	—
13	PSD L	20A	—
14	H/L HI/SOL R	15A	—
15	H/L HI/SOL L	15A	—

7

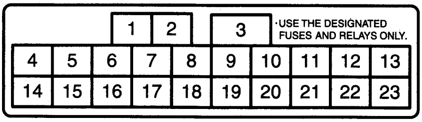
運転席足元のヒューズ



64L70110

(1) 運転席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズの近くにあります。



82K149

- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	ST	30A	スターター
2	B/U	25A	室内灯 オーディオ
3	P/W	30A	パワー ウインドー
4	注)P/W T	20A	パワーウインドー タイマー機能
5	BLW	25A	ブロワー ファン
6	D/L	20A	ドアロック
7	BCM	10A	BCM
8	RADIO	15A	ラジオ
9	HTR	10A	ヒーター
10	WIP	15A	ワイパー
11	BACK	10A	後退灯
12	A/B	10A	エアバッグ
13	ACC	15A	アクセサリー ソケット
14	RR DEF	20A	リヤ デフォッガー
15	STL	15A	電動ハンドル ロック
16	STOP	10A	制動灯
17	HORN HAZ	15A	ホーン 非常点滅灯
18	TAIL	10A	尾灯

位置	表示	容量	接続先名称
19	DOME	10A	室内灯
20	IG1 SIG	10A	パワーステアリング
21	MTR	10A	メーター
22	IG COIL	15A	イグニッションコイル
23	ABS/ESP	10A	ABS

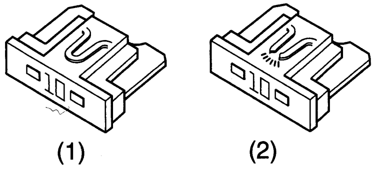
注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→ **3-21 ページ（はさみ込み防止機構の初期設定のしかた）**

ヒューズの点検と交換

- ヒューズは、マツダ販売店でご購入ください。
- ヒューズ抜き（低背ヒューズ用）は、カーショップなどでご購入ください。

点検のしかた

1. エンジンスイッチを LOCK （OFF）にします。
2. エンジンルーム内のリレーボックスでは、リレーボックスのカバーを外します。
3. 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。
4. 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。



(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

注意

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

アドバイス

交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

[illegible]

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯は他の人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅灯の電球切れが考えられます。
- ヘッドライトや制動灯などは、雨天走行や洗車などで一時的にレンズ内面がくもることがあります。
  これはランプ内外の温度差によるもので、機能上の問題はありません。（雨天時などに窓ガラスがくもるのと同じ現象）
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

7

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-3ページ**）をご覧ください。

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **電球が十分に冷えてから行なってください。消灯直後は熱くなるため、やけどのおそれがあります。とくにハロゲン電球（ヘッドライト）が高温になります。また、エンジンルーム内の電球は、エンジンが十分に冷えてから交換してください。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**

51K0180

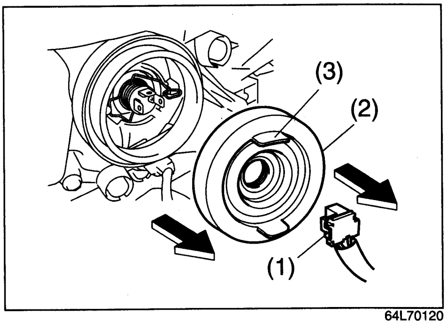
アドバイス

- ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。
- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ヘッドライト

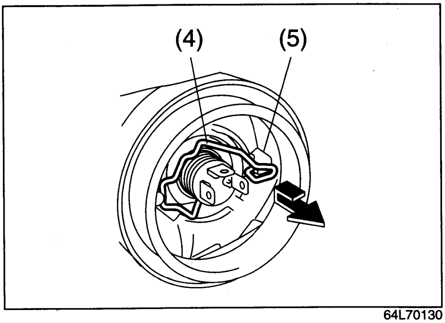
1 ボンネットを開きます。
→ **5-25ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へ引いて外します。
ゴムカバー（2）は、ツマミ（3）を引いて外します。



64L70120

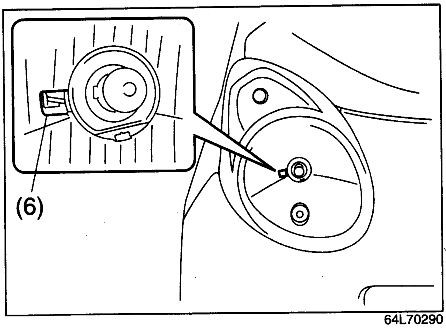
3 止め金（4）を図の矢印のように、押しながら下方にずらして固定フック（5）から外します。



64L70130

アドバイス

止め金の固定状態は、電球近くの穴（6）をとおして車両前方からも確認できます。



64L70290

4 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

方向指示器／非常点滅灯（フェンダーもしくはドアミラー）

アドバイス

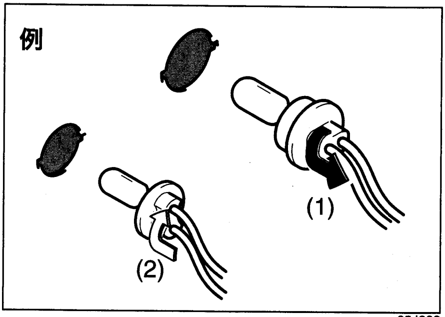
非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

その他の一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取外し／取付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取外し／取付け

- ソケットをランプ本体から取り外すとき（1）は、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるとき（2）は、ソケットをランプ本体の切り欠きに合わせて差し込み、時計方向にまわします。

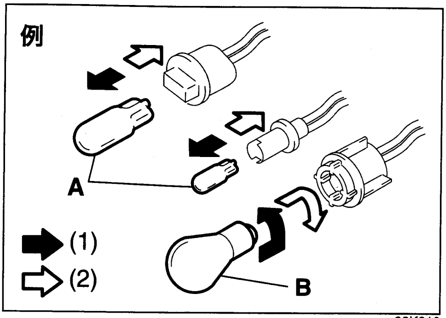


65J283

■ 電球の取外し／取付け

2つのタイプがあります。

- A のタイプは、図のように抜き差しするだけです。
- Bのタイプは、次のようになります。
  - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
  - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。

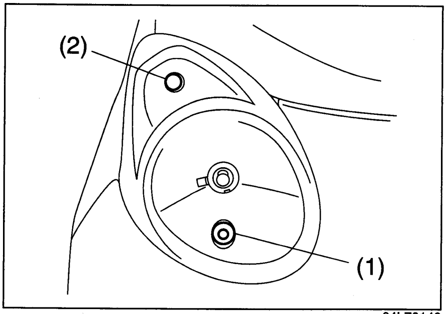


82K210

(1)取外し
(2)取外け

■ 車幅灯、方向指示器／非常点滅灯（前面）

ボンネットを開き、エンジンルーム内から交換します。



64L70140

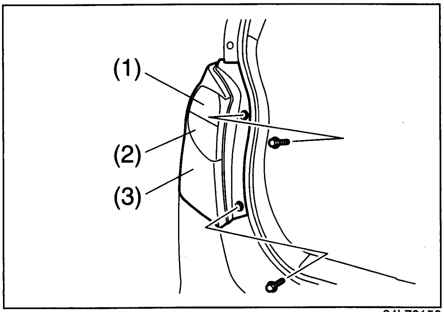
(1)車幅灯(Aタイプ)
(2)方向指示器／非常点滅灯
(前面、Aタイプ)

7

■ リヤコンビネーションランプ

ランプ全体を外してから交換します。

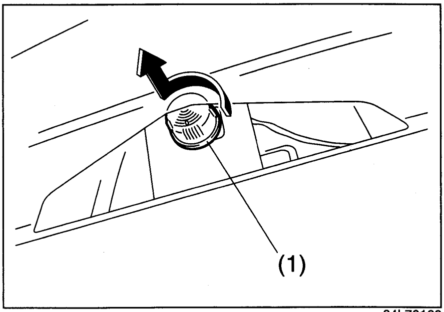
- ボルト 2 個は、バックドアを開けてからプラスドライバー（市販品）などで外します。



(1)方向指示器／非常点滅灯
（後面、Bタイプ）
(2)後退灯（Aタイプ）
(3)制動灯／尾灯（Bタイプ）

■ 番号灯（Aタイプ）

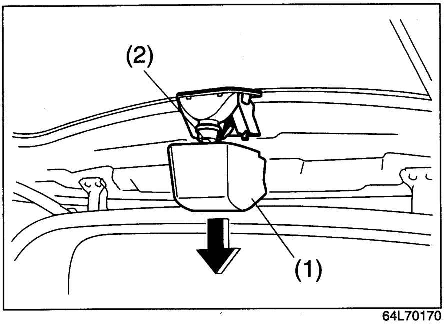
レンズ（1）を反時計方向にまわして外してから交換します。



■ ハイマウントストップランプ

カバー（1）を外してから交換します。

- カバーはバックドアを開けてから、図の矢印方向へスライドさせて外します。



(2)ハイマウントストップランプ
（Bタイプ）

アドバイス

カバーを外すときは、必ず図の矢印方向へスライドさせてください。矢印方向以外の場合、カバーのツメが破損するおそれがあります。

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- メーター内の水温警告灯が点灯
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。

7

水温警告灯

82K082

メータパネル内にあります。

- エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは点灯します。
  → **3-52ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。
→ **5-25ページ（ボンネット）**

3 冷却ファンの作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。

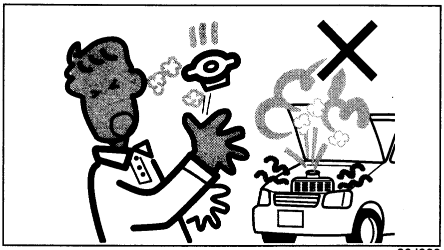
アドバイス

冷却ファンが作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠ 警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



80J066

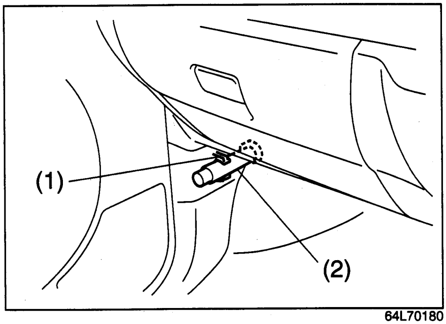
5 冷却水の量が不足しているときは補給します。

アドバイス

- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補給したときは、できるだけ早くマツダ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。
- 水漏れなどの異常があるときは、マツダ販売店にご連絡ください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はマツダ販売店でご購入ください。



64L70180

(1) ホルダー　(2) 発炎筒

⚠ 警告

- **お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。**
- **必ずホルダーに保管してください。**
- **点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。**
- **ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。**
- **トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅灯をご使用ください。**

もしも故障したときは

故障したときの連絡先は

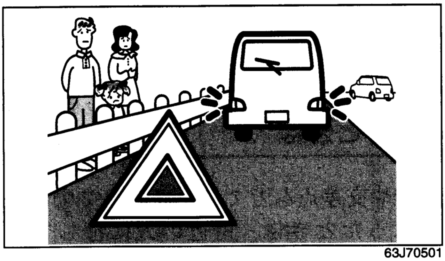
お買い求めのマツダ販売店にご連絡ください。マツダ販売店および JAF の連絡先は、別冊の「**サービス網　お客様相談窓口**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。



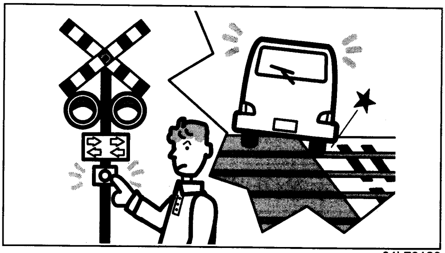
63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

7

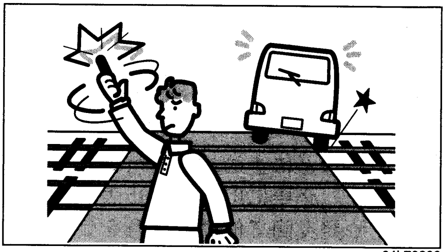
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

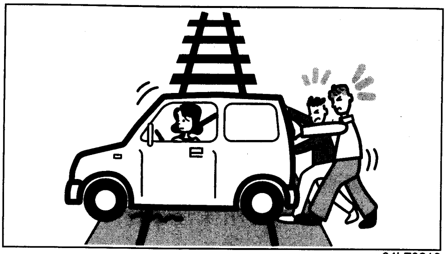
踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れ、マニュアル車 はチェンジレバーをＮ（ニュートラル）に入れます。



64L70210

アドバイス

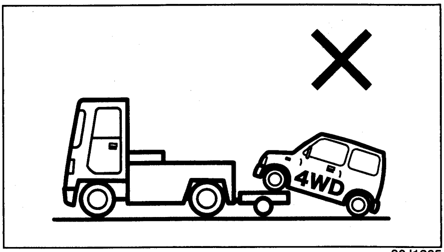
マニュアル車 、オートマチック車 ともエンジンスイッチを START の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

けん引してもらうときは

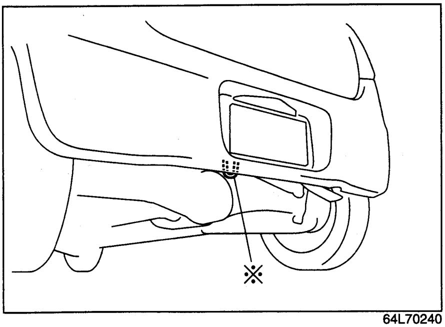
- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず４輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、マツダ販売店にご連絡ください。

⚠注意

4WD 車は、前輪だけまたは後輪だけを台車にのせた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛びだすなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



80J1265



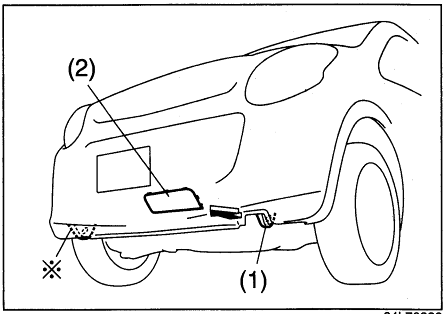
64L70240

ロープけん引

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フック（1）にかけます。

- けん引フックカバー（2）は、手でつまむようにして引き抜きます。



64L70230

アドバイス

- この車で他車をけん引することはできません。
- フロント側およびリヤ側に装備されている※印のフックは、車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。

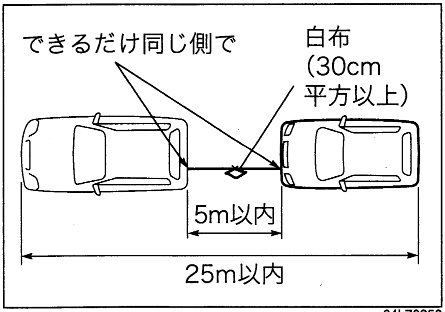
ロープでけん引してもらうときは

1 けん引フックにロープをかけます。

アドバイス

- けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。
- 車にロープをかけるときは、できるだけ同じ側にかけてください。

2 ロープの中間に白い布（30 cm平方以上）をつけます。



64L70250

3 エンジンがかかるときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリング装置を働かせるため、エンジンをかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、ハンドルがロックされてしまうのを防ぐため、エンジンスイッチを LOCK（OFF）以外の位置にします。ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。

⚠注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。
マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でも、セレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、**4-16 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープでけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

エンジンが停止した車の運転は

- **けん引中に、キーを抜いたりエンジンスイッチを LOCK（OFF）の位置にしたりしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠注意

オートマチック車 をやむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度 30 km/h 以下、走行距離 30 km 以内にしてください。

アドバイス

後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅灯を点滅させてください。

7

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

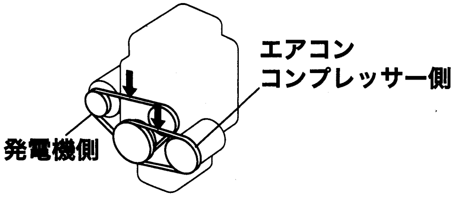
後遺症が出るおそれがあります。

MEMO

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="4">デ　ー　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">燃料</td><td>使用燃料</td><td colspan="4">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td>タンク容量</td><td colspan="4">30 L</td></tr>
<tr><td rowspan="6">エンジンオイル</td><td rowspan="4">グレード</td><td>純正モーターオイル
ゴールデンSM</td><td>SM</td><td>10W-30</td><td>−25～40</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイル
ゴールデンSL</td><td>SL</td><td>5W-30</td><td>−30～40</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイル
ゴールデンSM</td><td>SM</td><td>5W-30</td><td>−30～40</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイル
ゴールデンECO</td><td>SM</td><td>0W-20</td><td>−35～40</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>オイル交換時</td><td colspan="3">2.7 L</td></tr>
<tr><td>オイル、オイルフィルター同時交換時</td><td colspan="3">2.9 L</td></tr>
<tr><td rowspan="6">トランスミッションオイル</td><td rowspan="3">グレード</td><td>MT車</td><td colspan="3">ロングライフギヤオイル　75W-90 (GL-4)</td></tr>
<tr><td>4AT車</td><td colspan="3">ATF（M-III）</td></tr>
<tr><td>CVT車</td><td colspan="3">CVT グリーン1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">規定量</td><td>MT車</td><td colspan="3">2.7 L</td></tr>
<tr><td>4AT車</td><td colspan="3">4.5 L</td></tr>
<tr><td>CVT車</td><td colspan="3">6.2 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">トランスファーオイル(4WD車)</td><td>グレード</td><td colspan="4">ロングライフハイポイドギヤオイル　80W-90 (GL-5)</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">0.5 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リヤデファレンシャルオイル(4WD車)</td><td>グレード</td><td colspan="4">ロングライフハイポイドギヤオイル　80W-90 (GL-5)</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">1.0 L</td></tr>
<tr><td rowspan="4">冷却水</td><td>グレード</td><td colspan="4">マツダ純正スーパーロングライフクーラント（青）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">規定量</td><td>MT車</td><td colspan="3">3.0 L</td></tr>
<tr><td>4AT車</td><td colspan="3">3.3 L</td></tr>
<tr><td>CVT車</td><td colspan="3">3.2 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ウォッシャー液</td><td>グレード</td><td colspan="4">ウインドーウォッシャー液</td></tr>
<tr><td>タンク容量</td><td colspan="4">1.5 L</td></tr>
<tr><td>ブレーキ液</td><td>グレード</td><td colspan="4">ブレーキフルード　BF-3（DOT-3）</td></tr>
</table>

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のATオイル、CVTオイル、冷却水、ブレーキ液は絶対に入れないでください。

8

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th colspan="3">データ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スパークプラグ</td><td>タイプ</td><td colspan="3">NGK：LKR7BI8（イリジウム）
DENSO：IXU22HPR（イリジウム）</td></tr>
<tr><td>電極のすき間</td><td colspan="3">0.7～0.8 mm</td></tr>
<tr><td>バッテリー</td><td>タイプ</td><td colspan="3">38B20L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダル</td><td>遊び</td><td colspan="3">1～8 mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすき間</td><td colspan="3">62 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クラッチペダル</td><td>遊び</td><td colspan="3">15～20 mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすき間</td><td colspan="3">56～76 mm（クラッチが切れたとき）</td></tr>
<tr><td>パーキングブレーキレバー</td><td>引きしろ</td><td colspan="3">4～9 ノッチ〔操作力 200 N （20 kgf）〕</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フロントブレーキ</td><td rowspan="2">ディスク厚さ(※)</td><td colspan="2">基準値（新品時）</td><td>11.0 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">限度値</td><td>10.0 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リヤブレーキ</td><td rowspan="2">ドラム内径(※)</td><td colspan="2">基準値（新品時）</td><td>180.0 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">限度値</td><td>182.0 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Vベルト</td><td rowspan="5">たわみ量〔100N(10kgf)で押したとき〕</td><td rowspan="2">エアコンコンプレッサー側</td><td>新品時</td><td>6～7 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>7～8 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発電機側</td><td>新品時</td><td>7～8 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>10～12 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">

82K162</td></tr>
<tr><td>ハンドル</td><td>遊び</td><td colspan="3">0～30 mm（ホイール外周）</td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td>ローテーション</td><td colspan="3">5,000 km走行ごと</td></tr>
</table>

※点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。マツダ販売店にご相談ください。

■ 電球の容量

名称			ワット数（型式）	名称	ワット数（型式）
ヘッドライト			60/55W(H4)	制動灯／尾灯	21W/5W(P21/5W)
車幅灯			5W(W5W)	後退灯	16W(W16W)
方向指示器／非常点滅灯	前面		21W(WY21W)	番号灯	5W(W5W)
	側面（※）	フェンダー	5W	室内灯	8W
		ドアミラー	LED	ハイマウントストップランプ	21W(P21W)
	後面		21W(PY21W)		

※側面の方向指示器／非常点滅灯は、ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

タイヤの種類	タイヤサイズ	空気圧
標準タイヤ	145/80R13 75S	240 kPa(2.4 kgf/cm^2)
応急用スペアタイヤ	T105/90D12	420 kPa(4.2 kgf/cm^2)
	T115/70D14	

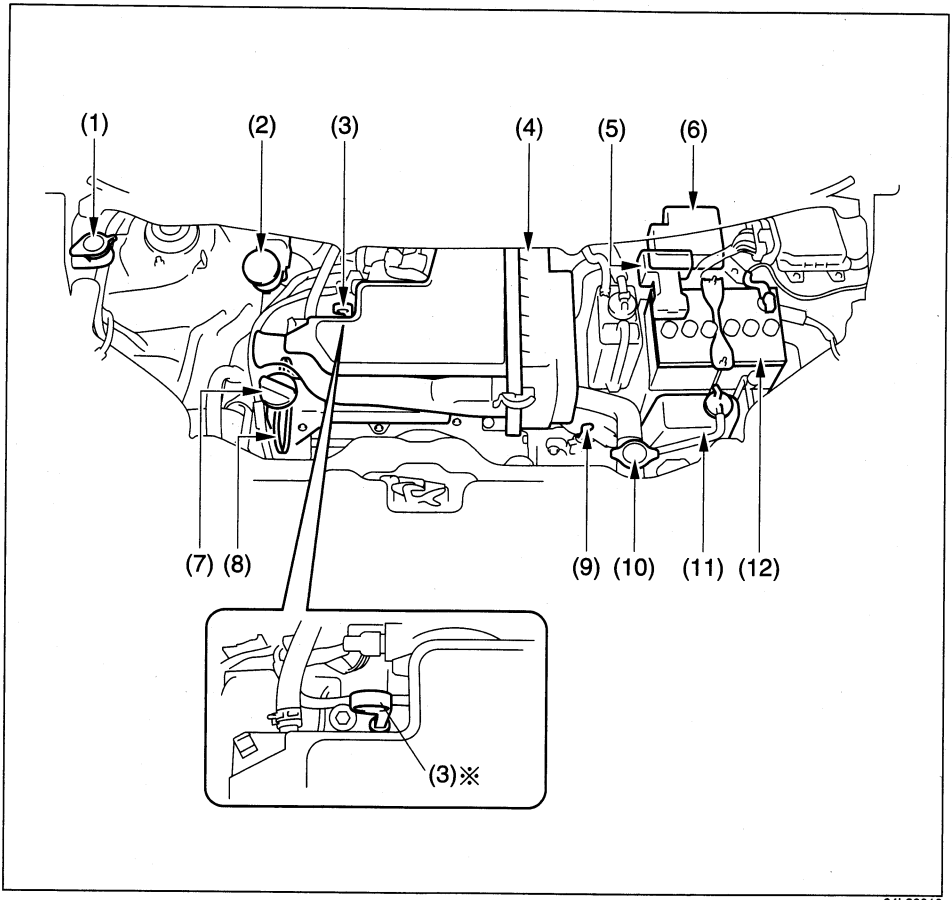
ホイールのサイズ

タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	オフセット	取付ピッチ円直径(PCD)
145/80R13 75S	13×4.00B	45 mm	100 mm

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて



太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ウォッシャータンク**
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク**
(3) **エンジンオイルレベルゲージ(※)**
(4) エアクリーナー
(5) メインヒューズボックス
(6) リレーボックス
(7) エンジンオイルフィラーキャップ
(8) Vベルト
(9) CVT(AT)オイルレベルゲージ
(10) ラジエーターキャップ
(11) **冷却水リザーバータンク**
(12) **バッテリー**

※エンジンオイルレベルゲージは、上図で示す向きで差し込んでください。
向きが異なると、エアクリーナーケースと干渉したり、差し込み不十分となったりするおそれがあります。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー → **3-18ページ**	はさみ込み防止機能 → **3-21ページ**	バッテリー端子やヒューズ（**7-13ページ**参照）を外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

セキュリティーアラーム以外の設定切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム（タイプ別装備）	プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステムの各発信機の機能 → **2-24ページ**	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告灯の点灯（約15秒間） → **3-12ページ**	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） → **4-7ページ、4-10ページ**	なし	あり
アンサーバック機能 → **3-10ページ**	非常点滅灯／室内灯による合図	非常点滅灯/室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図（プッシュボタンスタート&アドバンストキーレスエントリーシステム装備車のみ）	あり	なし
セキュリティアラーム → **3-16ページ**	セキュリティアラームモード	警報モード	警報なしモード
パーキングブレーキ → **4-12ページ**	パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザーの吹鳴（ピピピッ、ピピピッ、）	あり	なし

8

MEMO

数字

4WD車の運転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-22

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-54、4-27
装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-24
ACC表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-59、4-4
AT(運転) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-19
AT(セレクトレバー) ・・・・・・・・・・・・ 4-14

C

CDプレーヤー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-8
CVT(運転)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-19
CVT(セレクトレバー) ・・・・・・・・・・ 4-14

E

EDR(イベントデータレコーダー)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-48

I

IG ON表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-60、4-4
ISOFIX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-32
ISOFIXアンカー ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-32

O

O/D(オーバードライブ)
OFF表示灯・・・・・・・・・・・・・・・ 3-58、4-17
O/D(オーバードライブ)
スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-16

R

R(リバース)ポジション
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・ 2-20、4-19

S

S(スポーツ)モードスイッチ・・・・・・ 4-17
S(スポーツ)モード表示灯・・・3-59、4-17
SRSエアバッグ警告灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-38、3-47、3-54
SRSエアバッグシステム ・・・・2-21、3-40

ア

アクセサリーソケット ・・・・・・・・・・・ 5-30
アルミホイール
タイヤ交換の準備 ・・・・・・・・・・・・・・ 7-4
タイヤチェーン ・・・・・・・・・・・・・・・ 6-11
アンサーバック機能 ・・・・・・・・・・・・ 3-10
アンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7

イ

イベントデータレコーダー
(EDR) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-48
イモビライザー警告灯 ・・・・・・・3-57、4-3
イモビライザーシステム ・・・・・・・・・・ 4-3
インパネアンダートレイ
(運転席)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-31
インパネトレイ(助手席) ・・・・・・・・・ 5-31

ウ

ウインドー
ウインドーロックスイッチ ・・・・・ 3-19
後席ウインドー ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-20
バックウインドーガラスの
手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-4
パワーウインドー ・・・・・・・・・・・・・ 3-18
フロントウインドーガラスの
手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-3
ウェアインジケーター ・・・・・・・・・・・ 6-5
ウォッシャー液 ・・・・・・・・・・・・・・ 6-6、8-1
ウォッシャースイッチ ・・・・・・・・・・・ 3-64

エ

エアコン
　吹出し口 …… 5-2
　マニュアルエアコン …… 5-3
エコドライブ …… 2-26
エンジンオイル …… 2-26、3-56、8-1
エンジンキー …… 3-2
エンジン警告灯 …… 3-55
エンジンスイッチ …… 4-2
エンジンスイッチ照明 …… 4-5
エンジンスイッチもどし忘れ
　警告ブザー …… 4-12
エンジンのかけかた …… 4-8
エンジンフード(ボンネット) …… 5-25
エンジンブレーキ …… 2-12
エンジンルームをのぞいて …… 8-4
エンスト …… 7-20

オ

オイル(エンジンオイル)
　…… 2-26、3-56、8-1
応急用スペアタイヤ
　収納場所 …… 7-2
　取り出しかた、取扱い …… 7-3
オーディオ …… 5-7
オートマチック車
　運転 …… 4-20
　セレクトレバー …… 4-14
オーバードライブ(O/D)
　OFF表示灯 …… 3-58、4-17
オーバードライブ(O/D)
　スイッチ …… 4-16
オーバーヒート …… 7-17
お子さまを乗せるときは …… 2-5
オドメーター(積算距離計) …… 3-50

カ

外気導入 …… 5-5
外装のお手入れ …… 6-2
ガソリン(燃料) …… 2-19、8-1
仮眠するときは …… 2-16
冠水した場所 …… 2-14
寒冷時の取扱い …… 6-6

キ

キー(エンジンキー) …… 3-2
キーインターロック …… 4-18
キースイッチ(エンジンスイッチ) …… 4-2
キーナンバープレート …… 3-3
キーレスエントリー …… 3-8
キックダウン …… 4-18、4-22
キャップホルダー …… 5-25
給油 …… 2-18、5-24、8-1

ク

空気圧 …… 8-3
くもり取り(デフロスター) …… 5-2
くもり取り(リヤデフォッガー) …… 3-66
クラッチスタートシステム …… 4-9
クリープ現象 …… 2-19、4-18
車のお手入れ …… 6-2
グローブボックス …… 5-30

ケ

警告灯・表示灯の見かた …… 3-52
警告ブザー
　R(リバース)ポジション
　　警告ブザー …… 2-20、4-19
　エンジンスイッチもどし忘れ
　　警告ブザー …… 4-12
　キー抜き忘れ警告ブザー …… 4-11
　警告ブザーが鳴ったときは …… 1-9
　携帯リモコン車外持ち出し警告 …… 4-6
　シートベルト警告ブザー …… 3-35
　パーキングブレーキ解除忘れ
　　警告ブザー …… 4-13
　ハンドルロック未作動
　　警告ブザー …… 4-12
　ライト消し忘れ警告ブザー …… 3-61
　リクエストスイッチ未作動
　　警告ブザー …… 3-14
携帯電話 …… 2-11

9

携帯リモコン…………………… 3-11
携帯リモコン車外持ち出し警告……4-6
携帯リモコン電池消耗警告灯
……………………… 3-12、3-58
携帯リモコン閉じ込み防止機能… 3-14
警報装置…………………… 3-16
けん引……………………… 7-20

コ

工具…………………………7-2
光軸調整ダイヤル………… 3-62
後席シート………………… 3-28
航続可能距離……………… 3-51
故障したときは…………… 7-19
コンソールポケット……… 5-32

サ

サービスデータ………………8-1
サンバイザー……………… 5-27

シ

シートバックポケット…… 5-33
シートヒーター(運転席)…… 3-28
シートヒータースイッチ
(運転席のみ)…………… 3-28
シートベルト……………… 3-34
シートベルト警告灯……… 3-53
シートベルト警告ブザー… 3-35
シートベルトプリテンショナー… 3-37
事故が起きたときは……… 7-23
室内灯……………………… 5-28
シフトダウンの上限速度… 4-13
シフトロック…………… 4-15、4-23
ジャッキ(収納場所)…………7-2
ジャッキアップ
(タイヤチェーン)……… 6-12
ジャッキアップ
(パンクしたとき)…………7-6
集中ドアロック
(パワードアロック)…………3-7
充電警告灯………………… 3-56
樹脂部品などの手入れ………… 6-4
出発の前に ………………… 2-2
ジュニアシート ………2-5、3-43、2-6
瞬間燃費 …………………… 3-50
照明付きバニティミラー ……… 5-28
初期設定 …………………… 8-5
ショッピングフック ………… 5-34

ス

水温警告灯 ……………3-55、7-18
スタック(立ち往生) ………… 2-15
スノーブレード …………… 6-6
スピードメーター(速度計) ……… 3-49
スペアタイヤ(応急用スペアタイヤ)
収納場所 ………………… 7-2
取り出しかた、取扱い ……… 7-3
スポーツ(S)モードスイッチ…… 4-17
スポーツ(S)モード表示灯…3-59、4-17

セ

セキュリティアラーム ………… 3-16
設定切替え(カスタマイズ) …… 8-5
セレクトレバー
位置表示灯 ……………… 3-58
操作 ……………………… 4-14
洗車 ……………………… 6-2
前照灯(ヘッドライト)
……………… 3-60、7-15、8-3
前席シート ………………… 3-25

ソ

走行中の注意 ……………… 2-10
速度計(スピードメーター) …… 3-49

タ

タイマーロック機能 ……………3-10
タイヤ
　空気圧 ……………………8-3
　交換したあとは ……………7-8
　交換するときは ……………6-5
　交換の準備 …………………7-4
　チェーン ……………6-11、8-3
　冬用タイヤ …………………6-9
　ホイールサイズ ……………8-3
　ローテーション ……………6-5
　輪止め ………………2-15、6-7
立ち往生(スタック) …………2-15
暖機運転 ……………………2-27

チ

チェーン(タイヤチェーン) …6-11、8-3
チェンジレバー ………………4-13
チケットホルダー
　(サンバイザー) ……………5-27
チャイルドシート …………2-5、2-6
チャイルドシート固定専用金具 …3-32
チャイルドプルーフ …………3-8
駐車するときは ……2-15、4-23、6-10
チルトステアリング …………3-24

テ

停止表示板 ……………………7-19
低水温表示灯 …………………3-59
デフロスター …………………5-2
電球
　電球の交換(ランプ類) ………7-14
　電球の点検 …………………7-14
　ワット数(ランプ類) …………8-3
点検 ……………………2-2、8-1
電源が切り替わらないときは ……4-6
電源の切替え …………………4-5

ト

ドア……………………………3-4
ドアの開閉……………………3-2
ドアミラー……………………3-23
ドアミラー角度調節スイッチ……3-23
ドアミラー格納スイッチ…………3-24
ドアミラーヒータースイッチ……3-24
ドアロック解除機能……………3-7
凍結防止剤……………6-2、6-10
凍結路…………………………6-9
登降坂変速制御………………4-18
トランスミッション警告灯………3-57
トリップメーター(区間距離計)…3-50
ドリンクホルダー………………5-32

ナ

内気循環………………………5-5
内装のお手入れ………………6-4

ニ

日常点検………………………2-2

ネ

燃費
　瞬間燃費……………………3-50
　平均燃費……………………3-51
燃料…………………2-19、8-1
燃料給油口……………………5-24
燃料計…………………………3-49
燃料残量警告灯………………3-54
燃料タンク容量………………8-1

ハ

パーキングブレーキ
　解除忘れ警告ブザー…………4-13
　寒冷時の取扱い……………6-10
　操作…………………………4-12
　ブレーキ警告灯……………3-53
ハイドロプレーニング現象……2-14

9

ハイマウントストップランプ
…………………………… 7-17、8-3
はさみ込み防止機構……………… 3-20
発炎筒………………………… 7-19
バックウインドーガラス
室内側の手入れ……………………6-4
バックミラー(ルームミラー)…… 3-22
バッテリー…………………………2-3
バッテリーあがり…………………7-9
バニティミラー(サンバイザー)… 5-28
パワーウインドー………………… 3-18
パワーステアリング警告灯……… 3-56
パワードアロック…………………3-7
パンク(タイヤ交換)………………7-4
番号灯……………………… 7-17、8-3
半ドア警告灯…………………… 3-57
ハンドルロック未作動警告ブザー
…………………………………… 4-12

ヒ

ヒーター(エアコン)
吹出し口……………………………5-2
非常点滅灯………………… 7-15、8-3
非常点滅灯スイッチ……………… 3-63
必読!…………………………………2-2
ヒューズ切れ…………………… 7-11
日よけ(サンバイザー)…………… 5-27
ピラーアンテナ……………………5-7

フ

ブースターケーブル………………7-9
プッシュ表示灯……………… 3-59、4-4
プッシュボタンスタート&アドバンスト
キーレスエントリーシステム……4-4
フットレスト……………………… 5-34
フューエルキャップ……………… 5-24
フューエルリッド………………… 5-24
フルホイールキャップ(取付け)……7-8
フルホイールキャップ(取外し)……7-5
ブレーキ
ブレーキアシスト……………… 4-27
ブレーキ液…………………………8-1
ブレーキ警告灯………………… 3-53
ブレーキ倍力装置……………… 7-22
フロントシート…………………… 3-25
フロントワイパー/
ウォッシャースイッチ………… 3-64

ヘ

平均燃費………………………… 3-51
ペースメーカー…………………… 2-24
ヘッドライト(前照灯)
…………………… 3-60、7-15、8-3
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
表示灯………………………… 3-58
ヘッドレスト
後席……………………………… 3-28
前席……………………………… 3-27
ベビーシート…………2-5、2-6、3-43

ホ

ホイールキャップ(取付け)……… 7-8
ホイールキャップ(取外し)……… 7-5
ホイールサイズ……………………… 8-3
方向指示器……………… 7-15、8-3
方向指示器スイッチ…………… 3-63
方向指示器表示灯……………… 3-58
ホーンスイッチ………………… 3-65
ボックスティッシュホルダー…… 5-30
ボンネット……………………… 5-25

マ

マニュアルエアコン……………… 5-3
万一のとき………………………… 7-1

ミ

ミラー
ドアミラー…………………… 3-23
バニティミラー……………… 5-28
ルームミラー………………… 3-22

メ

メーター
　警告灯・表示灯の見かた ········· 3-52
　メーターの見かた ·············· 3-49
メーターの照明 ·················· 3-51
メーターのディスプレイ ·········· 3-50

ユ

油圧警告灯 ······················ 3-56
雪道を走行するとき ·············· 6-9

ヨ

横風が強いときは ················ 2-13

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー ········ 3-61
ライトスイッチ ·················· 3-60
ラゲッジアンダーサイド
　ボックス ······················ 5-34
ラジエーターキャップ ······· 7-18、8-4
ランプ
　電球の交換(ランプ類) ·········· 7-14
　ハイマウントストップランプ
　　····················· 7-17、8-3
　番号灯 ························ 8-3
　非常点滅灯 ·········· 3-63、7-15、8-3
　ヘッドライト ············· 3-60、8-3
　方向指示器 ·········· 3-63、7-15、8-3
　リヤコンビネーションランプ ··· 7-17
　ワット数、型式(ランプ類) ······· 8-3

リ

リクエストスイッチ ·············· 3-13
リクエストスイッチ未作動
　警告ブザー ···················· 3-14
リクライニングレバー ············ 3-26
リバース(R)ポジション警告ブザー
　　··················· 2-20、4-19
リヤ(後席)シート ················ 3-28
リヤコンビネーションランプ
　　······················ 7-17、8-3
リヤデフォッガースイッチ ······· 3-66
リヤワイパー/ウォッシャースイッチ
　　····························· 3-65

ル

ルームミラー ···················· 3-22
ルームランプ(室内灯) ············ 5-28

レ

冷却水(ラジエーター液)
　オーバーヒート ················ 7-18
　寒冷時の取扱い ················· 6-6
　規定水量 ······················· 8-1

ワ

ワイパー
　寒冷時の取扱い ······· 6-6、6-7、6-10
　ワイパースイッチ ·············· 3-64
ワックス ························ 6-2

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ(株)コールセンター

全国共通フリーダイヤル

0120-386-919

受付時間

平日　9:00～17:00

土・日・祝日　9:00～12:00 13:00～17:00

携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社

〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地3-1

発行　2009年12月

印刷　2009年12月

220頁　初版

ZOOM-ZOOM

取扱書はご使用の前によくお読みください。
地球環境にやさしい印刷用紙を使用しています。

キサ

99011-64LA0